

茨城県教育財団文化財調査報告第403集

# 島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

平成27年3月

茨 城 県  
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第403集

しま な くま やま  
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

平成 27 年 3 月

茨 城 県  
公益財団法人茨城県教育財団

## 序

茨城県は、つくば市を世界的な科学技術研究の中核都市と位置づけ、さらには、国際交流の拠点にふさわしい都市としての整備を推進しています。その一環である「つくばエクスプレス」は平成17年に開通し、沿線開発としての土地区画整理事業が継続して進められています。

しかしながら、この事業地内には、埋蔵文化財包蔵地である島名熊の山遺跡が所在することから、これを記録保存する必要があるため、当財団が茨城県から委託を受け、平成7年4月から平成26年3月までの19年間にわたって開発区域内における埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

その成果については、既に『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』『同第133集』『同第149集』『同第166集』『同第174集』『同第190集』『同第214集』『同第236集』『同第264集』『同第280集』『同第291集』『同第322集』『同第328集』『同第360集』『同第380集』『同第389集』『同第390集』として順次刊行したところです。

本書は、島名熊の山遺跡の平成21年度から平成23年度の調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成27年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 鈴木 欣一

# 例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）が平成 21～23 年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市島名字熊ノ山 1637 番地ほかに所在する島名熊<sup>しまなくま</sup>の山遺跡<sup>やま</sup>の 4 区・8 区（一部）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。  
調査 平成21年4月1日～9月30日（4区）  
平成22年4月1日～6月30日（4区）  
平成23年4月1日～10月31日（8区）  
整理 平成26年4月1日～7月31日
- 3 発掘調査は、平成 21・22 年度が調査課長池田晃一、平成 23 年度が調査課長檜村宣行のもと、以下の者が担当した。

## 平成 21 年度

首席調査員兼班長	白田 正子	
主任調査員	酒井 雄一	平成21年4月1日～9月30日
調査員	鹿島 直樹	平成21年7月1日～9月30日

## 平成 22 年度

首席調査員兼班長	中村浩一郎	
首席調査員	小澤 重雄	平成22年4月1日～5月31日
首席調査員	酒井 雄一	平成22年4月1日～6月30日
主任調査員	大関 隆	平成22年4月1日～5月31日
調査員	宮崎 剛	平成22年4月1日～6月30日

## 平成 23 年度

首席調査員兼班長	稲田 義弘	
首席調査員	綿引 英樹	平成23年4月1日～6月30日
首席調査員	荒蒔克一郎	平成23年7月1日～9月30日
副主任調査員	清水 哲	平成23年4月1日～10月31日

整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、調査員佐藤一也が担当した。

# 凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 7,320 \text{ m}$ 、 $Y = + 20,200 \text{ m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j, 西から東へ 1, 2, 3…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付けて併記した。

3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P - ピット PG - ピット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SF - 道路跡

SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩

 火床面

 竈部材・粘土範囲・黒色処理

 柱痕跡・柱あたり

● 土器

○ 土製品

□ 石器・石製品

△ 金属製品

----- 硬化面

5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

6 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

7 竪穴建物跡の「主軸」は、竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

8 今回の報告分で、調査段階の遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下の通りである。

変更 4 区 SK6921・SK6923・SK6924 → SB572 SF 1 → SF32 SD534 → SD43

8 区 SB585・SK7110・SK7111・SK7113・SK7114・SK7115・SK7116・SK7118・SK7120・

SK7121・SK7124・SK7126・SK7131・SK7127・SI3127 P 2 → SB599

SK7123・SK7125・SK7128・SK7130・SK7140・SK7141 → PG88 SD572 → SD590

欠番 4 区 SK7119

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
島名熊の山遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と地形	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	12
第1節 調査の概要	12
第2節 基本層序	12
第3節 4区の遺構と遺物	13
1 古墳時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴建物跡	13
(2) 掘立柱建物跡	32
(3) 土坑	34
2 その他の遺構と遺物	35
(1) 竪穴建物跡	35
(2) 土坑	36
(3) 道路跡	37
(4) 溝跡	38
(5) ピット群	39
第4節 8区の遺構と遺物	41
1 古墳時代の遺構と遺物	41
(1) 竪穴建物跡	41
(2) 掘立柱建物跡	57
2 奈良時代の遺構と遺物	59
竪穴建物跡	59
3 平安時代の遺構と遺物	68
竪穴建物跡	68

4 その他の遺構と遺物 .....	70
(1) 竪穴建物跡 .....	70
(2) 土坑 .....	71
(3) 溝跡 .....	73
(4) ピット群 .....	76
(5) 遺構外出土遺物 .....	77
第5節 まとめ .....	78
島名熊の山遺跡平成21～23年度調査遺構全体図 .....	84
写真図版 .....	PL 1～PL10

抄 録

# しまなくま やま 島名熊の山遺跡の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部、谷田川右岸の標高約 13～24 mの台地上から低地にかけて立地しています。当遺跡の調査は土地区画整理事業に伴うもので、平成7年度から平成25年度まで19年間にわたり断続的に行っています。今回報告する区域は、平成21～23年度に調査を行った面積825㎡で、当遺跡中央部の標高22～23 mの台地上にあたります。



## 調査の内容

今回の調査により、古墳時代後期の竪穴建物跡12棟、掘立柱建物跡3棟、奈良時代の竪穴建物跡3棟、平安時代の竪穴建物跡2棟などを確認しました。竪穴建物跡からは、甕かめや甑こしき、坏つきなどの日常で使う土器のほか、装飾品である勾まが玉たま（瑪瑙製）や武器である鉄鏃てつぞくなども見つかっています。



平成23年度島名熊の山遺跡調査区全景





竪穴建物跡（奈良時代）の竈の掘り込み作業



竪穴建物跡に廃棄された多量の土器



貯蔵穴に流れ込むようにして見つかった土器



奈良時代の竪穴建物跡から出土した鉄鋤

## 調査の成果

古墳時代後期の竪穴建物跡からは、建物の廃絶時に捨てられた多量の土器が出土しています。器種は様々で、<sup>たかつき</sup>坏や<sup>こがたがめ</sup>高坏、甕、甌、小形甕などがあり、当時の人々の暮らしぶりを垣間見ることができます。

また、当遺跡中央部にあたる8区では、古墳時代後期の掘立柱建物跡1棟が見つかり、<sup>けたゆき</sup>桁行が5間、<sup>はりゆき</sup>梁行が2間で、当時としては稀な大型の建物跡であることがわかりました。建物は<sup>そうばしら</sup>総柱の構造で、倉庫としての機能を考えることができます。この掘立柱建物跡から北東に100 mほど離れたところでは、平成10・12年度の調査で、桁行が5間以上の古墳時代後期の掘立柱建物跡が2棟見つかっており、これらの建物との関連性が注目されます。

今回、<sup>りつりょうたいせい</sup>律令体制直前の掘立柱建物跡が確認され、古墳時代と奈良時代をつなぐ歴史の一端をひもとくことができました。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19日～27日に現地踏査を、平成6年9月22日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、事業地内に島名熊の山遺跡が存在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第57条の3（現第94条）に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成21年2月23日、茨城県知事（茨城県企画部つくば・ひたちなか整備局つくば地域振興課長）は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成21年2月25日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成21年4月1日から9月30日まで発掘調査を実施した。

平成22年2月10日、茨城県知事（茨城県つくばまちづくりセンター長）は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成22年2月24日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年4月1日から6月30日まで発掘調査を実施した。

平成23年2月25日、茨城県知事（茨城県つくばまちづくりセンター長）は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成23年2月25日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成23年4月1日から10月31日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

島名熊の山遺跡4区の調査は、平成21年4月1日から9月30日までの6か月間、平成22年4月1日～6月30日までの3か月間、同8区は、平成23年4月1日～10月31日までの7か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	平成21年度					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備 表土除 遺構確認		13・14・15区			4区 15区		
遺構調査		13・14・15区			4区 13・14・15区		
遺物洗浄 写真整理		13・14・15区			4区 13・14・15区		
撤収							

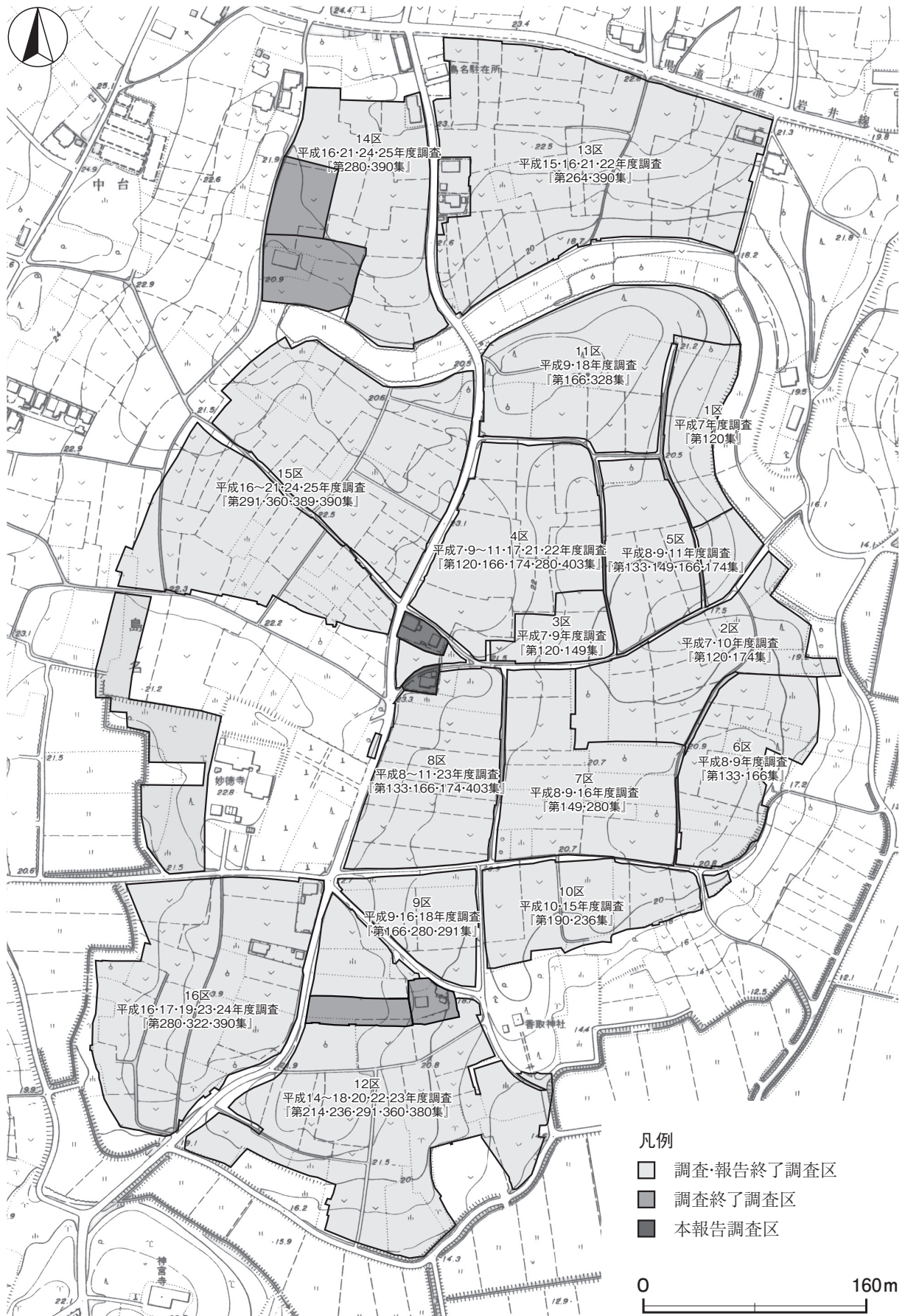
工程	期間	平成22年度		
		4月	5月	6月
調査準備 表土除 遺構確認		4・12区	12区	
遺構調査			4・12区	
遺物洗浄 写真整理			4・12区	
撤収				

※平成21年度に調査した13・14・15区については、当財団調査報告『第390集』で報告済みである。

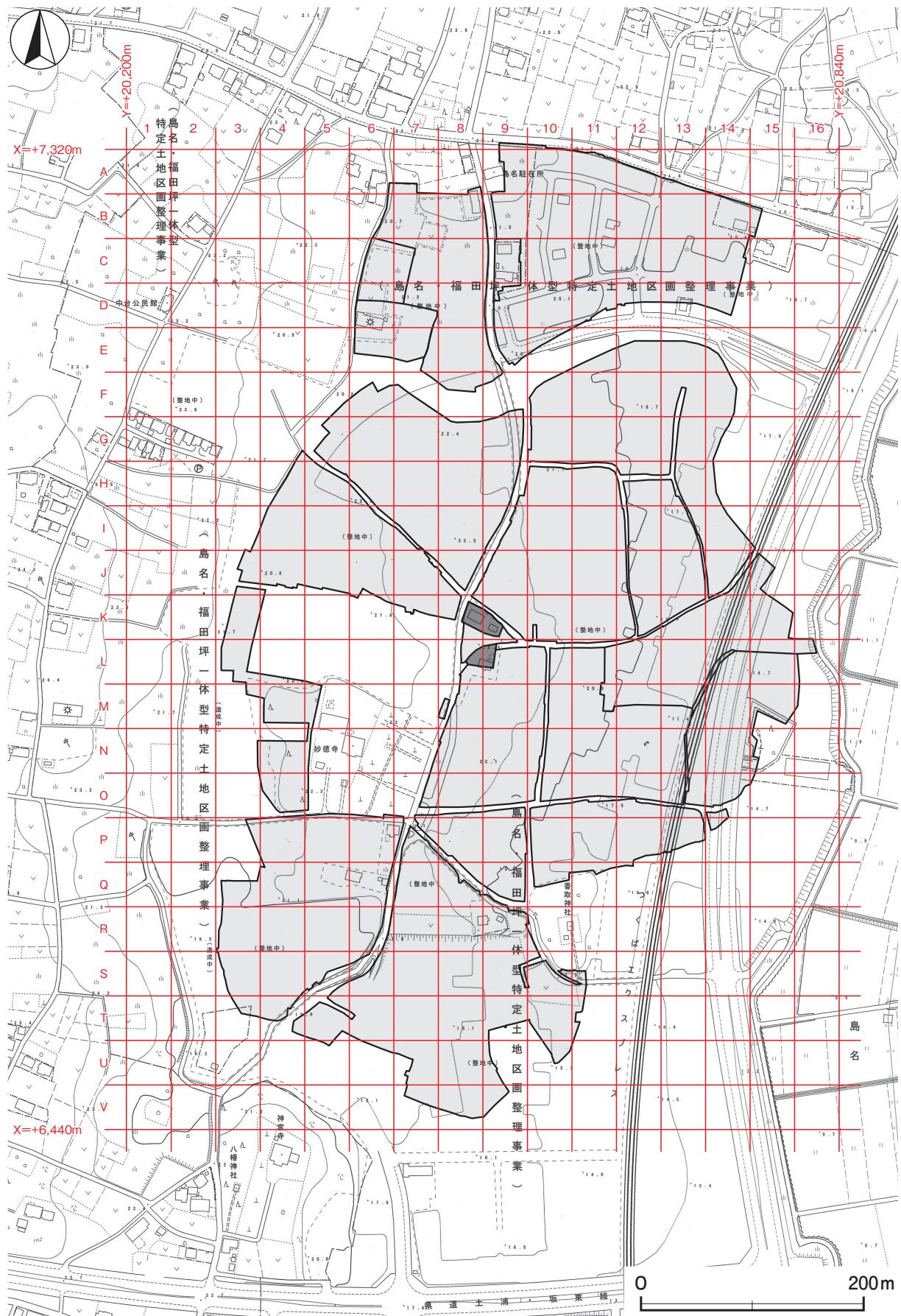
※平成22年度に調査した12区については、今後報告予定である。

工程	期間	平成23年度						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
調査準備 表土除 遺構確認		12区	8区			8区		
遺構調査			12区	8区	12区		8・12・16区	
遺物洗浄 写真整理				12区			8・12・16区	
撤収								

※調査した12区については当財団調査報告『第380集』、16区については『第390集』で報告済みである。



第1図 鳥名熊の山遺跡調査区割図（つくば市研究学園都市計画図 25,000分の1から作成）



第2図 鳥名熊の山遺跡グリッド設定図 (つくば市研究学園都市計画図 2,500 分の 1 から作成)

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

今回報告する島名熊の山遺跡のうち、平成21・22年度調査の4区は茨城県つくば市島名字熊ノ山1637番地ほか、同23年度調査の8区は茨城県つくば市島名字道前1640番地ほかそれぞれ所在している。

つくば市は筑波山を北端に、その南東へ延びる標高20～25m程の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦へ流入する桜川、西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため、台地は開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を含む海成層の成田層を基盤として、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒砂の砂礫層である竜ヶ崎層、さらに灰白色の粘土層である常総粘土層、そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている<sup>1)</sup>。

つくば市南西部の旧谷田部町島名地区は、谷田川と西谷田川によって開析された、狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は谷田川に面した標高13～24mの台地縁辺部に立地し、遺跡の範囲は南北880m、東西560mである。当遺跡を囲むように周辺には谷津が入り込み、これまでの調査からは台地上にも複数の埋没谷が入り込む様子が明らかとなっている。

今回報告する4・8区は、遺跡中央部の標高22mほどの台地上に位置している。調査前の現況は、宅地である。

### 第2節 歴史的環境

島名熊の山遺跡周辺の小貝川、西谷田川、谷田川、蓮沼川流域の台地には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、主に谷田川と西谷田川流域での遺跡について概観する。

旧石器時代は、平北田遺跡<sup>2)</sup>〈37〉、下河原崎谷中台遺跡<sup>3)</sup>〈75〉、元宮本前山遺跡<sup>4)</sup>〈77〉で石器集中地点が確認され、ナイフ形石器や角錐状石器、搔器、尖頭器をはじめ、石核や剥片などが出土している。また、島名前野東遺跡<sup>5)</sup>〈7〉、島名一町田遺跡<sup>6)</sup>〈9〉、島名境松遺跡〈10〉、島名ツバタ遺跡<sup>7)</sup>〈16〉でナイフ形石器や尖頭器、サイドスクレイパー、面野井北ノ前遺跡<sup>8)</sup>〈25〉で荒屋型彫器、当遺跡<sup>9)</sup>でナイフ形石器や尖頭器、細石刃石核などが採集されており、当地域における石器製作と狩猟生活の様子を示す資料が蓄積されている。

縄文時代は、元宮本前山遺跡で早期の炉穴、下河原崎谷中台遺跡で早期の炉穴や中期から晩期にかけての建物跡、島名ツバタ遺跡で早期と中期の建物跡やフラスコ状土坑、島名境松遺跡で中・後期の建物跡や土器焼成遺構、土坑などがそれぞれ確認されている。これらの遺跡は河川を望む台地の縁辺部に立地し、特に早期の集落が西谷田川左岸で成立する様子がうかがえる。当遺跡においても陥し穴5基のほか、16区で早期前半の捺糸文、11区で早期後半の条痕文系の土器片が出土している<sup>10)</sup>。そのほか、各調査区で前期から後期にかけての土器片や石鏃、石斧、磨石、石皿などが採集されており、当時の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく、当遺跡南部の埋没谷周辺から後期後半の土器片が採集されているだけである。出土した土器片には刃痕が認められ、当地域の稲作を考える上で興味深い<sup>11)</sup>。

古墳時代前期になると、谷田川沿いに小規模な集落が点在するようになる。島名一町田遺跡では、南関東系

の土器を伴う初期の集落が出現し、当遺跡や島名前野遺跡<sup>12)</sup>〈6〉では集落跡、島名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が確認されている。また、面野井古墳群<sup>13)</sup>〈28〉では、方形周溝墓4基と円墳1基が確認され、墳墓からは南関東系の装飾壺、及び底部穿孔壺の土師器が出土しており、谷田川上流域に南関東系の文化を持った集団が移住してきたことが明らかとなっている。

中期になると、集落が西谷田川沿いにも広がりを見せ、前述した遺跡に加えて島名ツバタ遺跡や谷田部漆遺跡〈56〉、上萱丸古屋敷遺跡<sup>14)</sup>〈57〉、真瀬三度山遺跡〈58〉などで集落跡が確認されている。特に、元宮本前山遺跡では滑石製模造品の製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡では県内初の琴柱形石製品が出土しており、注目できる。これらの集落は、台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、その立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く考えられる。

後期になると、6世紀後半以降に台地全体に集落域が拡大していく様子が確認できる。当遺跡周辺では島名八幡前遺跡<sup>15)</sup>〈3〉、島名前野遺跡、島名前野東遺跡、平北田遺跡などの集落が継続して営まれており、当遺跡の集落は、近接するこれらの遺跡と補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで存続したものと考えられる。また、当該期は古墳が急増し、当遺跡南東部の台地先端部で径約19mと約8mの円墳2基が確認されている。当遺跡周辺では島名前野古墳〈8〉、島名榎内古墳群〈13〉、島名榎内西古墳群〈14〉、島名関ノ台古墳群〈18〉、面野井古墳群、下河原崎高山古墳群〈74〉などがあり、いずれも径10～20mの小円墳からなる地域的な群集墳の在り方を示している。中でも、当遺跡北側に隣接する島名関ノ台古墳群は、全長約40mの前方後円墳と円墳27基が存在したと言われ、被葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い。

奈良時代になると、島名地区は急速に集落の再編が進むようになる。その背景には、律令国家の成立と国郡制の整備が考えられ、当地区は河内郡島名郷に編入される。当遺跡や島名八幡前遺跡は、大型建物跡とそれに付随する掘立柱建物跡が集落の中心で、いずれも真北を主軸とした配置をとるようになる。さらに、当遺跡の中央部にL字状に掘立柱建物群が配置され、郷関連の官衙的施設の可能性も指摘されている。一方、7世紀に一旦集落が途絶えていた島名前野遺跡や島名前野東遺跡では、8世紀中頃に再び集落が形成される。それは、空闲地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の適地となったためと考えられる。しかし、これらの遺跡以外に島名地区では集落が認められなくなり、当遺跡周辺だけに集落が集中する現象が認められる。

平安時代になると遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは当遺跡と島名八幡前遺跡だけとなる。両遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業関連の遺構・遺物が確認でき、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。また、大規模な集落を残し8世紀以来の集落が消滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。この9世紀の集落編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し、島名八幡前遺跡も集落としての終焉を迎えることになる。一方、当遺跡ではそれ以降も集落が存続し、11世紀まで継続的に営まれている。その後の集落の様相は、不明瞭であるが、墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者の存在をうかがうことができる。

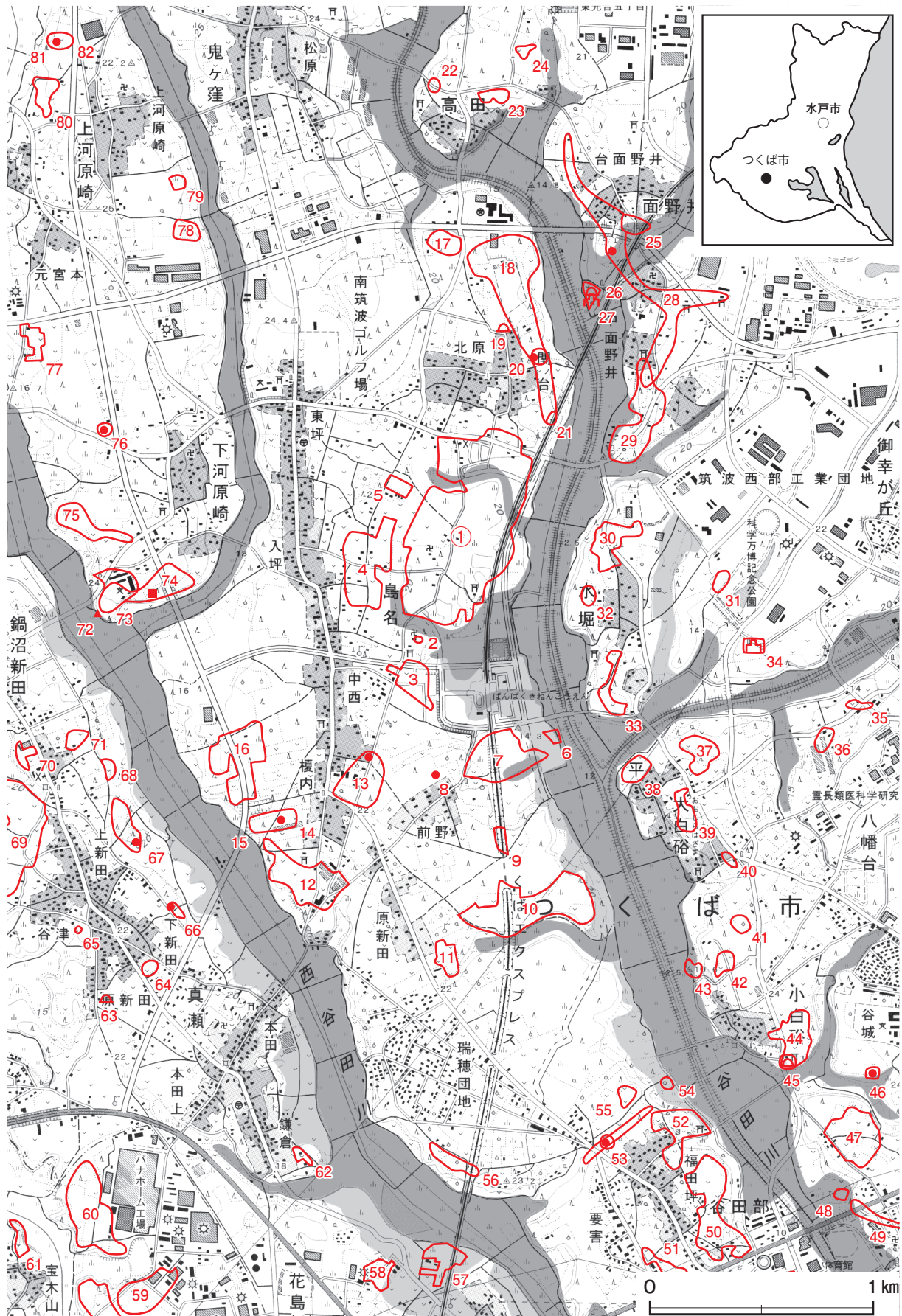
平安末期には、島名地区周辺は八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ、鎌倉時代以降に田中荘は小田氏の支配下に入ることとなる。当該期の周辺の遺跡は、平出氏の居城と伝えられる面野井城跡〈27〉や島名前野東遺跡がある。島名前野東遺跡では、方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が確認され、この在地有力者が島名地区一帯を治めていたものと思われる。永仁五年(1297)には、当遺跡の中央部西寄りに妙徳寺が開山し、当遺跡では梵鐘の乳や鰐口などの鋳型片が出土した鋳造土坑が確認されている。また、15世紀後半から17世紀前半にかけての墓域が確認され、妙徳寺との関連をうかがうことができる。妙徳寺周辺では幅5m、深さが2mの薬研堀が確認され、寺域周辺は防御施設としての機能も果たしていたことが明らかとなった<sup>16)</sup>。

※ 本章は、既刊の「島名熊の山遺跡」を参照し、加筆した。文中の〈 〉内の番号は、第3図及び表1の当該番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 舟橋理「平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告」『茨城県教育財団文化財調査報告』第336集 2011年3月
- 3) a 高野裕璽「下河原崎谷中台・島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月  
b 齋藤真弥「下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 4) 高野裕璽「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 5) a 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月  
b 飯泉達司「島名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 2004年3月  
c 小松崎和治「島名境松遺跡・島名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第281集 2007年3月
- 6) 鹿島直樹「島名一町田遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第230集 2004年3月
- 7) a 佐野正「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ遺跡・高山古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第22集  
b 皆川修「島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 8) 鹿島直樹「島名関ノ台南B遺跡・面野井北ノ前遺跡 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第231集 2004年3月
- 9) 酒井雄一・渡邊浩美・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- 10) 小澤重雄「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第328集 2010年3月
- 11) 稲田義弘・飯泉達司「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集 2004年3月
- 12) 稲田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 島名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 13) 小林和彦・近江屋成陽「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第389集 2014年3月
- 14) 白田正子「(仮称) 萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山遺跡・古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 15) a 青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月  
b 菊池直哉「島名八幡前遺跡 都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第283集 2007年3月
- 16) 兼子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅧ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第390集 2014年3月





第3図 島名熊の山遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の 1 「谷田部」)

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	島名薬師遺跡				○							○				
3	島名八幡前遺跡				○	○	○							○	○	
4	島名本田遺跡				○	○	○	○						○	○	
5	島名中代遺跡				○											
6	島名前野遺跡		○		○	○	○	○								
7	島名前野東遺跡	○	○		○	○	○	○								○
8	島名前野古墳				○											
9	島名一町田遺跡	○	○		○			○	○							
10	島名境松遺跡	○	○		○											
11	島名タカドロ遺跡		○		○											
12	島名榎内南遺跡	○			○	○										
13	島名榎内古墳群				○											
14	島名榎内西古墳群				○											
15	島名榎内遺跡				○											
16	島名ツバタ遺跡	○	○		○			○	○							
17	島名関の台遺跡				○											
18	島名関ノ台古墳群				○											
19	島名関ノ台塚													○	○	
20	島名関ノ台南A遺跡				○	○										
21	島名関ノ台南B遺跡	○	○			○										
22	高田和田台遺跡				○											
23	高田遺跡					○										○
24	高田原山遺跡				○	○										
25	面野井北ノ前遺跡	○			○	○	○	○								
26	面野井西ノ台塚													○	○	
27	面野井城跡													○		
28	面野井古墳群				○											
29	面野井南遺跡				○	○	○	○								
30	水堀下道遺跡				○	○										
31	水堀遺跡				○											
32	水堀屋敷添遺跡		○		○											
33	水堀道後前遺跡					○										
34	大和田氏屋敷跡													○	○	
35	柳橋仲畑遺跡				○			○	○							
36	柳橋遺跡				○											○
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○								
38	平後遺跡				○			○	○							
39	大白裕西ノ裏遺跡				○											
40	大白裕桜下遺跡				○											
41	大白裕民部山遺跡				○											
42	小白裕民部山遺跡							○								
43	小白裕水表遺跡							○								
44	小白裕海道端遺跡		○											○	○	
45	小白裕海道端塚群													○	○	
46	谷田部カロウド塚古墳							○								
47	谷田部台成井遺跡		○													
48	谷田部下成井遺跡		○													○
49	谷田部台町古墳群							○								
50	谷田部福田前遺跡		○					○	○							
51	谷田部漆出口遺跡		○					○						○	○	
52	谷田部福田遺跡		○					○								
53	谷田部大堀遺跡														○	○
54	谷田部山合遺跡		○												○	○
55	谷田部陣馬遺跡		○					○								
56	谷田部漆遺跡		○					○	○							
57	上萱丸古屋敷遺跡							○						○	○	
58	真瀬三度山遺跡		○					○								○
59	二本松遺跡		○													
60	西山遺跡		○												○	○
61	苗代山遺跡		○													
62	真瀬戸崎遺跡							○						○	○	
63	真瀬西原遺跡														○	○
64	真瀬中畑遺跡		○					○								○
65	真瀬新田谷津遺跡		○													
66	真瀬新田古墳群								○							
67	真瀬堀附南遺跡		○					○								
68	真瀬堀附北遺跡							○								
69	真瀬山田遺跡		○					○	○							
70	真瀬山田北遺跡		○					○								
71	鍋沼新田長峰遺跡		○					○								
72	下河原崎高山窯跡							○								
73	下河原崎高山遺跡								○							
74	下河原崎高山古墳群								○							
75	下河原崎谷中台遺跡	○	○					○	○							
76	下河原崎古墳群								○							
77	元宮本前山遺跡	○	○					○								
78	元中北東藤四郎遺跡							○								
79	元中北鹿島明神古墳							○								
80	上河原崎本田遺跡													○	○	○
81	上河原崎小山台古墳													○		
82	上河原崎八幡脇遺跡													○		

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の概要

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高13～24mの台地上に立地している。調査区は便宜上1～16区（第1図）に分けており、今回の報告分は、平成21・22年度に調査した4区561㎡、平成23年度に調査した8区264㎡の計825㎡についてである。

調査の結果、各年度を総合すると、竪穴建物跡19棟（古墳時代12・奈良時代3・平安時代2・時期不明2）、掘立柱建物跡3棟（古墳時代）、溝跡7条（時期不明）、土坑20基（古墳時代2・時期不明18）、道路跡1条（時期不明）、ピット群2か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に19箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・高坏・甕・甑）、須恵器（坏・高坏・盤・甕）、土製品（土玉・支脚）、石製品（勾玉・白玉）、金属製品（鏃・耳環）などである。

## 第2節 基本層序

当遺跡は、13～24mほどの低地部から台地上にかけて立地しており、4区・8区に隣接する15区（O4b8区）に設定したテストピットで基本土層（第4図）の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

土層は7層に分層でき、第3～5層が関東ローム層である。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。炭化粒子をわずかに含み、粘性・締まりとも弱く、層厚は13～24cmである。

第2層は、にぶい黄褐色を呈する旧表土層である。炭化物を少量含み、粘性・締まりとも普通で、層厚は6～20cmである。

第3層は、暗褐色を呈する第2黒色帯（BBⅡ）層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は14～38cmである。

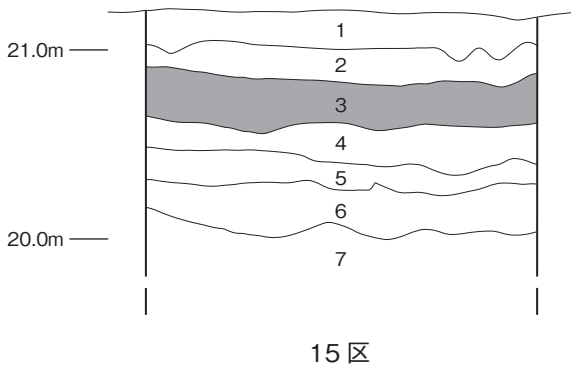
第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は18～30cmである。

第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層で、常総粘土層への漸移層である。灰白色粘土ブロックを中量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は6～27cmである。

第6層は、灰白色を呈する常総粘土層である。鉄分を多量に含み、粘性・締まりとも強く、層厚は12～30cmである。

第7層も、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりとも強く、層厚は24cmまで確認したが、下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

なお、遺構は、第3層上面で確認した。



第4図 基本土層図

## 第3節 4区の遺構と遺物

### 1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡6棟、掘立柱建物跡2棟、土坑2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### (1) 竪穴建物跡

##### 第3052号竪穴建物跡（第5・6図）

**調査年度** 竈から南部の大半を平成21年度、北西コーナー部を平成22年度に調査した。

**位置** 4区南西部のK9f2区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第3107号竪穴建物跡を掘り込み、第6596号土坑、第32号道路に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.62m、短軸6.60mの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁は高さ14～24cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。北半部は現代の建物の基礎で壊されているため、焚口から火床部及び両袖部の一部しか遺存していない。袖部は、床面で粘土範囲をわずかに確認した。規模は焚口部から残存している煙道部まで72cmで、燃烧部幅は65cmである。火床部は、床面を15cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックや焼土ブロックを含んだ第5層を埋土して構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。第1層は、袖部及び天井部の崩落土である。

##### 竈土層解説

- |       |                                  |        |                             |
|-------|----------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化物・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量      | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量      |
|       |                                  | 5 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量      |

**ピット** 5か所。P1～P3は深さ70～87cmで、規模と配置から支柱穴である。P4・P5は深さ51cm・21cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1～P5の第1～8層は、柱抜き取り後の堆積層で、第9層は掘方への埋土である。P1・P2の底面からは、柱の当たりを確認した。

##### ピット土層解説

- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量        | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量             | 7 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量             | 8 暗褐色 | ローム粒子微量   |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色  | ローム粒子中量   |
| 5 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量      |       |           |

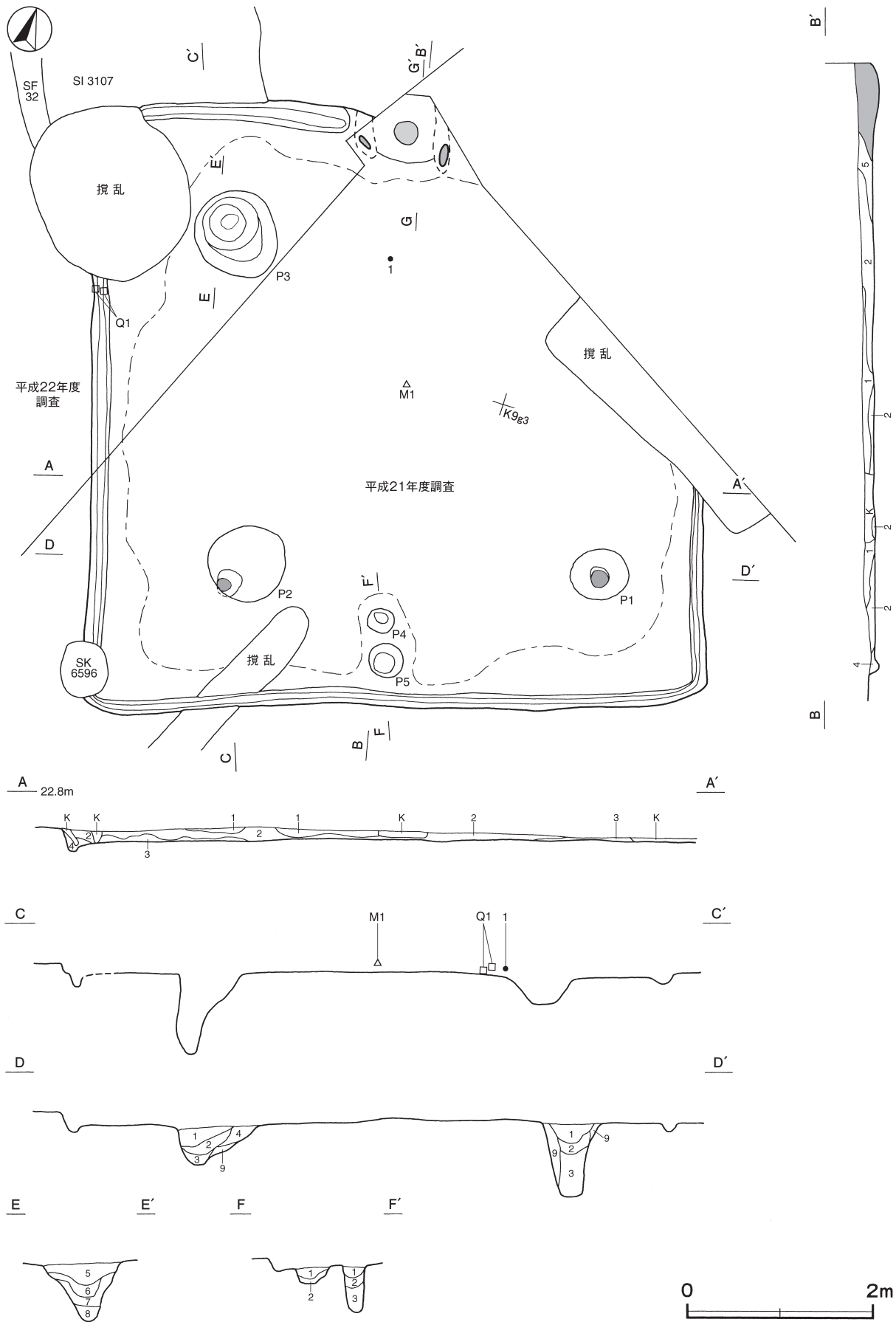
**覆土** 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

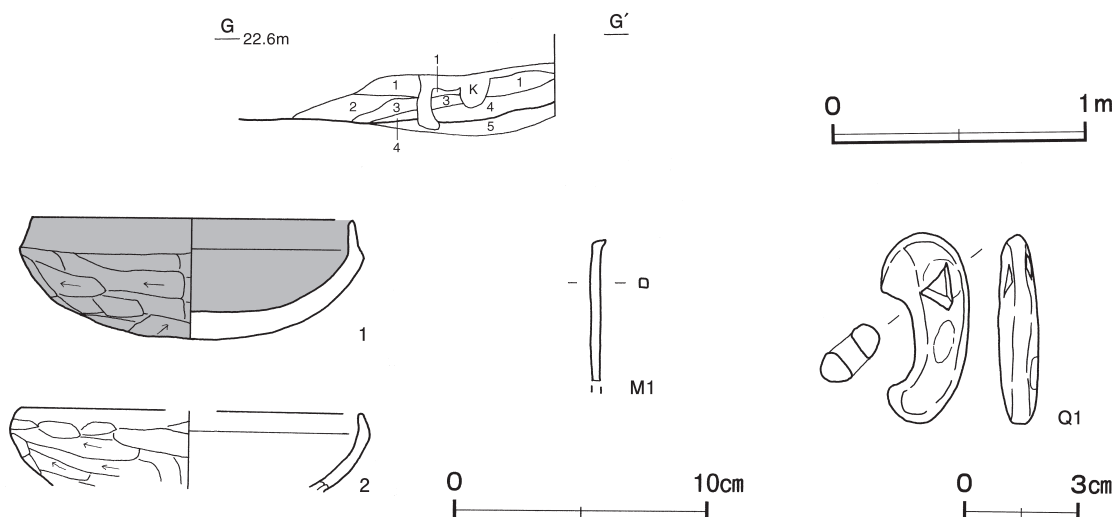
- |       |                        |       |                           |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 4 褐色  | ロームブロック中量                 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量   | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック微量              |       |                           |

**遺物出土状況** 土師器片198点（坏60、甕類138）、土製品2点（支脚）、石製品1点（勾玉）、鉄製品1点（釘）が出土している。また、第3053号竪穴建物跡出土の6と接合する土師器片1点（坏）が覆土中から出土しているが、埋め戻しの過程で混入したものとみられる。遺物はほとんどが破片で、全体の覆土中層から下層にかけて出土していることから、埋め戻しの過程で投棄されたか、混入したものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第5図 第3052号竪穴建物跡実測図



第6図 第3052号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第3052号竪穴建物跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.7	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	95%
2	土師器	坏	[13.6]	(3.1)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	勾玉	5.0	2.4	1.1	15.2	瑪瑙	全面研磨 平面形が三角の穿孔	覆土下層	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	釘	(5.7)	0.6	0.4	(5.6)	鉄	先端部欠損 断面方形	覆土下層	

### 第3053号竪穴建物跡（第7～10図）

**調査年度** 南東コーナー部を平成21年度、北西部の大半を平成22年度に調査した。

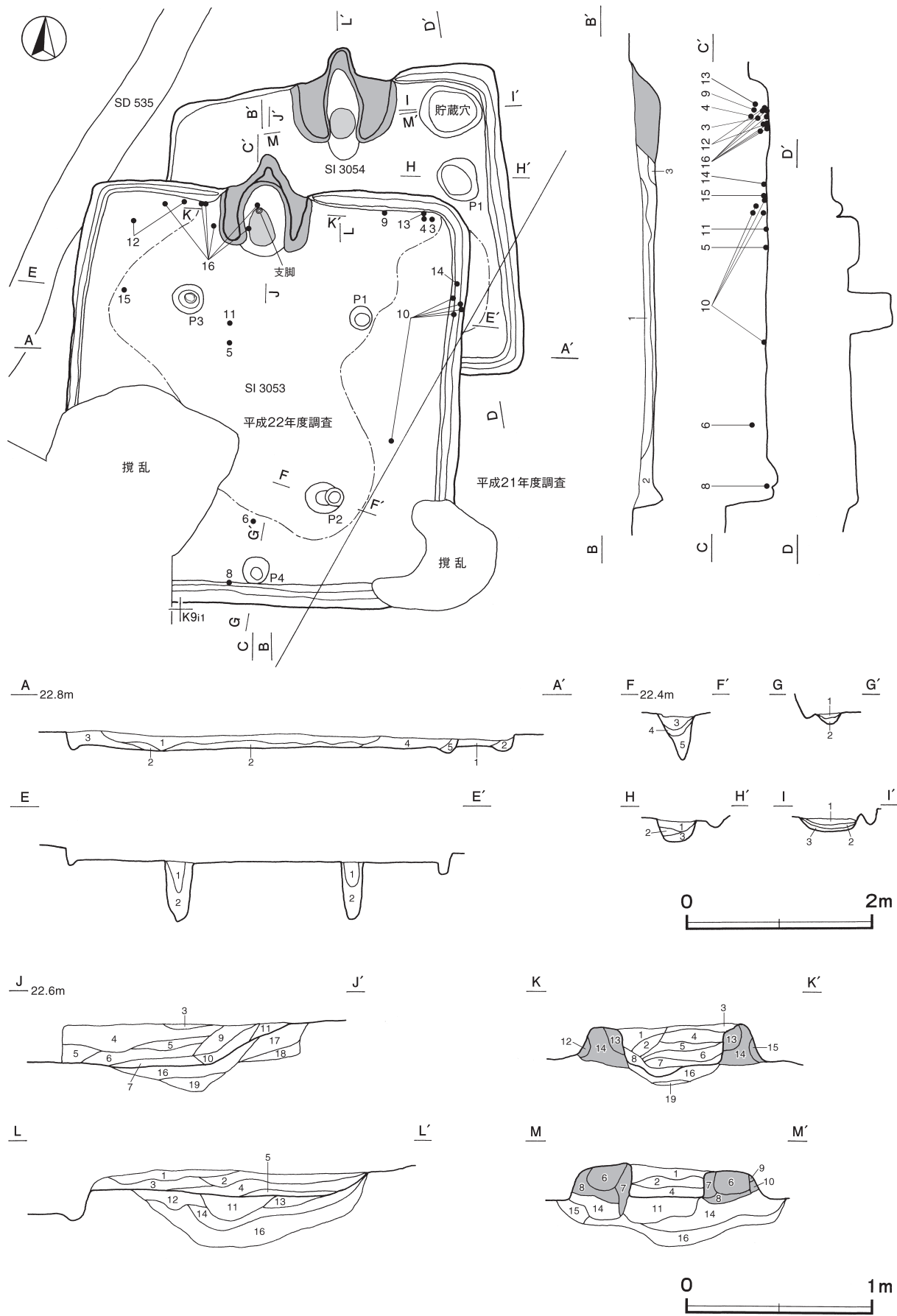
**位置** 4区南西部のK9h1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第3054号竪穴建物跡、第6926号土坑を掘り込んでいる。第535号溝跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸4.49m、短軸4.21mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁は高さ16～34cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部から竈の焚口部にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックやロームブロックを含んだ第12～15層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を15cmほど掘りくぼめた部分に粘土粒子やロームブロックを含んだ第16・19層を埋土して構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾している。火床部の奥には、土製の支脚が据えられている。



第7図 第3053・3054号竪穴建物跡実測図

**竈土層解説**

- |           |                                  |          |                                |
|-----------|----------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 赤褐色     | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量                | 11 暗褐色   | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量    |
| 2 褐色      | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量   | 12 暗褐色   | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 3 暗赤色     | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量        | 13 灰褐色   | 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色   | ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子少量           | 14 褐色    | 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量       |
| 5 褐色      | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量         | 15 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量                 |
| 6 赤褐色     | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化物・粘土粒子少量       | 16 褐色    | 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量       |
| 7 にぶい橙色   | 灰多量, 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 17 褐色    | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量    |
| 8 褐灰色     | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量      | 18 暗褐色   | 焼土粒子少量                         |
| 9 明赤褐色    | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子微量           | 19 褐色    | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 10 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土粒子微量         |          |                                |

**ピット** 4か所。P1～P3は深さ53～64cmで、規模と配置から支柱穴である。P4は深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1～P3の第1～5層は、柱抜き取り後の堆積層である。

**ピット土層解説**

- |          |           |         |           |
|----------|-----------|---------|-----------|
| 1 にぶい赤褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色    | ロームブロック中量 |
| 2 褐色     | ローム粒子少量   | 5 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色    | ロームブロック中量 |         |           |

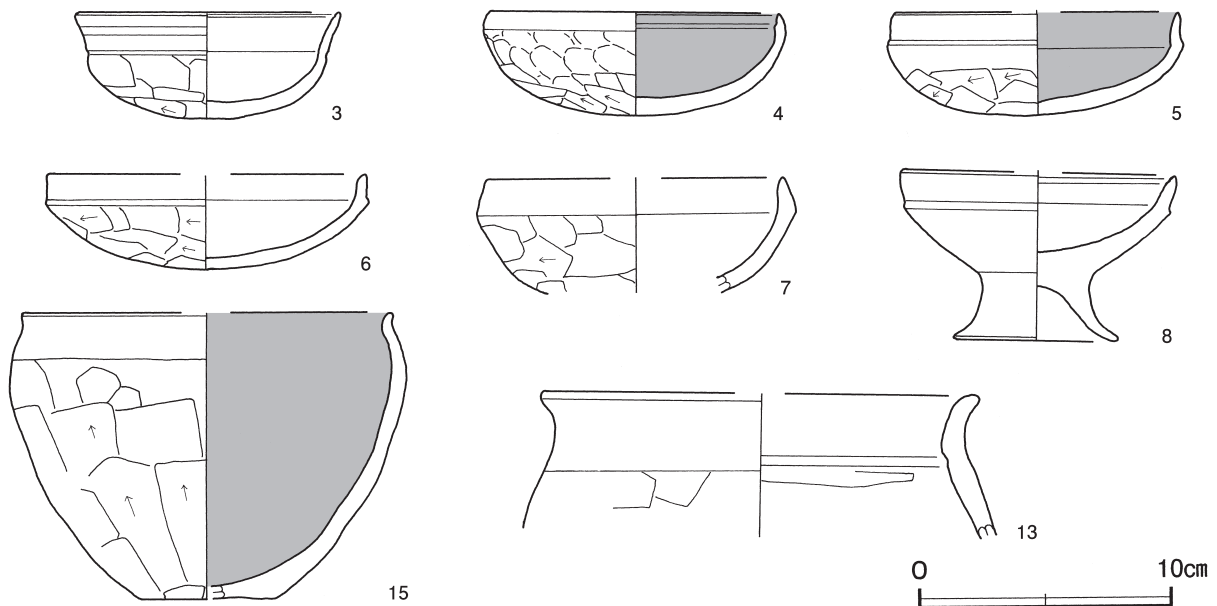
**覆土** 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                   |       |                |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量         | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量    |       |                |

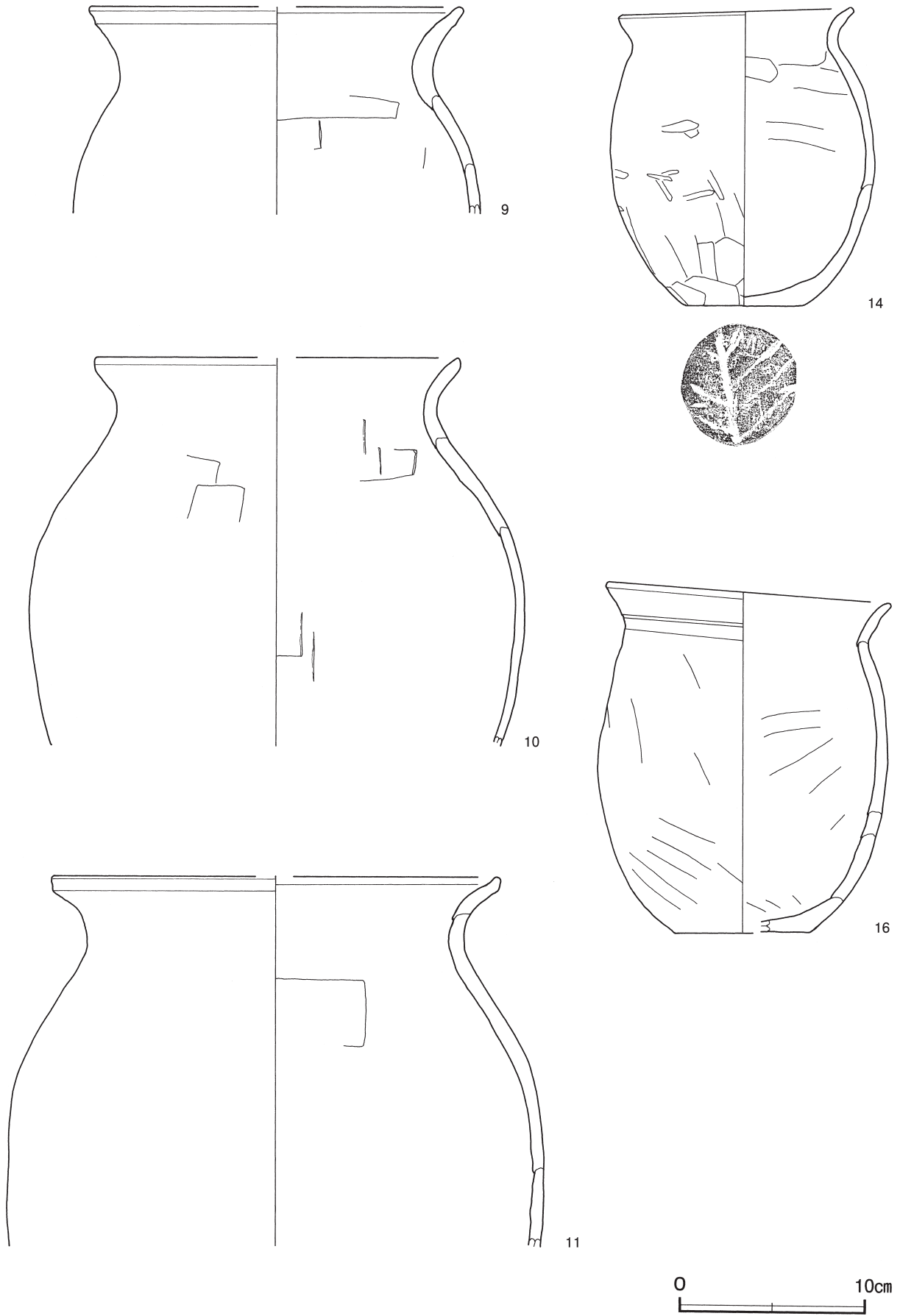
**遺物出土状況** 土師器片252点（坏37, 高坏1, 甕6, 小形甕3, 甕類205）, 土製品1点（支脚）, 鉄滓1点（45.0g）が、全体の覆土上層から床面にかけて出土している。3・4・8・14は、残存状況が良好で、覆土下層から覆土上層で出土していることから、埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。16は竈の周辺から分散して出土した破片が接合していることから、投棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

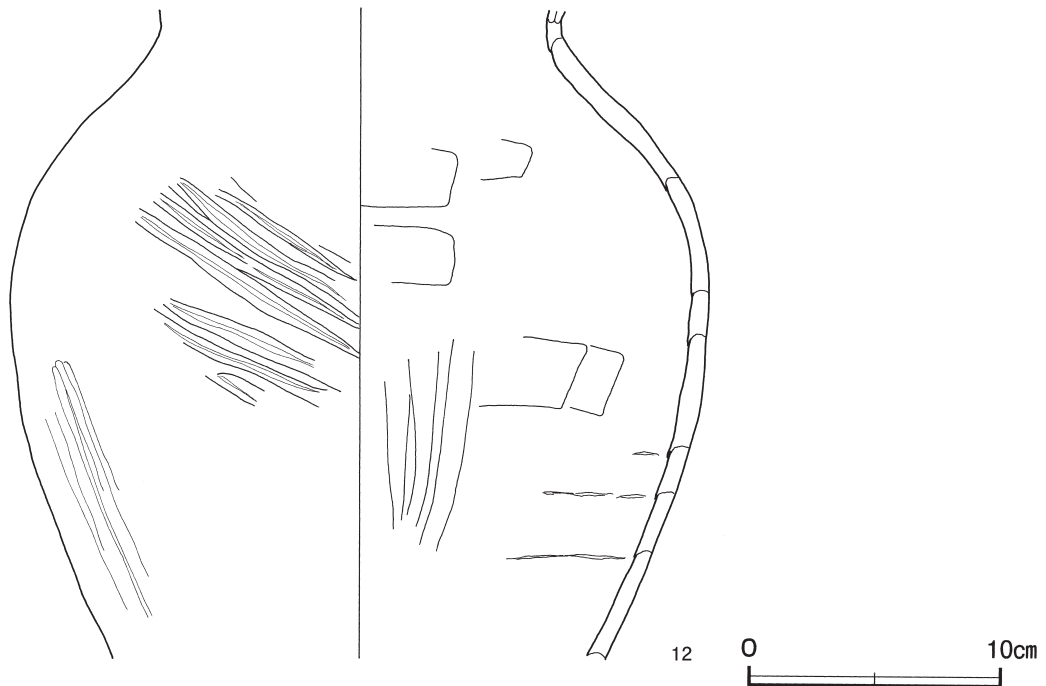


第8図 第3053号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）





第9図 第3053号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 10 図 第 3053 号 縦穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 3053 号 縦穴建物跡出土遺物観察表 (第 8 ~ 10 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	坏	10.4	4.3	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	95%
4	土師器	坏	11.6	4.1	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	口縁部外・内面横ナデヘラ削り 内面ナデ 体部外面指頭圧痕後,	覆土上層	80%
5	土師器	坏	[11.2]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	50%
6	土師器	坏	[12.6]	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土上層	60% SI3052との接合あり
7	土師器	坏	[11.8]	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	20%
8	土師器	高坏	[10.8]	6.7	[6.4]	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	坏部外・内面横ナデ 脚部外・内面ナデ	壁溝覆土上層	70% PL 4
9	土師器	甕	[20.0]	(11.2)	-	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	覆土上層	10%
10	土師器	甕	[19.5]	(21.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	床面～覆土下層	20%
11	土師器	甕	[24.0]	(20.0)	-	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	床面	20%
12	土師器	甕	-	(25.8)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き及び擦痕 内面ヘラナデ	覆土下層	40% 砥石転用
13	土師器	甕	[17.3]	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土上層	20%
14	土師器	小形甕	12.3	16.1	6.4	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 体部下端ヘラ削り	覆土下層	80% PL 4
15	土師器	小形甕	[14.6]	11.4	[5.6]	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	20%
16	土師器	小形甕	15.1	18.9	[7.2]	長石・石英・白色粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層～竈覆土下層	80%

### 第 3054 号 縦穴建物跡 (第 7 図)

調査年度 南東コーナー部を平成 21 年度, 北西部の大半を平成 22 年度に調査した。

位置 4 区南西部の K 9 g1 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 6926 号土坑を掘り込み, 第 3053 号 縦穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.64 m, 短軸 3.48 m の方形で, 主軸方向は N - 4° - W である。壁は高さ 8 ~ 15cm で, ほぼ直立している。

床 平坦である。南半部を第 3053 号 縦穴建物に掘り込まれているが, 南東コーナー部の一部が踏み固められ

ているのを確認した。壁下には、西半部を除いて壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで122cmで、燃焼部幅は32cmである。全体を楕円形に床面から25cm掘りくぼめ、焼土ブロックやロームブロックを含んだ14～16層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子やローム粒子を含んだ第6～10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から12cm掘りくぼめた部分に、ロームブロックを含んだ第11層を埋土して構築されている。火床面での赤変硬化は確認できなかった。

**竈土層解説**

1 明褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	8 褐色	ローム粒子少量
2 褐色	炭化物中量, 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量	10 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4 明赤褐色	ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	11 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
6 褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化物微量	13 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
7 暗褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量	14 暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量
		15 明褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
		16 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

**ピット** P1は深さ33cmで、配置から支柱穴と考えられる。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層である。

**ピット土層解説**

1 赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量	2 明褐色	ロームブロック微量
		3 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**貯蔵穴** 北東コーナー部に付設されている。長径65cm, 短径55cmの楕円形で、深さは15cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

**貯蔵穴土層解説**

1 にぶい褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量	3 褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量		

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量	2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
------	---------------------	-------	--------------------------

**遺物出土状況** 土師器片35点(甕類)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器や第3053号竪穴建物に掘り込まれていることから、6世紀後葉以前と考えられる。

**第3106号竪穴建物跡 (第11～15図)**

**調査年度** 平成22年度

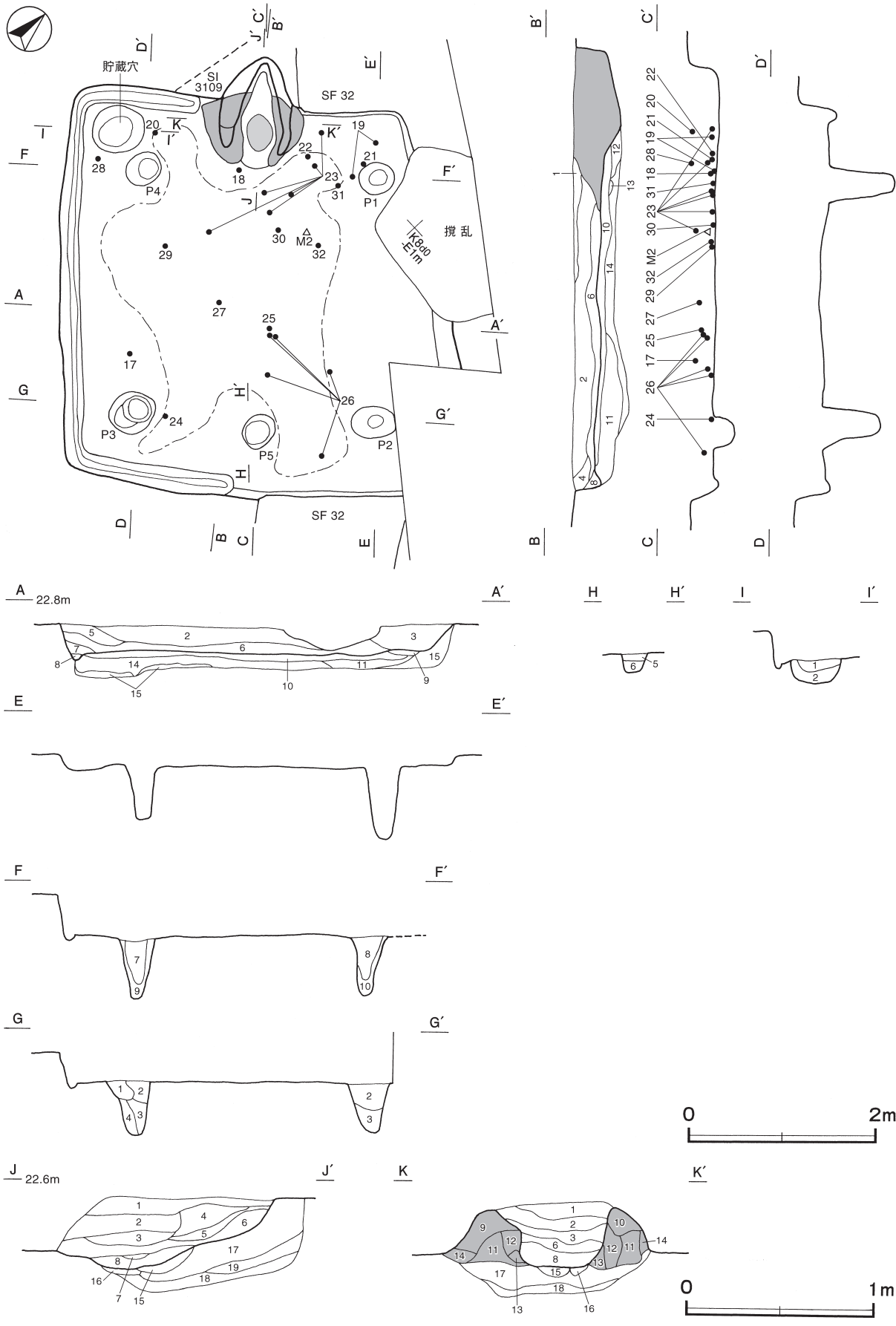
**位置** 4区南西部のK8d9区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第3109号竪穴建物、第32号道路に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.21m, 短軸4.19mの方形で、主軸方向はN-44°-Wである。壁は高さ11～42cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には、東半部を除いて壁溝が巡っている。貼床は、全体を平坦に掘り下げ、ロームブロックを含む第9～15層を埋土して構築されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで119cmで、燃焼部幅は39cmである。全体を楕円形に床面から22cm掘りくぼめ、ロームブロックを含んだ第17～19層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第9～14層を積み上げて構築されている。火床部は、第17層を11cm掘りくぼめた部分に焼土ブロックや焼土粒子を含んだ第15・16層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に47cm掘り込まれ、火床部から外傾している。



第 11 図 第 3106 号 竪穴建物跡実測図

**竈土層解説**

1 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	11 灰褐色	粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	12 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化物少量, ロームブロック微量
3 にぶい褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量	13 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物微量
4 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量	14 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
5 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	15 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化物少量
6 明赤褐色	焼土粒子多量	16 暗褐色	焼土粒子中量, 粘土粒子少量
7 明赤褐色	粘土ブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量	17 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
8 明褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	18 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
9 暗褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量	19 橙褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
10 暗褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量		

**ピット** 5か所。P 1～P 4は深さ53～80cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 1～P 4の第1～8層は、柱抜き取り後の堆積層で、第9・10層は掘方への埋土である。

**ピット土層解説**

1 明褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	6 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子微量	7 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	8 褐色	焼土粒子少量
4 褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	9 明褐色	炭化物少量, ローム粒子微量
5 暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	10 褐色	ローム粒子少量

**貯蔵穴** 西コーナー部に付設されている。長径54cm, 短径52cmの円形で、深さは26cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。

**貯蔵穴土層解説**

1 明褐色	ロームブロック微量	2 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
-------	-----------	------	----------------

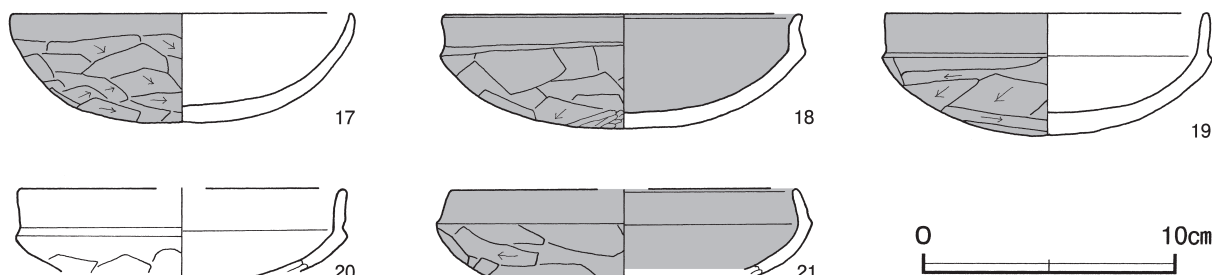
**覆土** 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

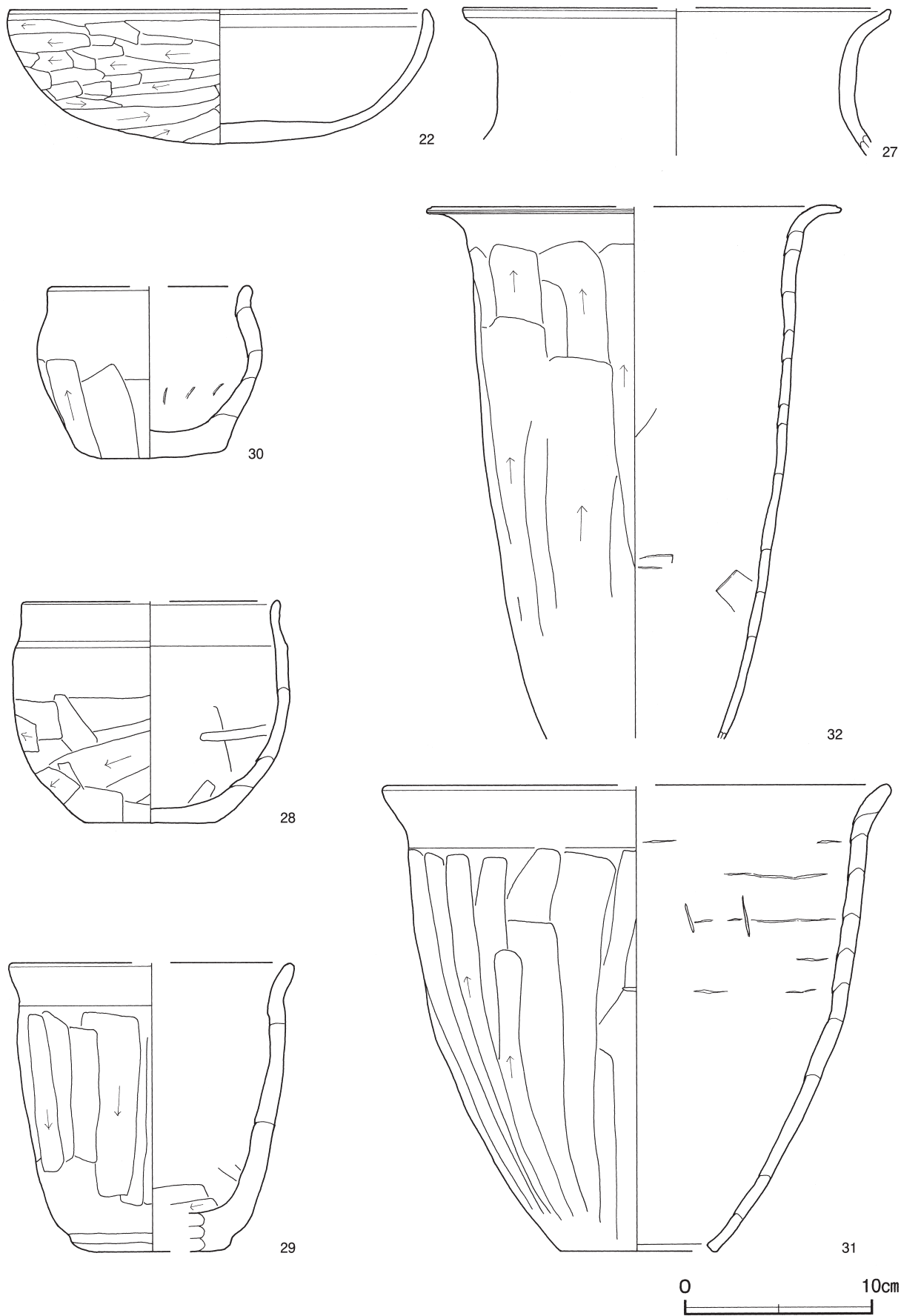
1 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック微量
2 にぶい赤褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	11 明褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	12 褐色	炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量	13 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック微量
7 暗赤褐色	ロームブロック少量	15 明褐色	ローム粒子微量
8 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片567点(坏72, 高坏1, 甕6, 小形甕4, 甗4, 甕類479, 手捏土器1), 土製品1点(支脚), 銅製品1点(耳環)のほか、須恵器9点(蓋1, 甕類8)が出土している。遺物は覆土上層から床面にかけて全体に出土していることから、埋め戻しの過程で投棄されたか、混入したものとみられる。23・26は、広域に分散して出土した破片が接合していることから、投棄されたものとみられる。

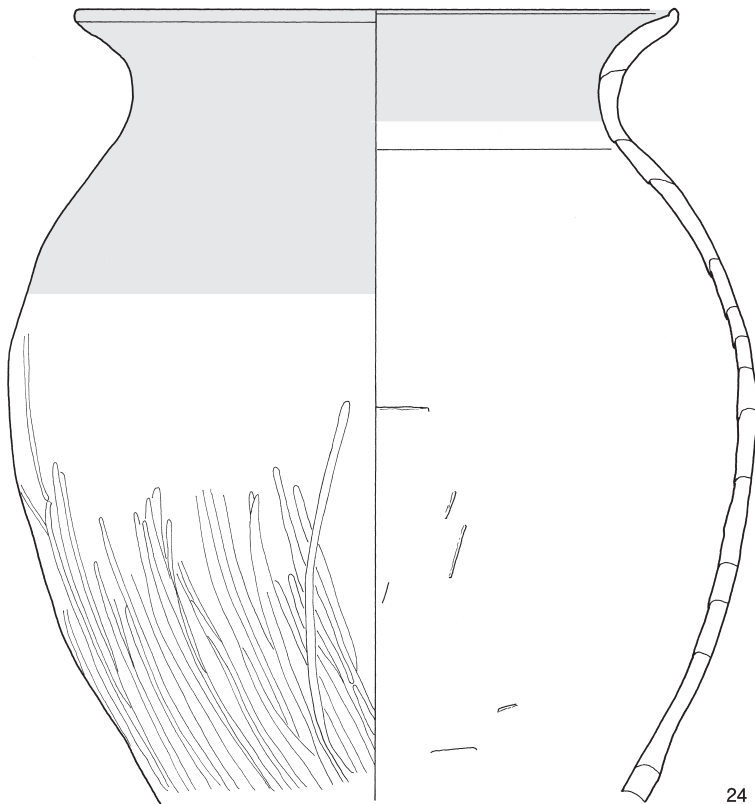
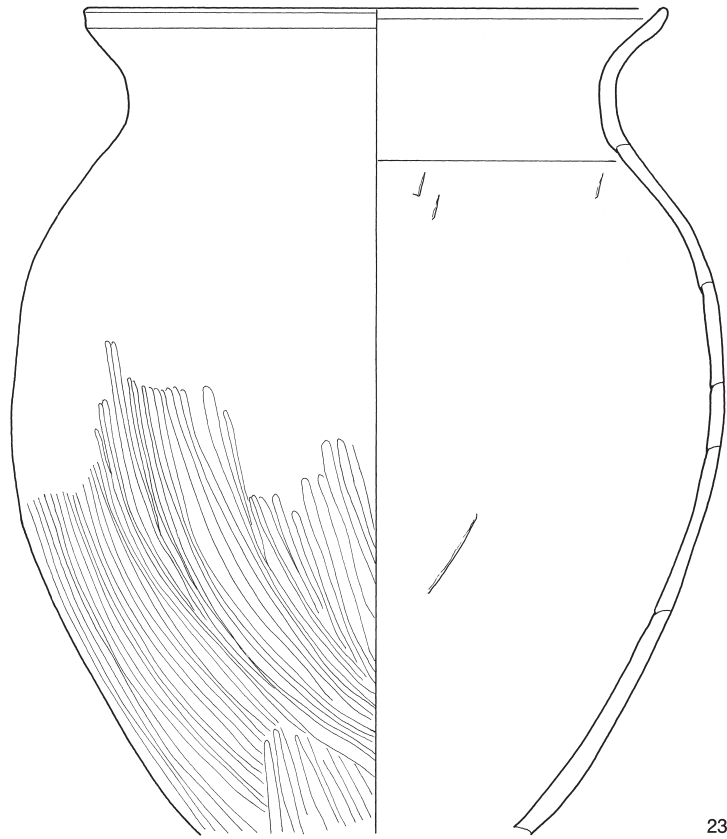
**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



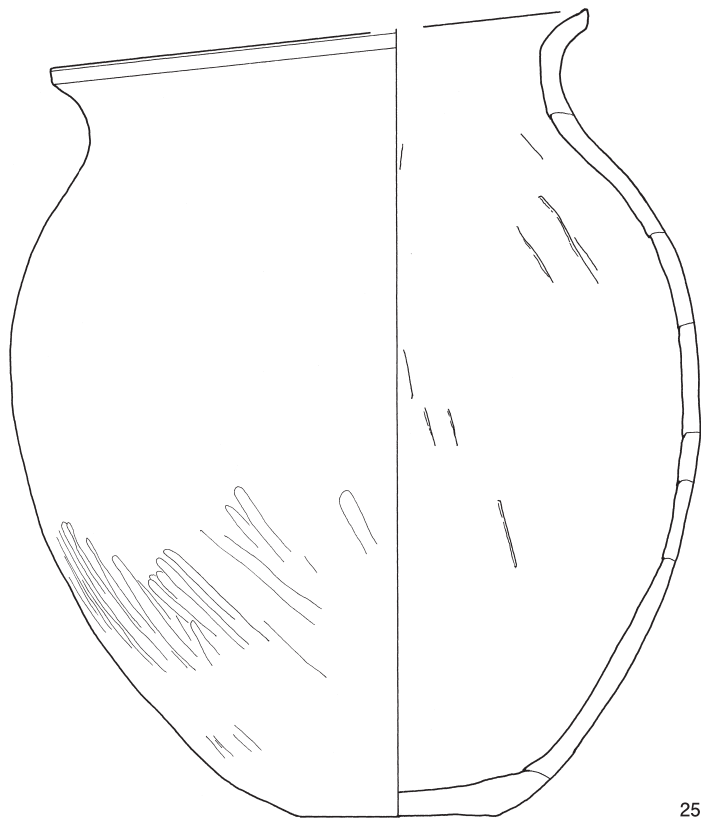
第12図 第3106号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



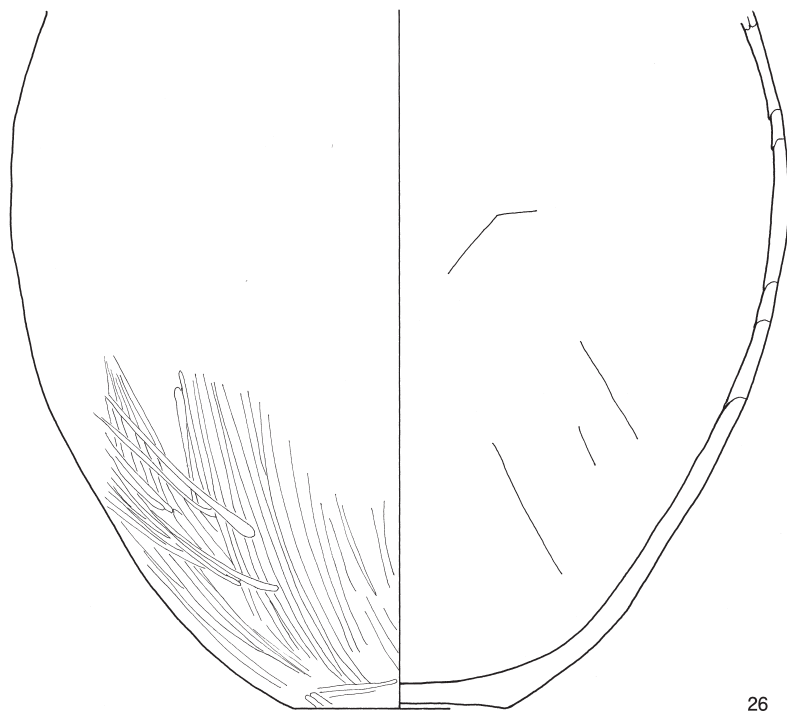
第 13 图 第 3106 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



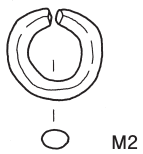
第 14 図 第 3106 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (3)



25



26



第 15 图 第 3106 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (4)



第 3106 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 12 ~ 15 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
17	土師器	坏	13.6	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土上層	100% PL 4
18	土師器	坏	14.2	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り後、	覆土下層	100% PL 4
19	土師器	坏	12.8	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り後、	覆土下層	80%
20	土師器	坏	[12.8]	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土上層	30%
21	土師器	坏	[13.8]	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	20%
22	土師器	坏	22.2	7.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	90% PL 4
23	土師器	甕	23.0	(32.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ磨き	床面～ 覆土上層	80% PL 4
24	土師器	甕	23.9	(31.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ磨き 内面ナデ 口縁部内面から体部外面上端にかけて赤彩	覆土下層	80% PL 4
25	土師器	甕	[21.2]	32.1	8.0	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ磨き	覆土中層	30%
26	土師器	甕	-	(27.8)	8.6	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ナデ		床面～ 覆土中層	30%
27	土師器	甕	[22.8]	(7.9)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	内面ヘラナデ	覆土上層	10%
28	土師器	小形甕	[13.6]	11.9	7.2	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土上層	40%
29	土師器	小形甕	[15.0]	15.5	[8.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
30	土師器	小形甕	[10.4]	9.2	8.0	長石・石英・白色粒子・細礫	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	60%
31	土師器	甕	[27.0]	25.0	[8.6]	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
32	土師器	甕	[21.8]	(28.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	耳環	2.5	2.5	0.7	15.1	銅	鍍金	覆土中層	PL10

第 3107 号 竪穴建物跡 (第 16 ~ 18 図)

調査年度 平成 22 年度

位置 4 区南西部の K 9 e1 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3052 号 竪穴建物、第 32 号 道路に掘り込まれている。第 565 号 掘立柱建物跡、第 535 号 溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、長軸は 5.55 m で、短軸は 5.29 m しか確認できなかった。確認した柱穴の位置から、ほぼ方形で、主軸方向は N - 23° - W と推定できる。壁は高さ 17 ~ 19 cm で、外傾している。

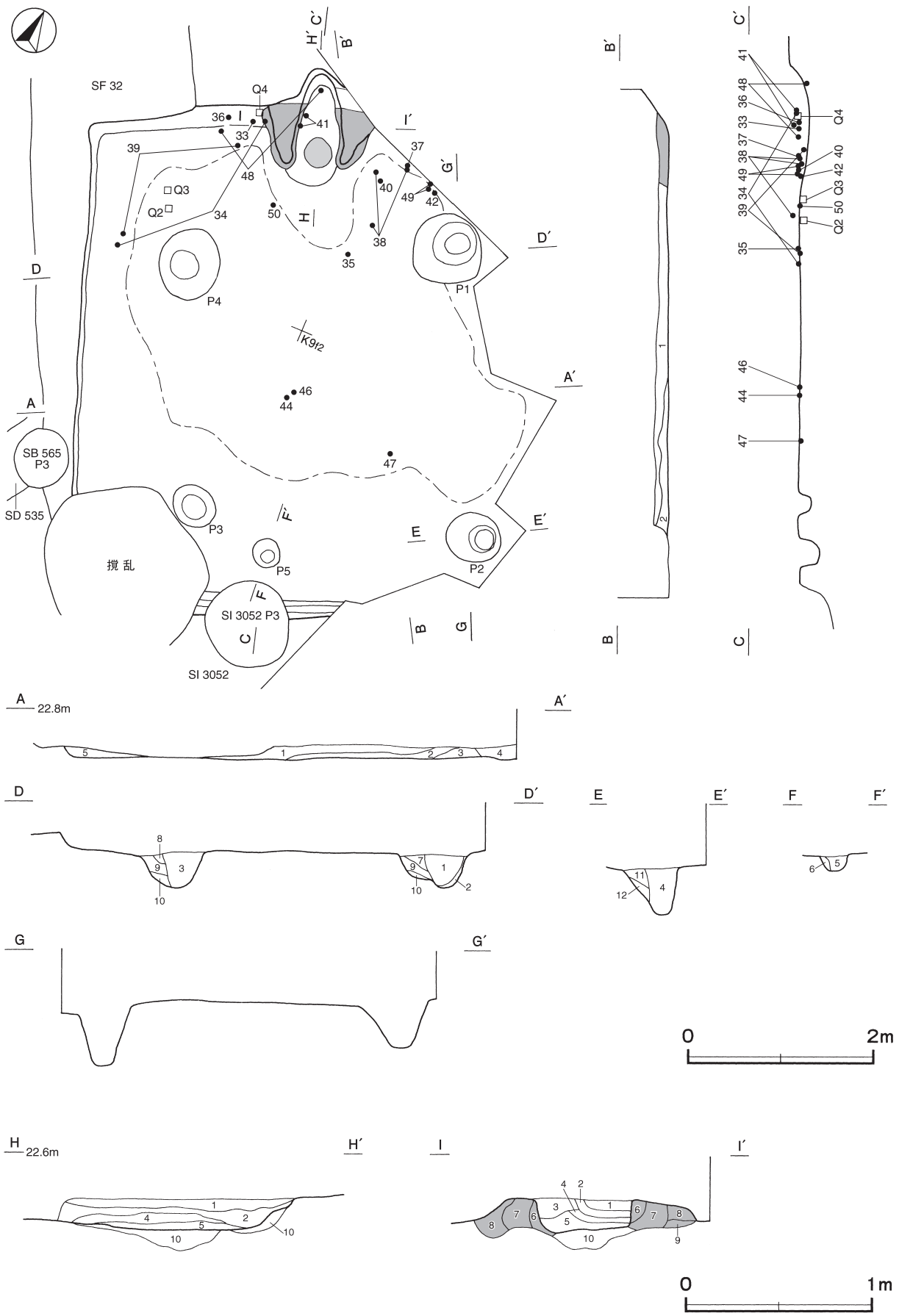
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 128 cm で、燃焼部幅は 49 cm である。袖部は、床面を 9 cm ほど掘りくぼめ、粘土粒子や焼土粒子を含んだ第 6 ~ 9 層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を 11 cm ほど掘りくぼめた部分に焼土ブロックや炭化粒子を含んだ第 10 層を埋土して構築され、火床面での赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に 44 cm 掘り込まれ、煙道部から外傾している。

竈土層解説

1 褐 色	粘土粒子少量、ロームブロック微量	6 暗 褐 色	焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量
2 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7 褐 色	粘土粒子多量、焼土粒子少量
3 明 褐 色	焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量	8 灰 褐 色	炭化物少量、焼土粒子微量
4 赤 褐 色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	9 褐 色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量	10 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 37 ~ 68 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 25 cm で、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 1・P 2・P 4・P 5 の第 1 ~ 6 層は柱抜き取り後の堆積層で、第 7 ~ 12 層は掘方への埋土である。



第 16 图 第 3107 号竖穴建物跡実測图

**ビット土層解説**

- |       |                        |          |                   |
|-------|------------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色     | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量              | 8 明褐色    | ロームブロック中量         |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量              | 9 褐色     | ロームブロック少量         |
| 4 褐色  | ローム粒子少量                | 10 明褐色   | ローム粒子中量           |
| 5 明褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           | 11 にぶい褐色 | ローム粒子中量           |
| 6 褐色  | ローム粒子・炭化粒子微量           | 12 褐色    | ローム粒子少量, 炭化粒子微量   |

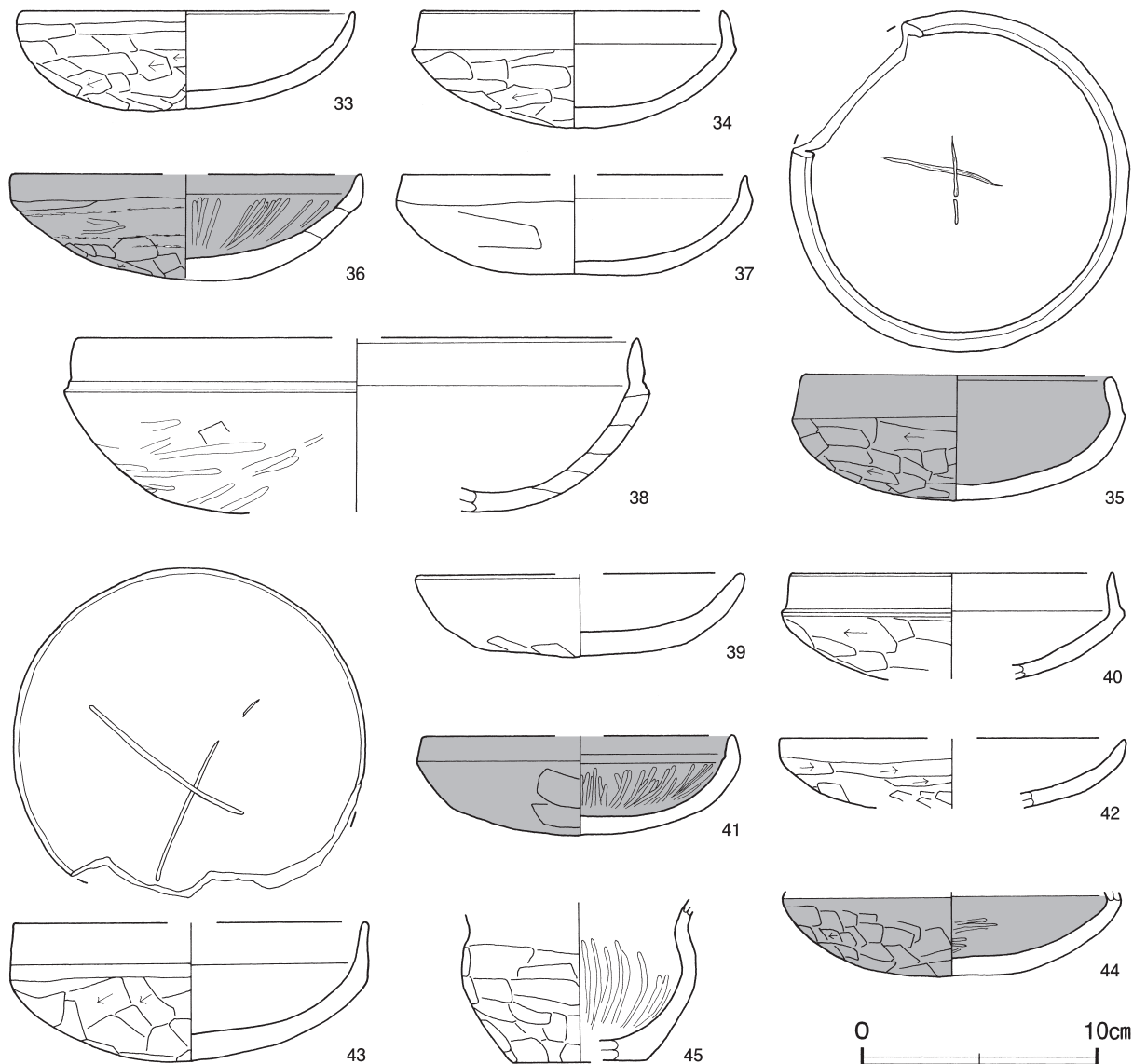
**覆土** 5層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

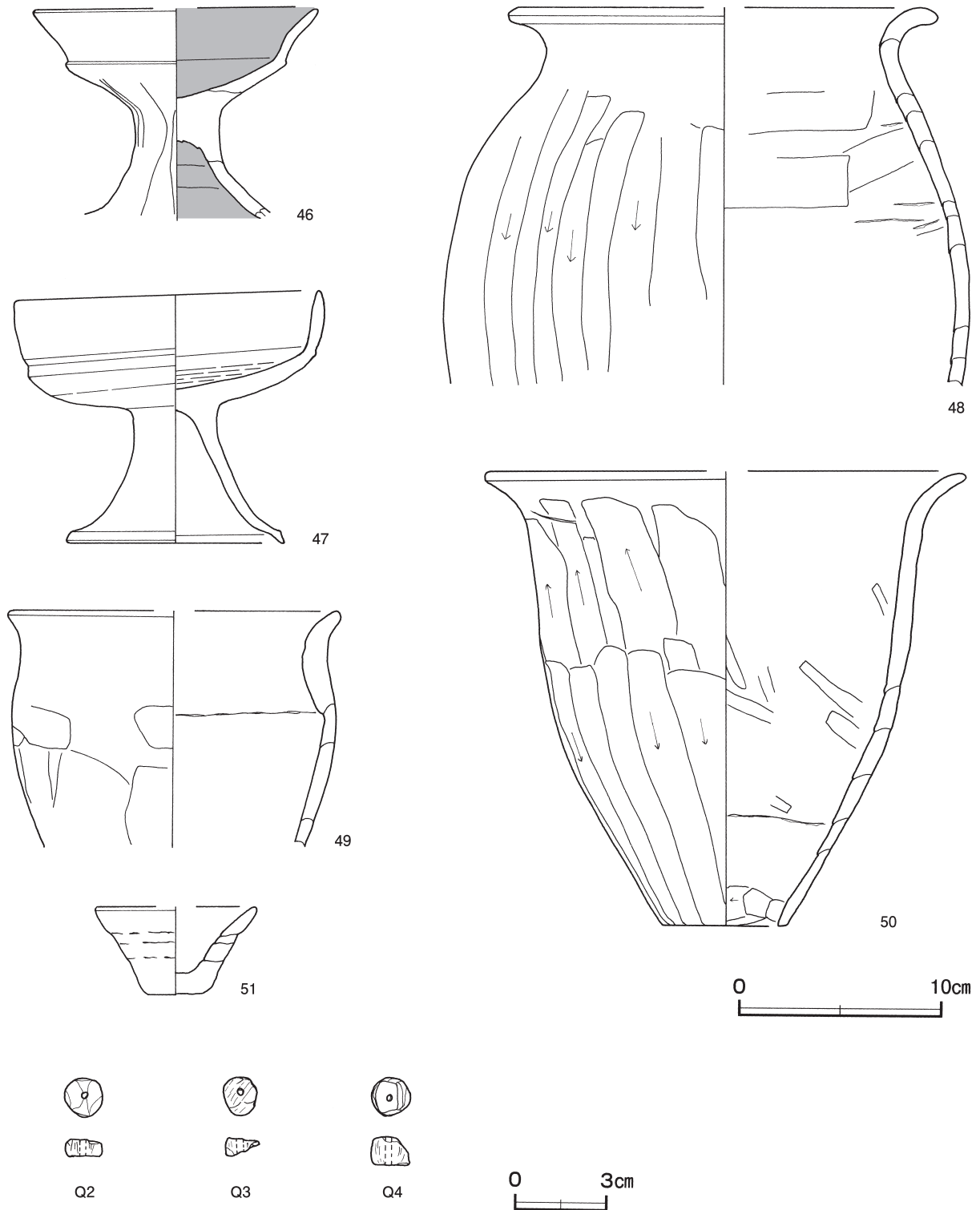
- |         |                   |       |                   |
|---------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色    | ロームブロック少量         | 4 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色   | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | 粘土粒子微量            |       |                   |

**遺物出土状況** 土師器片 166 点（坏 80, 椀 1, 高坏 1, 甕 2, 小形甕 1, 甑 1, ミニチュア土器 1, 甕類 79), 須恵器片 5 点（高坏 1, 甕類 4), 土製品 1 点（支脚), 石製品 3 点（白玉）が、全体の覆土下層から床面にかけて出土している。47 は、ほぼ完形で中央部南東寄りの床面から逆位で出土していることから、遺棄されたものとみられる。完形の 33 及びほぼ完形の 35 は、覆土下層から出土していることから、それぞれ埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 17 図 第 3107 号建物跡出土遺物実測図 (1)



第 18 図 第 3107 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 3107 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 17・18 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	土師器	坏	14.2	4.2	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	100%
34	土師器	坏	12.8	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	90%
35	土師器	坏	13.0	5.4	-	長石・石英・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 内面に線刻 (焼成前)	覆土下層	80%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
36	土師器	坏	[14.8]	4.5	-	長石・石英	暗褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り後へら磨き 内面放射状のへら磨き	覆土下層	60%
37	土師器	坏	[14.7]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	50%
38	土師器	坏	[23.8]	(7.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り後へら磨き 内面ナデ	覆土下層	20%
39	土師器	坏	[13.6]	3.5	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	40%
40	土師器	坏	13.6	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	30%
41	土師器	坏	[13.1]	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	竈土下層	30%
42	土師器	坏	[14.6]	(3.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	30%
43	土師器	坏	[15.0]	5.9	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面に窺書「×」	覆土中	70%
44	土師器	坏	-	(3.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面へら削り 内面へら磨き	床面	40%
45	土師器	椀	-	(6.8)	[5.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	覆土中	30%
46	土師器	高坏	[14.0]	(10.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	坏部口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ 脚部外面へら削り 内面横位のへら削り後横ナデ	床面	30%
47	須恵器	高坏	15.1	12.5	10.6	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	坏部口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ 脚部外・内面横ナデ	床面	80% PL 4
48	土師器	甕	[20.0]	(18.7)	-	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面横ナデ	竈火床部～覆土下層	30%
49	土師器	小形甕	[16.0]	(11.7)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土下層	20%
50	土師器	甗	[24.0]	22.5	[6.3]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ及びへら削り	床面	60% S3108との接合部あり
51	土師器	ミニチュア土器	[7.8]	4.3	[2.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	40%

番号	器 種	長さ	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 2	白玉	1.28	0.61	0.2	(1.65)	滑石	一方向からの穿孔	床面	PL10
Q 3	白玉	1.27	0.72	0.2	(1.17)	滑石	一方向からの穿孔	床面	PL10
Q 4	白玉	1.28	0.91	0.3	(2.42)	滑石	一方向からの穿孔	覆土下層	PL10

### 第 3108 号竪穴建物跡(第 19 図)

調査年度 平成 22 年度

位置 4 区南西部の K 8 f7 区、標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 43 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西側が調査区域外に延びているため、南北軸は 3.58 m、東西軸は 1.65 m しか確認できなかったが、主軸方向は N - 17° - W と推定できる。壁は高さ 44cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床である。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、全体を平坦に掘り下げ、ロームブロックやローム粒子を含む第 7・8 層を埋土して構築されている。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径 63cm、短径 50cm の楕円形である。

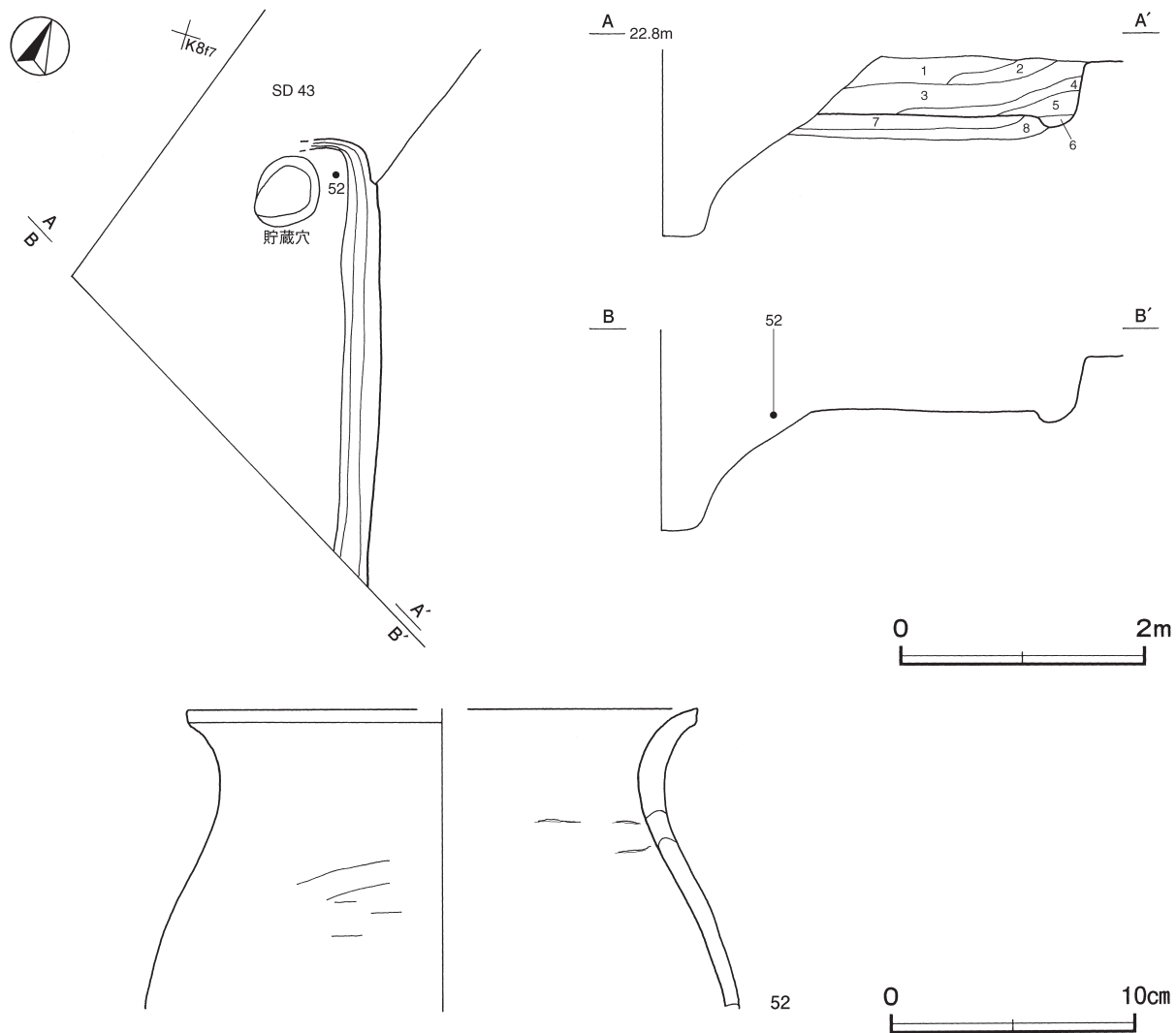
覆土 6 層に分層できる。第 1～5 層は、周囲から流入している堆積状況から自然堆積と考えられる。第 6 層は、ロームブロックが多く含まれていることから、壁の崩落土と考えられる。

#### 土層解説

1 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量	5 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量	6 褐 色	ロームブロック中量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7 褐 色	ローム粒子中量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	8 褐 色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 74 点(坏 28, 甗 1, 甕類 45) が出土している。52 は、破片で床面から出土していることから、埋没する過程で流れ込んだものとみられる。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後半と考えられる。



第 19 図 第 3108 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3108 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 19 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
52	土師器	甕	[21.0]	(12.3)	-	長石・石英・赤色粒子・礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	20%

表 2 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
3052	K 9 f2	N - 14° - W	方形	6.62 × 6.60	14 ~ 24	平坦	全周	3	2	-	北壁	-	人為	土師器, 土製品, 石製品, 鉄製品	7世紀前葉	SI3107 → 本跡 → SF32・SK6596
3053	K 9 h1	N - 2° - E	方形	4.49 × 4.21	16 ~ 34	平坦	全周	3	1	-	北壁	-	人為	土師器, 土製品, 鉄滓	6世紀後葉	SI3054・SK6926 → 本跡 SD635との新旧不明
3054	K 9 g1	N - 4° - W	方形	3.64 × 3.48	8 ~ 15	平坦	東半部のみ	1	-	-	北壁	1	人為	土師器	6世紀後葉以前	SK6926 → 本跡 → SI3053
3106	K 8 d9	N - 44° - W	方形	4.21 × 4.19	11 ~ 42	貼床平坦	西半部のみ	4	1	-	北壁	1	人為	土師器, 土製品, 耳環	7世紀前葉	本跡 → SI3109・SF32
3107	K 9 e1	[N - 23° - W]	[方形]	5.55 × (5.29)	17 ~ 19	平坦	-	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 土製品, 石製品	6世紀後葉	本跡 → SI3062・SF32 SB565・SD635との新旧不明
3108	K 8 f7	[N - 17° - W]	-	(3.58) × (1.65)	44	貼床平坦	東半部のみ	-	-	-	-	1	自然	土師器	6世紀後半	本跡 → SD43

(2) 掘立柱建物跡

第 565 号掘立柱建物跡(第 20 図)

調査年度 平成 22 年度

位置 4 区南西部の K 9 e1 ~ K 9 f2 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

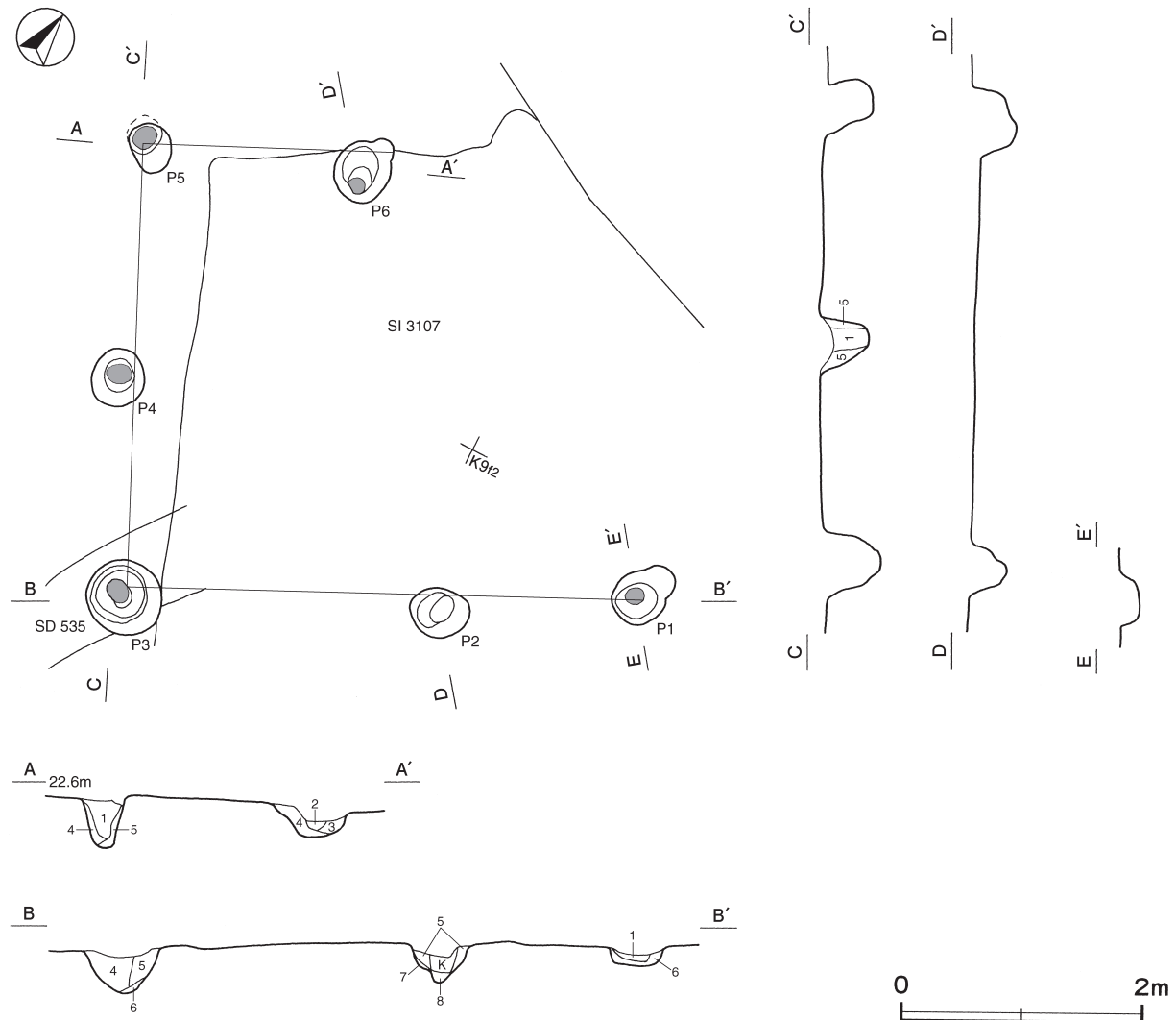
重複関係 第 3107 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 32 号道路・第 535 号溝に掘り込まれている。

規模と構造 北東部が調査区域外へ延びているため, 梁行は 2 間で, 桁行は 2 間しか確認できなかった。側柱建物跡で, 桁行方向は N - 63° - E の東西棟と推定できる。確認できた規模は, 桁行 4.2 m, 梁行 3.8 m である。柱間寸法は, 北桁行が西妻から 1.8 m (6 尺), 南桁行が西妻から 2.7 m (9 尺), 1.5 m (5 尺), 梁行が 1.8 m (6 尺) と間尺にばらつきがあるが, 柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6 か所。平面形は円形または楕円形で, 長径 44 ~ 63 cm, 短径 30 ~ 61 cm である。深さは 15 ~ 46 cm である。第 1・2 層が柱抜き取り後の堆積層, 第 3 ~ 8 層が掘方への埋土である。P 1・P 3 ~ P 6 の底面で, 柱の当たりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量           | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量  |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子少量   | 6 暗褐色 ロームブロック中量         |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量            | 8 暗褐色 ローム粒子微量           |



第 20 図 第 565 号掘立柱建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片6点(坏1, 高坏2, 甕類3)が, P2~P4・P6の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 出土土器や主軸方向及び新旧関係から, 古墳時代後期と考えられる。

**第572号掘立柱建物跡(第21図)**

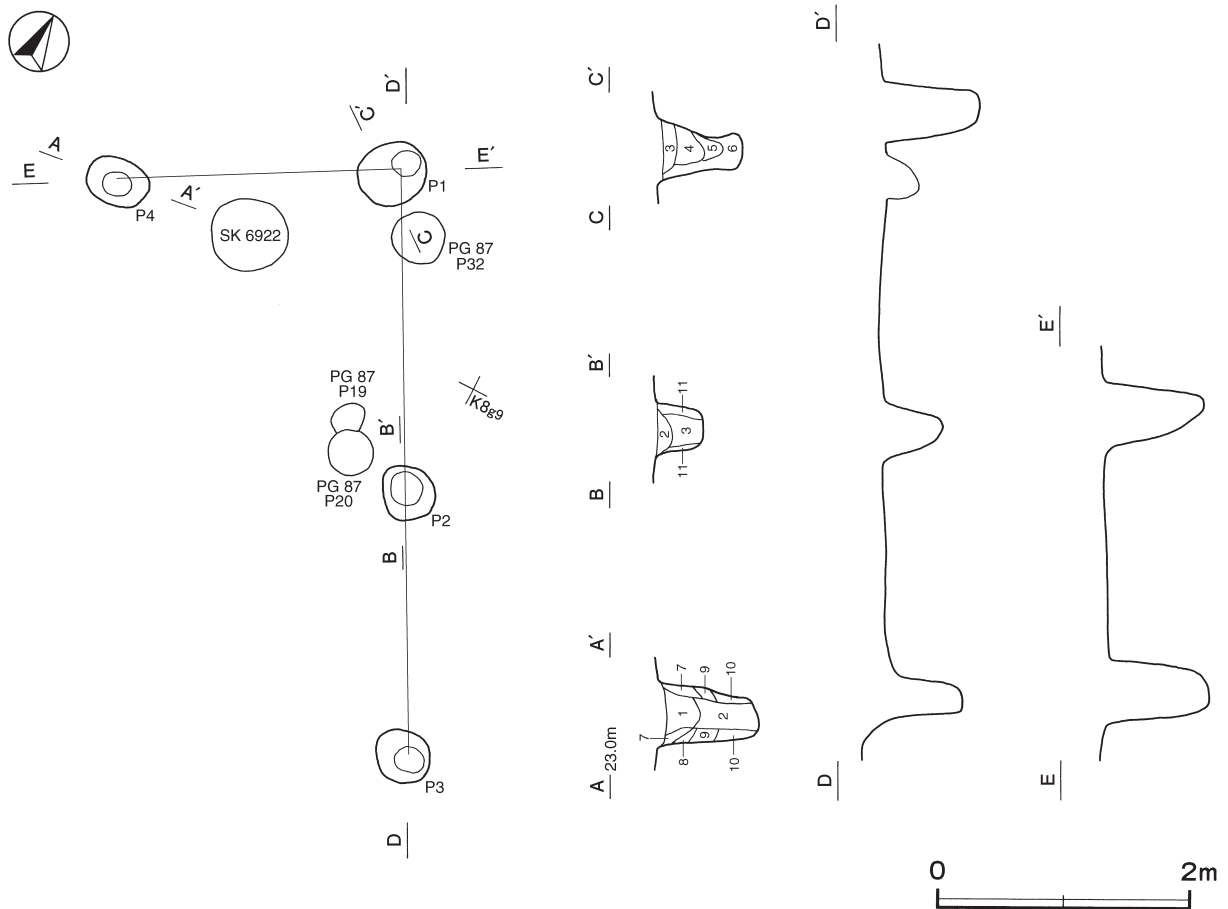
**調査年度** 平成22年度

**位置** 4区南西部のK8f8~K8g9区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第6922号土坑, 第87号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と構造** 南西部が調査区域外へ延びているため, 東西行は1間, 南北行は2間しか確認できなかった。側柱建物跡と推定できるが, 詳細は不明である。確認できた規模は, 東西行2.3m, 南北行4.7mである。柱間寸法は, 東西行が2.3m(8尺), 南北行が北から2.5m(8.3尺), 2.1m(7尺)と間尺にばらつきがあるが, 柱筋は揃っている。

**柱穴** 4か所。平面形は円形または楕円形で, 長径42~56cm, 短径34~49cmである。深さは48~81cmである。第1~5層が柱抜き取り後の堆積層, 第6~11層が掘方への埋土である。



第21図 第572号掘立柱建物跡実測図



土層解説（各柱穴共通）

1 褐色	ローム粒子中量	7 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	8 極暗褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	9 褐色	ロームブロック微量
4 褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ローム粒子微量
5 褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック微量
6 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片9点（坏5，甕類4）が，P1・P4の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見 P2は，P1・P3・P4に比べて掘方が浅いことから，本跡の妻の可能性はある。時期は，出土土器や主軸方向から，古墳時代後期と考えられる。

表3 古墳時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模	面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)			桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形			
565	K9e1~ K9f2	[N-63°-E]	[2]×2	(4.2)×3.8	-	1.5~2.7	1.8	[圓柱]	6	円形・ 楕円形	15~46	土師器	古墳時代 後期	SI3107→本跡 →SF32・SD535
572	K8f8~ K8g9	-	[1]×[2]	(2.3)×4.7	-	2.3	2.1~2.5	[圓柱]	4	円形・ 楕円形	48~81	土師器	古墳時代 後期	SK6922・PG87 との新旧不明

(3) 土坑

第6597号土坑（第22図）

調査年度 平成21年度

位置 4区南西部のK9i3区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.59m，短径0.52mの楕円形で，長径方向はN-86°-Wである。深さは28cm，底面は皿状で，壁はほぼ直立している。

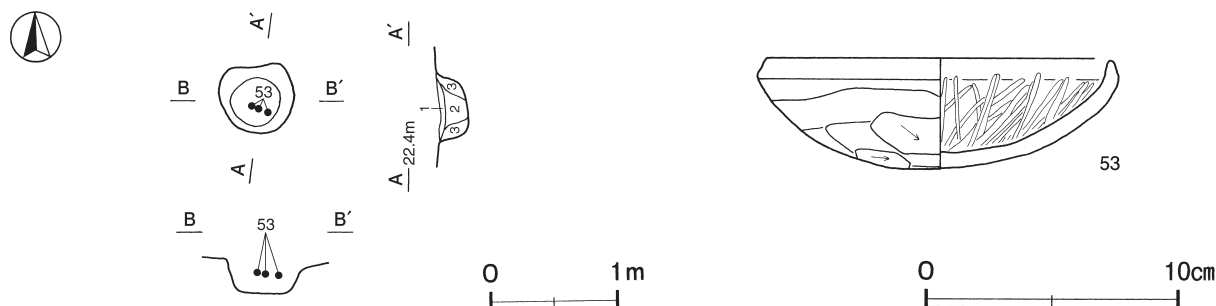
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量	3 暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片98点（坏20，甕類78）が出土している。53は覆土上層から出土していることから，埋没する過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第22図 第6597号土坑・出土遺物実測図

第 6597 号土坑出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	土師器	坏	13.8	4.4	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面放射状のヘラ磨き	体部外面ヘラ削り 覆土上層	70%

第 6926 号土坑（第 23 図）

調査年度 平成 22 年度

位置 4 区南西部の K 9 g1 区，標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

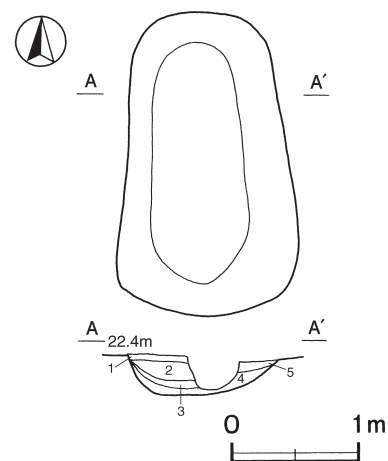
重複関係 第 3053・3054 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.40 m，短径 1.25 m の楕円形で，長径方向は N - 1° - E である。深さは 31cm，底面は皿状で，壁は外傾している。

覆土 5 層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 明褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 明褐色 炭化物微量



第 23 図 第 6926 号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片 14 点（高坏 1，甕類 13）が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は，重複関係や出土土器から，古墳時代と考えられる。性格は不明である。

表 4 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6597	K 9 i3	N - 86° - W	楕円形	0.59 × 0.52	28	皿状	ほぼ直立	人為	土師器	
6926	K 9 g1	N - 1° - E	楕円形	2.40 × 1.25	31	皿状	外傾	自然	土師器	本跡→SI3053・3054

2 その他の遺構と遺物

今回の調査で，伴う遺物が出土していないことから，時期が明らかでない竪穴建物跡 1 棟，土坑 7 基，道路跡 1 条，溝跡 2 条，ピット群 1 か所を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 3109 号竪穴建物跡（第 24 図）

調査年度 平成 22 年度

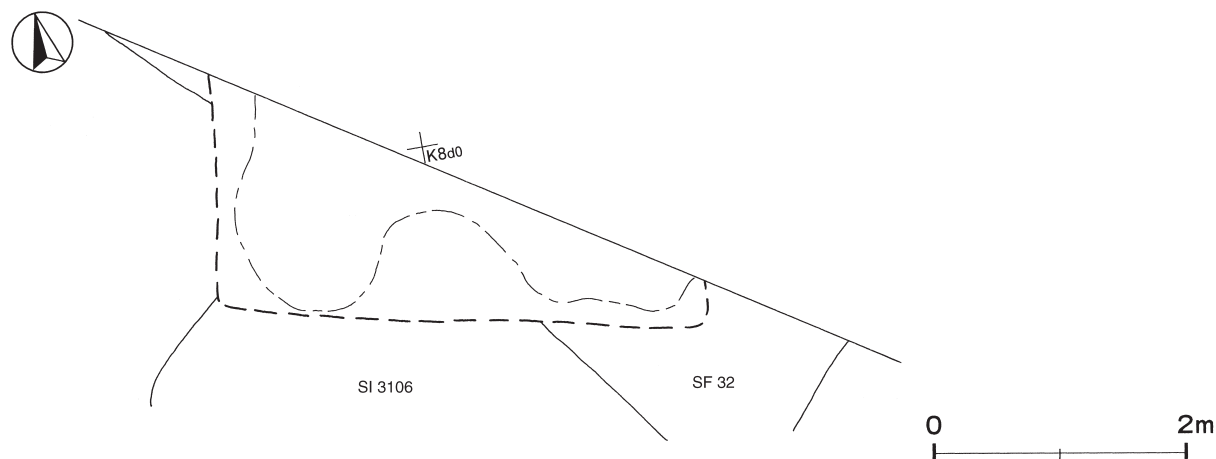
位置 4 区南西部の K 8 d9 区，標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3106 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 32 号道路跡との新旧関係は不明である。

**確認状況** 第3106号竪穴建物跡の確認面で、東西3.7m、南北1.7mの範囲で硬化面を確認した。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。

**所見** 時期は、第3106号竪穴建物跡を掘り込んでいることから7世紀前葉以降と考えられるが、出土遺物がないため詳細は不明である。



第24図 第3109号竪穴建物跡実測図

(2) 土坑

時期や性格が不明な土坑について、以下、実測図、土層解説及び一覧表にて掲載する。

調査年度 平成21年度

第6596号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量

第6598号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第6599号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第6610号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第6611号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

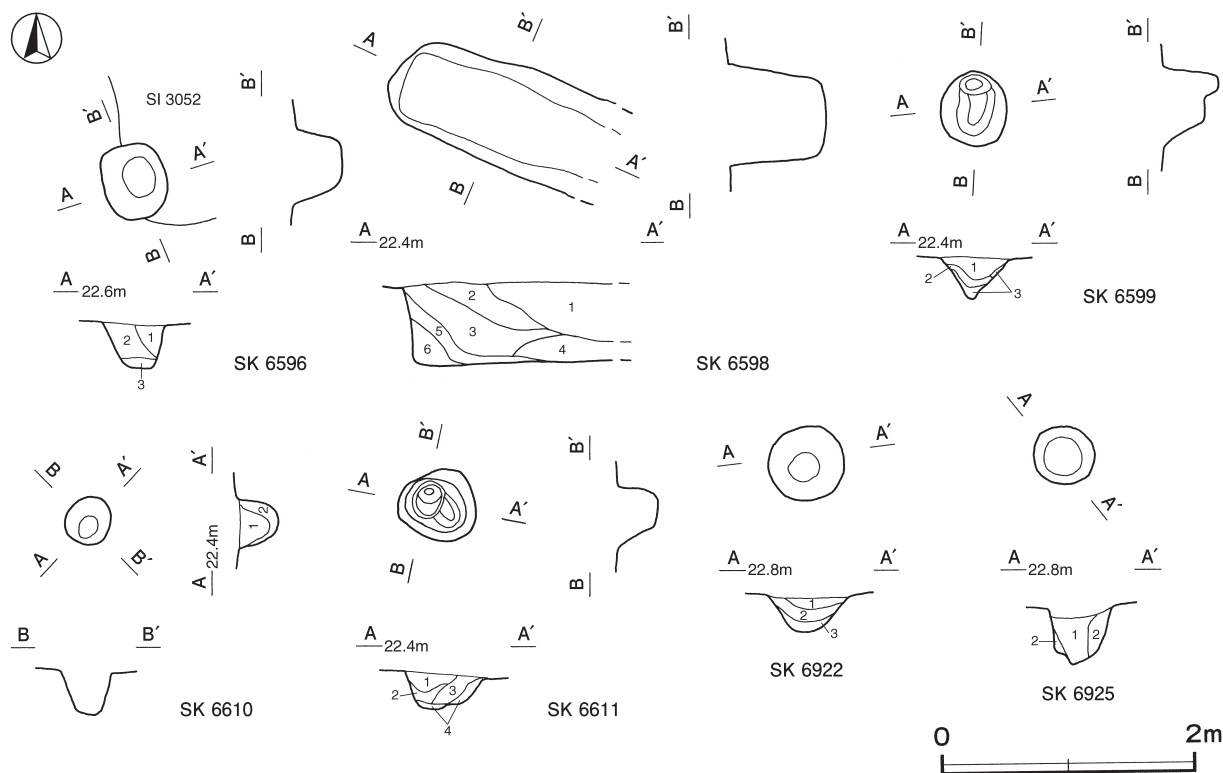
調査年度 平成22年度

第6922号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第6925号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子微量



第 25 図 その他の土坑実測図

表 5 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ (cm)					
6596	K 9 h2	N - 23° - W	楕円形	0.58 × 0.50	18	平坦	ほぼ直立	人為		SI3052 → 本跡
6598	K 9 i3	N - 68° - W	[隅丸長方形]	(1.72) × 0.82	38	平坦	直立	人為		
6599	K 9 g3	N - 2° - E	楕円形	0.59 × 0.53	22	有段	外傾	自然		
6610	K 9 g3	-	円形	0.40 × 0.38	17	平坦	ほぼ直立	人為		
6611	K 9 h3	-	円形	0.59 × 0.58	16	有段	ほぼ直立	人為		
6922	K 8 f8	N - 58° - E	円形	0.63 × 0.58	30	皿状	外傾	自然		SB572 との新旧不明
6925	K 9 f1	-	円形	0.48 × 0.47	45	鍋底状	直立	人為		

(3) 道路跡

第 32 号道路跡 (第 26・62 図)

調査年度 平成 22 年度

位置 4 区南西部の K 8 c9 ~ K 9 g2 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3052・3106・3107 号竪穴建物跡, 第 565 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第 3109 号竪穴建物跡, 第 535 号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 北西端部が調査区域外へ延び, 南東部は削平されているため, 幅は 1.6 ~ 2.7 m で, 長さは 18.2 m しか確認できなかった。K 9 g2 区から北西方向 (N - 33° - W) に直線的に延びている。

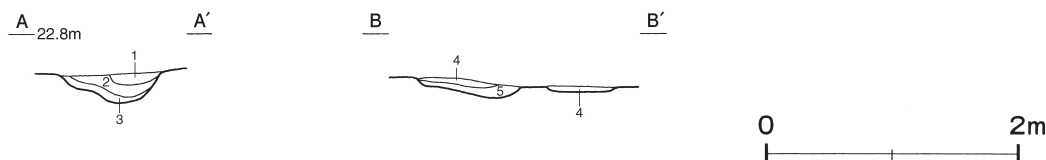
構築土 第 1 ~ 5 層を積み上げて道路を構築しており, 最上面は硬化している。

#### 構築土解説

- |         |           |         |                   |
|---------|-----------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 4 明 褐 色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 2 灰 褐 色 | ローム粒子微量   | 5 褐 色   | ローム粒子少量           |
| 3 灰 褐 色 | ローム粒子少量   |         |                   |

**遺物出土状況** 土師器片 19 点 (坏 2, 甕類 17), 須恵器片 3 点 (坏 2, 坏蓋 1), 陶器片 1 点 (瓶類) が出土している。いずれも細片のため, 図示できない。

**所見** 時期は, 特定できる土器が出土していないことから不明である。



第 26 図 第 32 号道路跡実測図

#### (4) 溝跡

##### 第 43 号溝跡 (第 27・62 図)

**調査年度** 平成 22 年度に調査した。K 8 g6 区より南部は平成 9 年度に調査し, 『当財団調査報告』第 166 集にて報告している。

**位置** 4 区南西部の K 8 c8 ~ K 8 f7 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3108 号建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 北部が攪乱を受け, 南部が調査区域外へ延びているため, 長さは 14.3 m しか確認できなかった。K 8 c8 区から南西方向 (N - 20° - E) へ直線的に延びている。西部が調査区域外へ延びているため, 規模は上幅 0.61 ~ 1.70 m, 下幅 0.10 ~ 0.35 m しか確認できなかった。深さは 1.41 ~ 1.58 m である。断面は逆台形で, 壁は外傾している。

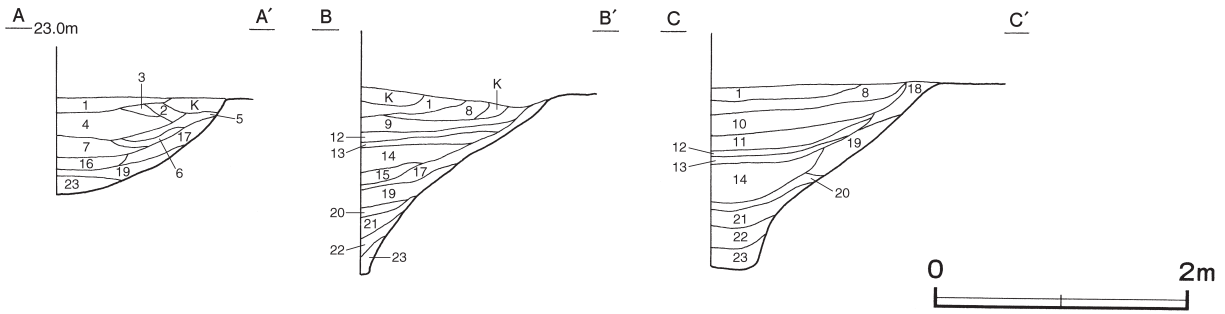
**覆土** 23 層に分層できる。多くの層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

#### 土層解説

- |          |                        |          |                         |
|----------|------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗 褐 色  | ロームブロック中量, 炭化物微量       | 13 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量       |
| 2 黒 褐 色  | ロームブロック少量              | 14 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量       |
| 3 黒 褐 色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 黒 褐 色 | ローム粒子微量                 |
| 4 暗 褐 色  | ロームブロック中量              | 16 暗 褐 色 | ロームブロック微量               |
| 5 暗 褐 色  | ロームブロック少量              | 17 褐 色   | ロームブロック少量               |
| 6 黒 褐 色  | ロームブロック微量              | 18 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 暗 褐 色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量      | 19 暗 褐 色 | ローム粒子少量                 |
| 8 褐 色    | ロームブロック中量              | 20 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量         |
| 9 暗 褐 色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量      | 21 褐 色   | ロームブロック中量, 炭化粒子微量       |
| 10 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量          | 22 褐 色   | ローム粒子中量                 |
| 11 暗 褐 色 | 炭化物微量                  | 23 褐 色   | ローム粒子中量, 炭化物微量          |
| 12 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |          |                         |

**遺物出土状況** 土師器片 19 点 (坏 2, 甕類 17), 須恵器片 3 点 (坏 2, 蓋 1), 陶器片 1 点 (瓶類) が出土している。いずれも細片のため, 図示できない。

**所見** 確認できる上幅で 1.70 m と規模が大きく, 底面が平坦であることから堀の可能性があり, 第 92 号堀跡との同一の可能性があるが, 詳細は不明である。時期は, 特定できる土器が出土していないことから不明である。



第 27 図 第 43 号溝跡実測図

**第 535 号溝跡** (第 28・61 図)

調査年度 平成 22 年度

位置 4 区南西部の K 9 f1 ～ K 8 h0 区，標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 565 号掘立柱建物に掘り込まれている。第 3053・3107 号建物跡，第 32 号道路跡，第 87 号ピット群との新旧関係は不明である。

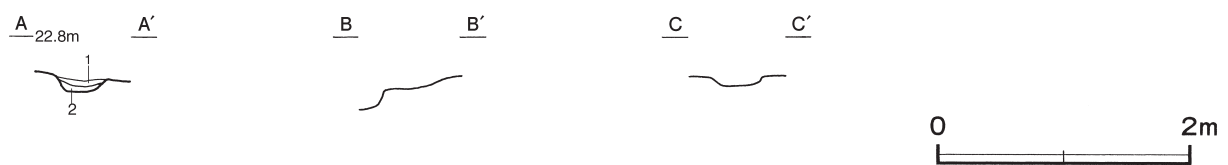
規模と形状 北部での確認が不明瞭で，南西部が調査区域外へ延びているため，長さは 9.5 m しか確認できなかった。K 9 e2 区から南西方向 (N - 30° - E) に直線的に延びている。上幅 0.37 ～ 0.73 m，下幅 0.17 ～ 0.32 m，深さ 7 ～ 16cm で，溝底は北東部から南東部へ向かって緩やかに下がっている。断面は U 字状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから，埋め戻されている。

土層解説

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1 暗 褐 色 ロームブロック少量 | 2 褐 色 ロームブロック少量 |
|-------------------|-----------------|

所見 出土遺物もなく，時期・性格ともに不明である。



第 28 図 第 535 号溝跡実測図

(5) ピット群

**第 87 号ピット群**(第 29 図)

調査年度 平成 22 年度

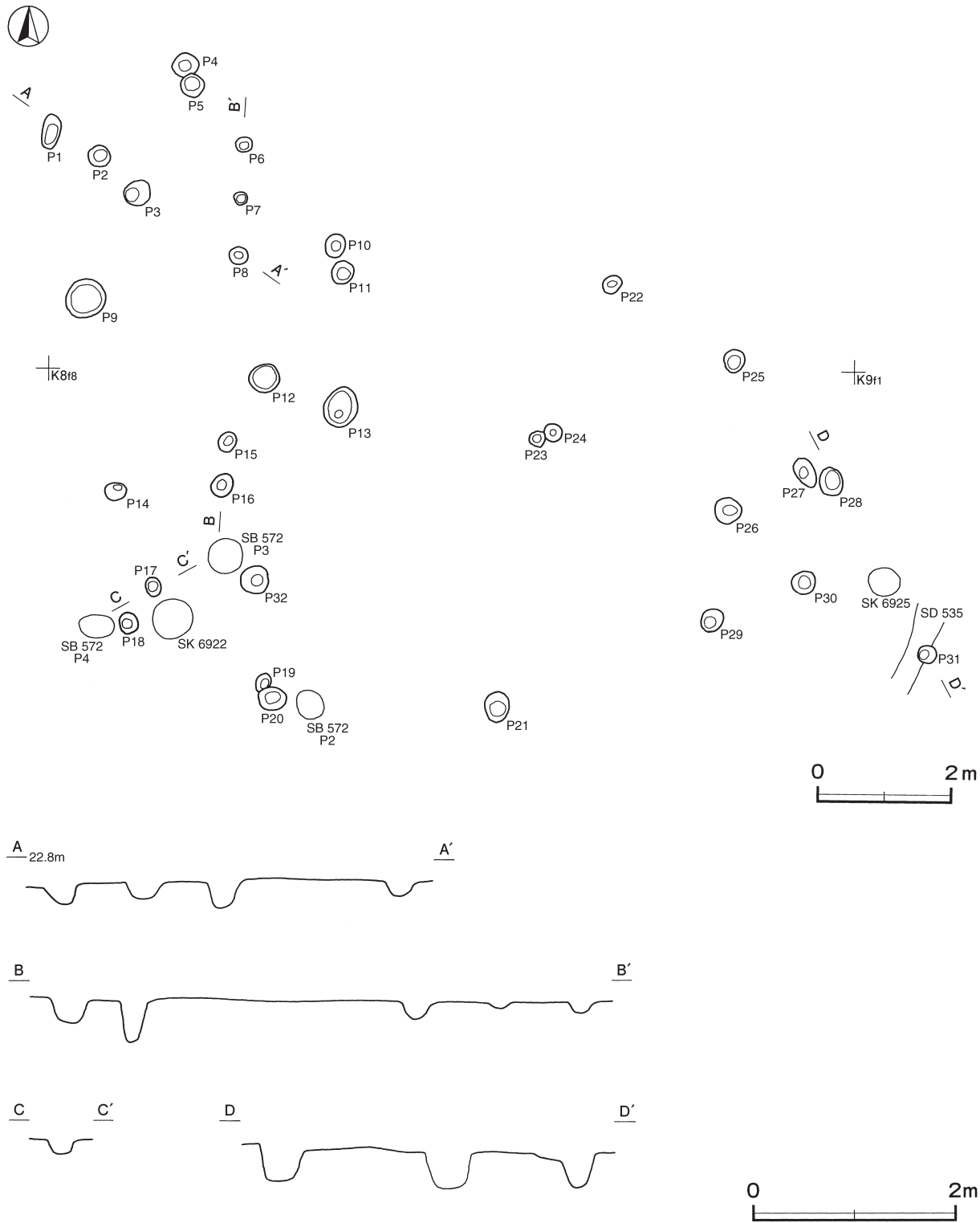
位置 4 区南西部の K 8 e8 ～ K 9 g1 区，標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 572 号掘立柱建物跡，第 6922・6925 号土坑，第 535 号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 東西 14 m，南北 10 m ほどの範囲にピット 32 基を確認した。形状は長径 20 ～ 62cm，短径 20 ～ 58cm の円形または楕円形で，深さは 6 ～ 50cm である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** 土師器片4点（坏2，甕類2）がP 17・P 20の覆土中からそれぞれ出土しているが、いずれも細片のため、図示できない。

**所見** 時期は、特定できる土器が出土していないことから不明である。



第 29 図 第 87 号ピット群実測図

## 第 87 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			
			長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	K 8 e8	楕円形	51	×	27	20
2	K 8 e8	円形	34	×	33	19
3	K 8 e8	楕円形	43	×	36	36
4	K 8 d8	楕円形	40	×	32	31
5	K 8 d8	円形	47	×	46	23
6	K 8 e8	円形	24	×	22	12
7	K 8 e8	円形	20	×	20	6
8	K 8 e8	円形	28	×	28	16
9	K 8 e8	円形	60	×	58	15
10	K 8 e9	楕円形	35	×	30	12
11	K 8 e9	円形	35	×	34	17
12	K 8 f8	円形	43	×	41	6
13	K 8 f9	楕円形	62	×	50	44
14	K 8 f8	楕円形	32	×	29	20
15	K 8 f8	円形	28	×	26	42
16	K 8 f8	楕円形	36	×	31	23

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			
			長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
17	K 8 f8	円形	28	×	26	19
18	K 8 f8	楕円形	35	×	31	15
19	K 8 g8	楕円形	30	×	23	22
20	K 8 g8	楕円形	40	×	35	50
21	K 8 g9	楕円形	45	×	38	15
22	K 8 e0	楕円形	30	×	25	21
23	K 8 f9	円形	24	×	24	37
24	K 8 f9	楕円形	29	×	26	10
25	K 8 e0	円形	34	×	34	26
26	K 8 f0	楕円形	40	×	37	24
27	K 8 f0	楕円形	47	×	30	20
28	K 8 f0	楕円形	42	×	37	30
29	K 8 f0	楕円形	37	×	31	18
30	K 8 f0	楕円形	35	×	31	30
31	K 9 g1	円形	29	×	27	35
32	K 8 f8	円形	43	×	42	27

## 第 4 節 8 区の遺構と遺物

### 1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 6 棟、掘立柱建物跡 1 棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### (1) 竪穴建物跡

##### 第 3118 号竪穴建物跡 (第 30 ~ 33 図)

**調査年度** 平成 23 年度

**位置** 8 区北西部の L 9 d1 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3117・3126 号竪穴建物、第 599 号掘立柱建物、第 569 号溝に掘り込まれている。第 7122・7134 号土坑、第 88 号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸 8.02 m、短軸 7.84 m の方形で、主軸方向は N - 27° - W である。壁は高さ 7 ~ 25cm で、外傾している。

**床** 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、東半部を除いて壁溝が巡っている。西壁際から柱穴に向かって、幅 23 ~ 26cm、長さ 104 ~ 146cm、深さ 3 ~ 6cm で、断面形が逆台形状の間仕切り溝 3 条を確認した。貼床は、各コーナー部を掘り下げ、ロームブロックを含む第 6 層を埋土して構築されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。南東部は攪乱を受けているため、焚口部から火床部の一部及び左袖部しか遺存していない。規模は残存している焚口部から煙道部まで 122cm で、残存している燃烧部幅は 16cm である。左袖部は、床面と同じ高さに粘土ブロックやローム粒子を含んだ第 8・9 層を積み上げて構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。第 1 層は天井部の崩落土である。煙道部は壁外に 37cm 掘り込まれ、煙道部から外傾している。



#### 竈土層解説

1	にぶい黄色	粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量	5	褐色	ローム粒子多量, 粘土ブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	焼土ブロック中量	6	黒褐色	炭化物多量, 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量
3	にぶい黄褐色	ローム粒子多量, 炭化物中量, 焼土ブロック・粘土粒子少量	7	にぶい黄褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	8	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量
			9	褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量

**ピット** 9か所。P1～P4は深さ45～64cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ11cm・46cmで、補助柱穴と考えられる。P8・P9は深さ15cm・17cmで、性格は不明である。P1～P9の第1～12層は柱抜き取り後の堆積層である。第13～15層は、掘方への埋土である。P1～P4の底面で、柱の当たりを確認した。

#### ピット土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	9	灰黄褐色	ローム粒子中量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	10	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	11	灰黄褐色	ロームブロック中量
4	灰黄褐色	ロームブロック多量	12	暗褐色	ローム粒子中量
5	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック多量
6	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
7	にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	15	にぶい黄褐色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ロームブロック少量			

**貯蔵穴** 北東コーナー部に付設されている。長軸96cm, 短軸66cmの不整隅丸長方形で、深さは42cmである。底面は平坦で、壁は西部が一段上がり、外傾している。

#### 貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量	3	黒褐色	ロームブロック少量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	4	灰黄褐色	ロームブロック少量

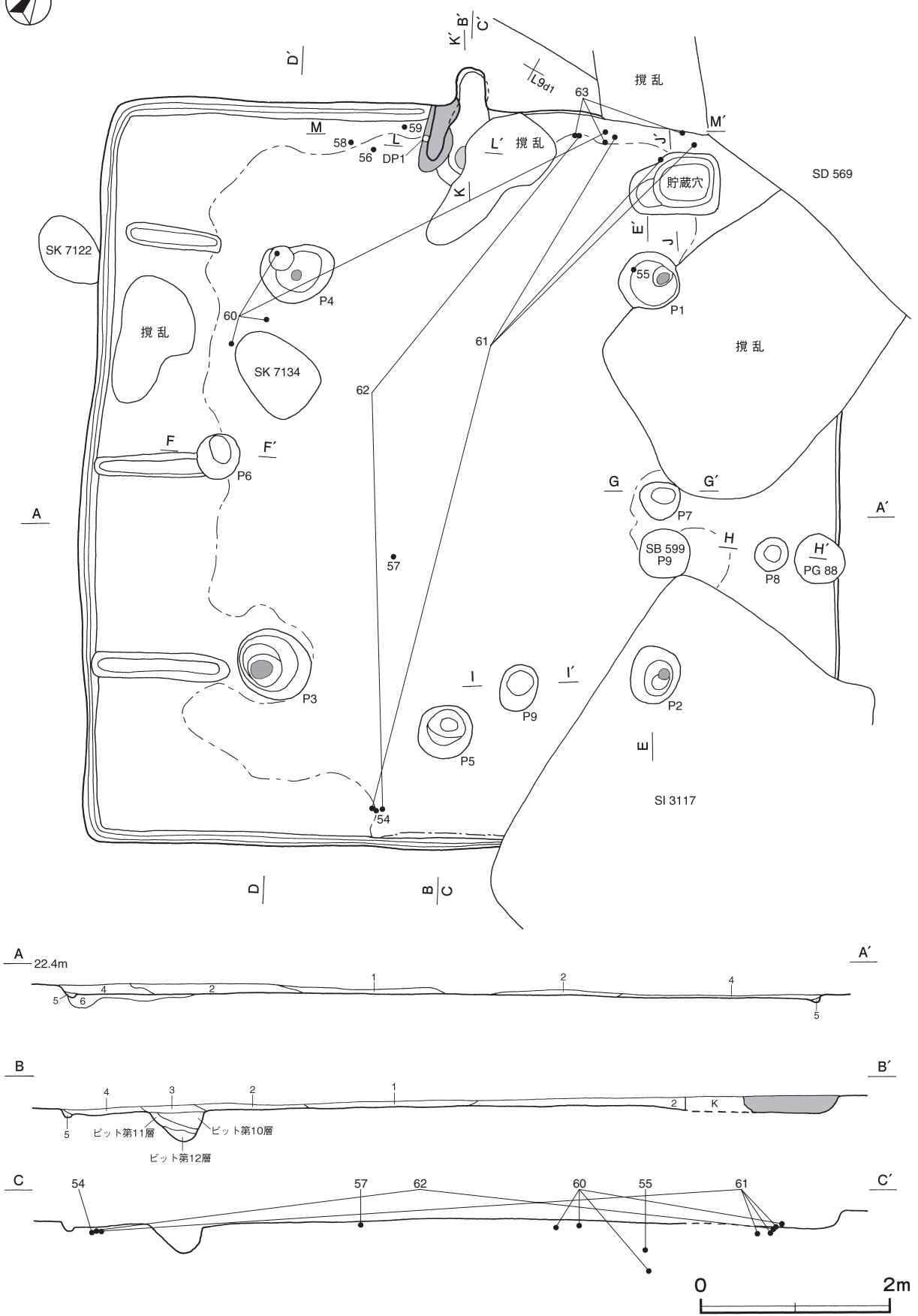
**覆土** 5層に分層できる。第1～4層は、各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5層は、ローム粒子が多量に含まれていることから、壁の崩落土と考えられる。

#### 土層解説

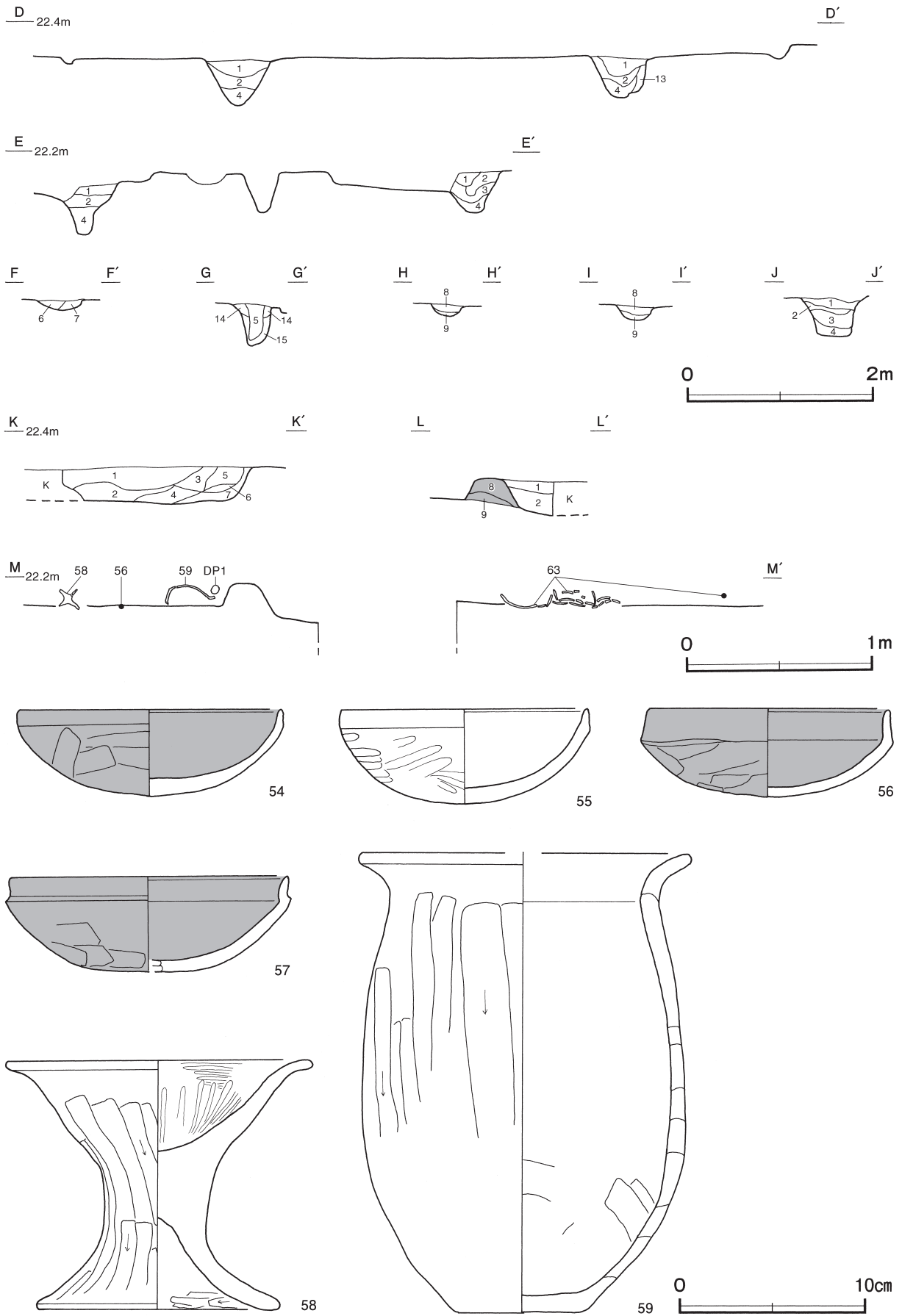
1	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量	4	灰黄褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	5	褐色	ローム粒子多量
3	暗褐色	ロームブロック少量	6	褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片94点(坏5, 高坏1, 甕類85, 小形甕1, 甑2), 須恵器片2点(蓋, 甕類), 土製品1点(支脚)が出土している。54は南壁際, 56は竈左袖脇の床面から、逆位で床面から出土していることから、廃絶時にそれぞれ遺棄されたものとみられる。55は、P1の覆土下層から残存状況が良好な状態で出土していることから、埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。57は、覆土下層から出土していることから、埋め戻しの過程で廃棄されたか混入したものとみられる。58は、残存状況が良好で、横位で竈左袖脇の床面から出土していることから、遺棄されたものが埋め戻しの過程で倒れたものと考えられる。59は、覆土下層から半部を欠損した状態で出土していることから、すでに壊れたものが埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。60は、P4の覆土下層から床面にかけて分散して出土した破片が接合していることから、埋め戻しの過程で投棄されたものとみられる。61は、床面から分散して出土した破片が接合していることから、埋め戻される前に投棄されたものとみられる。63は、残存状況が良好で、横位で竈右袖脇の床面から出土していることから、遺棄されたものが埋め戻しの過程で倒れたものと考えられる。

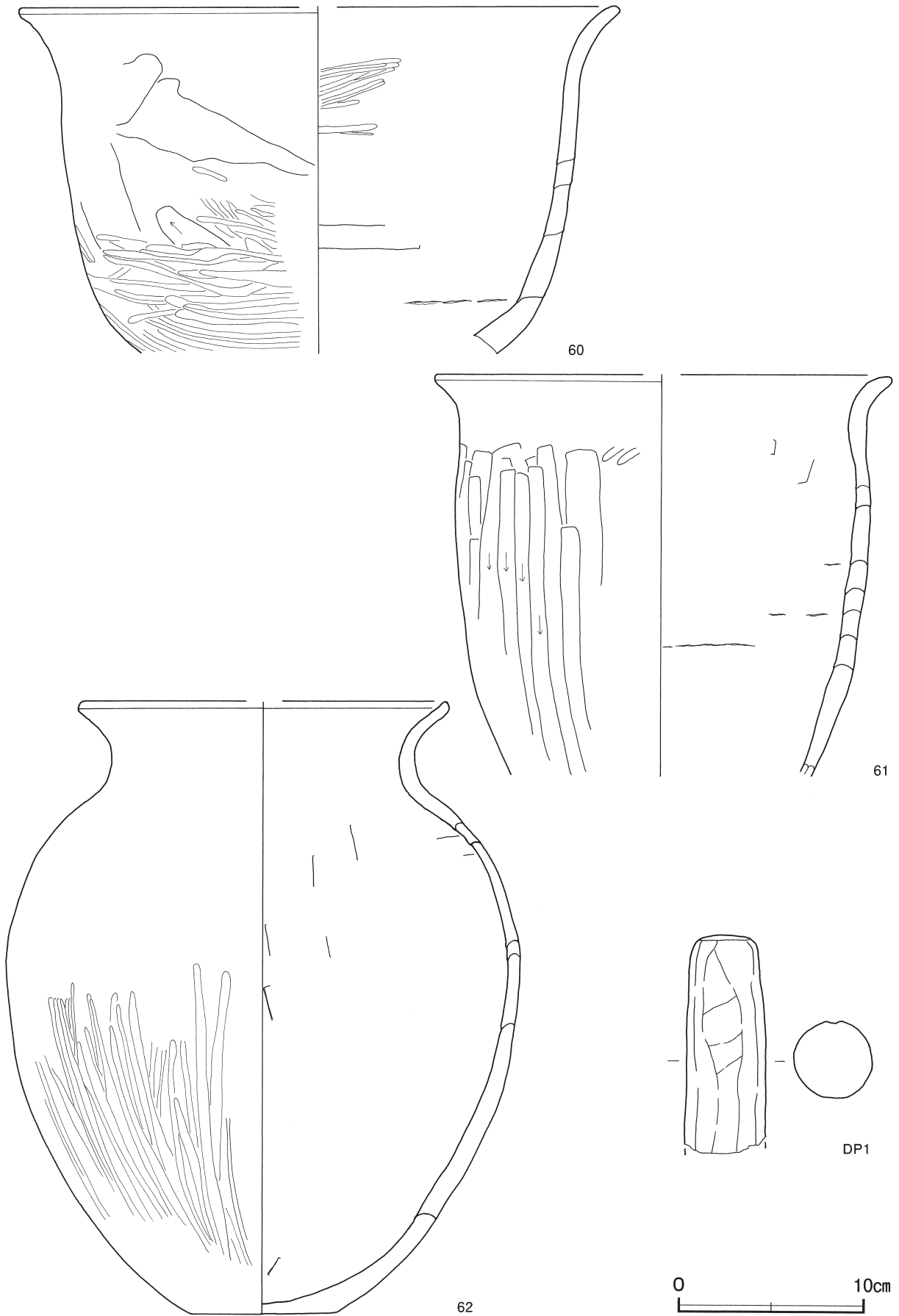
**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉～7世紀前葉と考えられる。



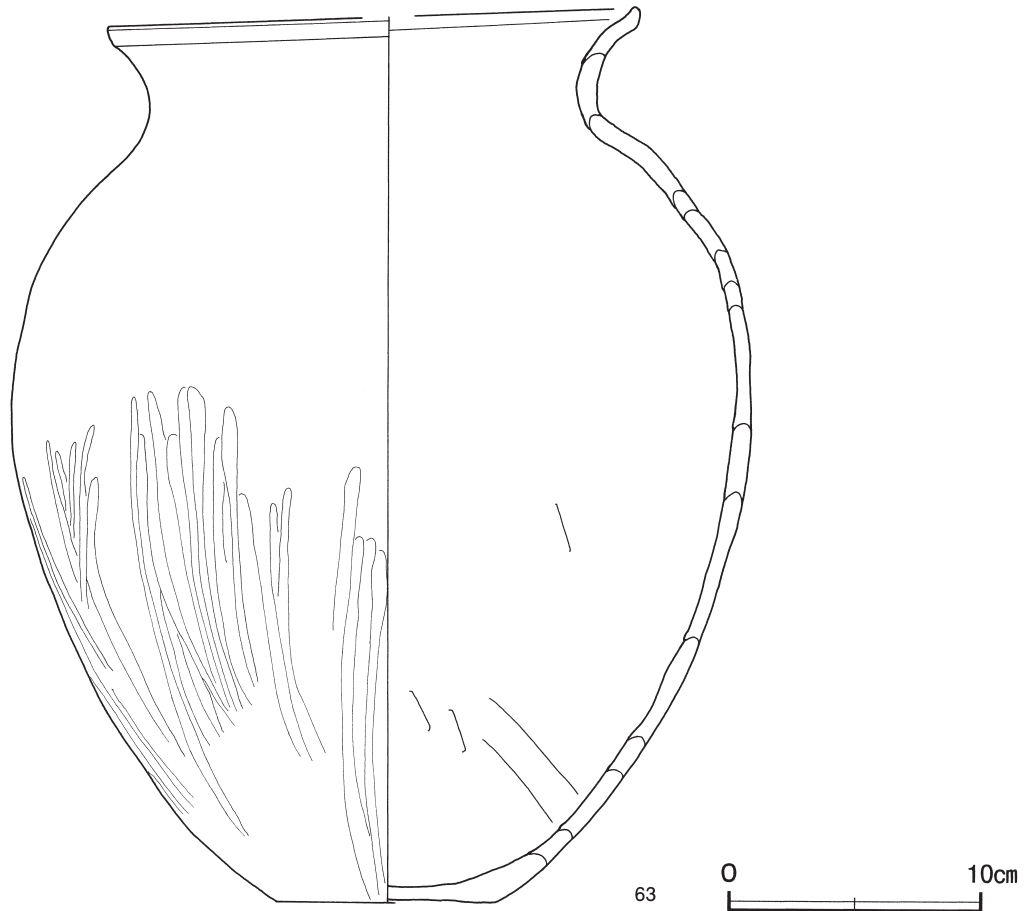
第 30 図 第 3118 号 竪穴建物跡実測図



第 31 図 第 3118 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 32 图 第 3118 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 33 図 第 3118 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 3118 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 31 ~ 33 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	土師器	坏	14.2	4.7	-	長石・石英・赤色粒子・角閃石	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	90% PL 9
55	土師器	坏	13.2	5.1	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ磨き	P 1 覆土下層	95%
56	土師器	坏	13.0	4.7	-	長石・石英・白色粒子	暗赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	90% PL 9
57	土師器	坏	15.0	5.1	-	長石・石英	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	30%
58	土師器	高坏	16.4	13.5	12.8	長石・石英	にぶい褐	普通	坏部外面ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き後放射状のヘラ磨き 脚部外・内面ヘラ削り	床面	80%
59	土師器	甕	[17.6]	24.8	7.2	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	60%
60	土師器	甕 <sub>ろ</sub>	[32.0]	(18.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り及びヘラナデ後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き及びヘラナデ	P 4 覆土下層 ~ 床面	40%
61	土師器	甕	[24.4]	(21.6)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ磨き及びヘラ削り	床面	30%
62	土師器	甕	[19.8]	33.0	7.8	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ磨き	床面	50%
63	土師器	甕	[21.0]	35.4	8.8	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ磨き	床面	80% PL10

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	支脚	3.1	4.5	(11.7)	(233.5)	長石・石英・赤色粒子	橙	下端部欠損 縦位のヘラ削り	覆土下層	

第 3121 号竪穴建物跡 (第 34 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 8 f8 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3120 号竪穴建物に掘り込まれている。

**確認状況** 床面及び竈火床部の一部、ピットを確認した。

**規模と形状** 本跡の大半が攪乱を受けているため、南北軸は 2.78 m、東西軸は 2.50 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 28° - W と推定できる。

**床** 平坦で、竈の焚口部から中央部まで踏み固められている。

**竈** 北壁に付設されていると推定できる。北部は攪乱を受けているため、わずかな焚口部と火床部の一部しか遺存していない。規模は、残存している焚口部から火床部まで 41cm である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

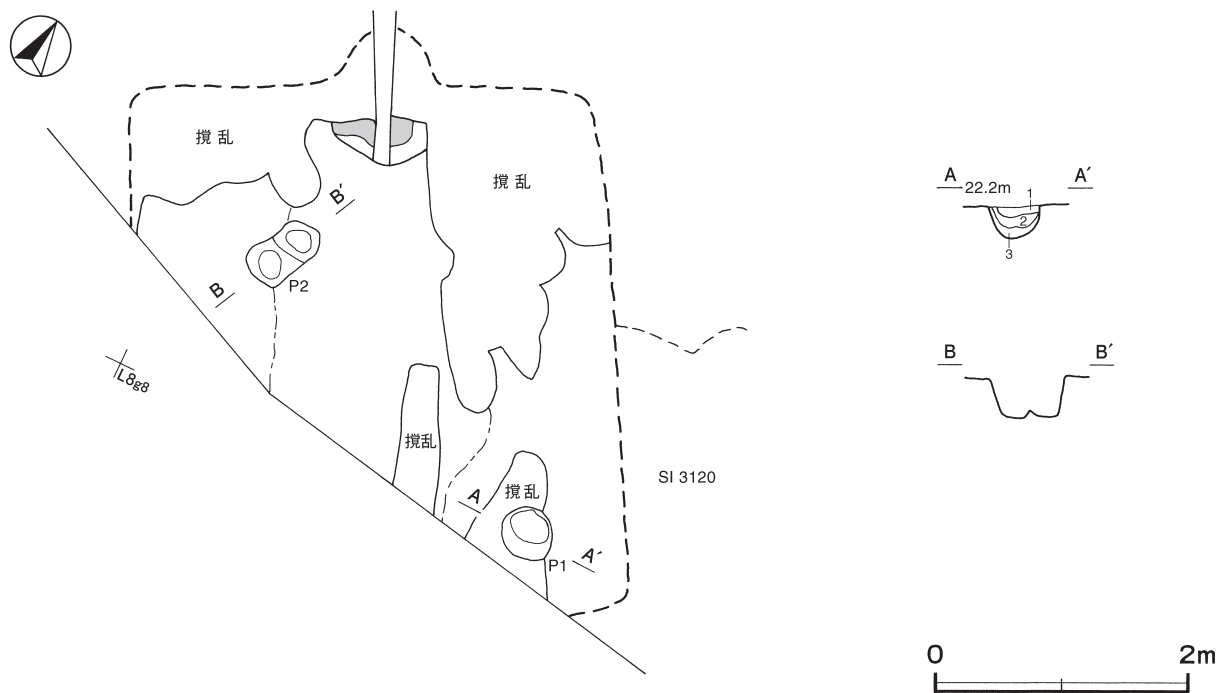
**ピット** 2 か所。P 1・P 2 は深さ 26cm・33cm で、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 1 の第 1～3 層は柱抜き取り後の堆積層である。P 2 は、柱の建て替えが行われている。

**ピット土層解説**

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量        |                 |

**遺物出土状況** 土師器片 4 点（坏 2，甕類 2）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器や主軸方向から、古墳時代後期と考えられる。



第 34 図 第 3121 号竪穴建物跡実測図

**第 3122 号竪穴建物跡** (第 35～39 図)

**調査年度** 平成 23 年度

**位置** 8 区北西部の L 9 f3 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3123 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は 5.53 m で、南北軸は 5.20 m しか確認できなかった。ほぼ方形で、主軸方向は N - 26° - W と推定できる。壁は高さ 23～29cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、竈の焚口部から中央部にかけて踏み固められている。壁下には、東半部を除いて壁溝が巡っている。西壁から中央に向かって、ほぼ等間隔に幅14～27cm、長さ105～129cm、深さ2～5cmほどの根太を据え付けていたと考えられる溝を6条確認した。貼床は、壁際を平坦に掘り下げ、ロームブロックを含む第11層を埋土して構築されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。南西部は攪乱を受けているため、焚口部の一部と右袖部しか遺存していない。規模は残存している焚口部から煙道部まで120cmである。煙道部は壁外に43cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。

**竈土層解説**

- |       |                         |       |                    |
|-------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量    |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量    | 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |

**ピット** 4か所。P1～P3は深さ47～55cmで、規模と配置から主柱穴である。P4は深さ34cmで、南壁寄りの中央部付近に位置していると推定できることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1～P4の第1～4層は柱抜き取り後の堆積層で、第5～7層は、掘方への埋土である。

**ピット土層解説**

- |          |                        |          |           |
|----------|------------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量 | 5 灰黄褐色   | ロームブロック中量 |
| 2 灰黄褐色   | ロームブロック少量              | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量              | 7 褐色     | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色    | ロームブロック中量              |          |           |

**貯蔵穴** 北東コーナー部に付設されている。長軸115cm、短軸90cmの隅丸長方形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。南西部には、幅9～23cmで、高さ5cmのL字状の高まりを確認した。覆土中層～上層からは、周辺に遺棄されたと考えられるほぼ完形の坏や甕が流れ込むようにして出土していることから、埋め戻しの過程で内部に転落したものと考えられる。そのため、廃絶時には、開口していたものとみられる。

**貯蔵穴土層解説**

- |          |           |       |           |
|----------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック中量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |       |           |

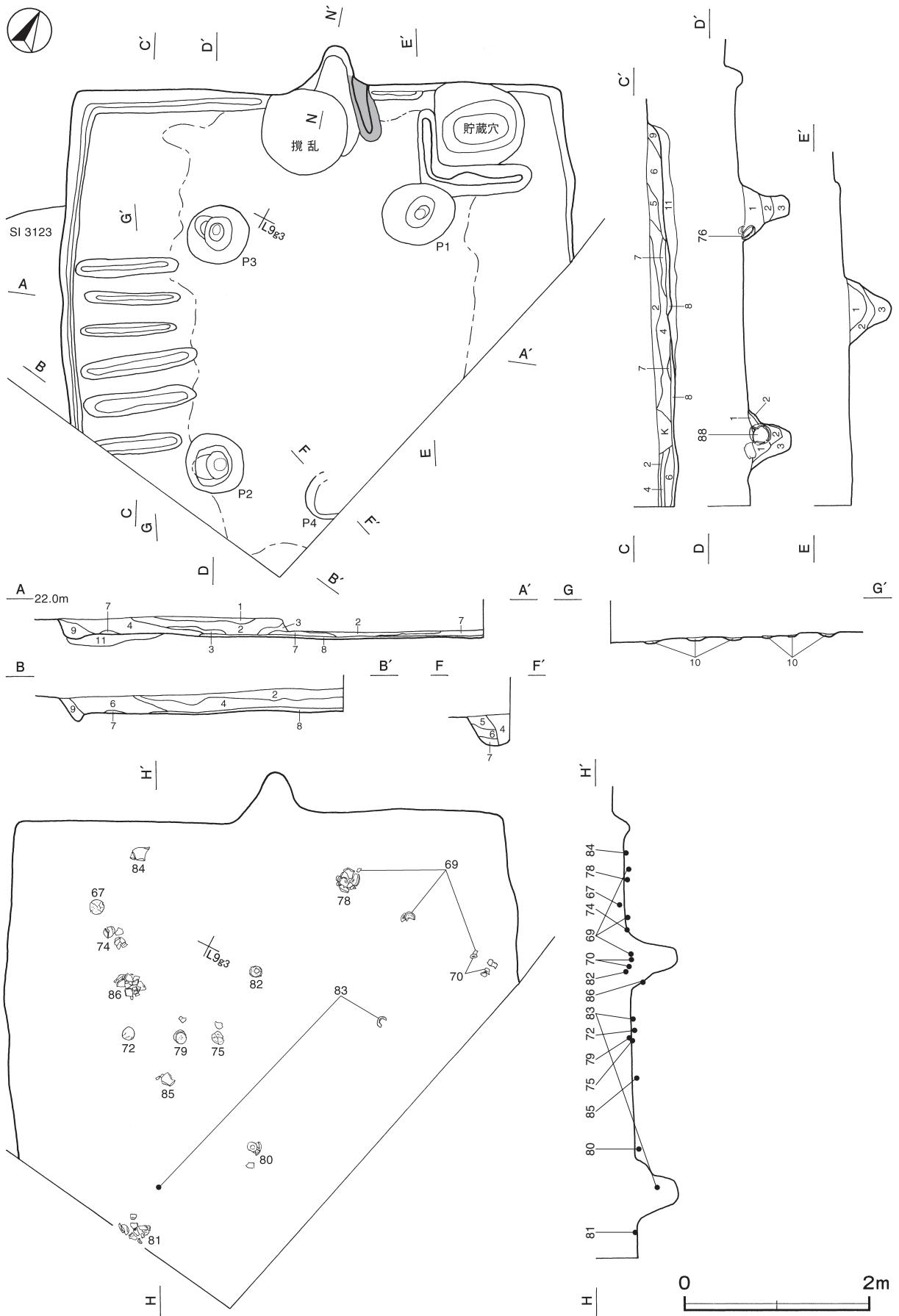
**覆土** 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |          |                    |          |                  |
|----------|--------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック少量          | 7 褐色     | ローム粒子多量          |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量          | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量        |
| 3 灰黄色    | 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量  | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色    | ロームブロック少量、炭化粒子微量   | 10 灰黄褐色  | ロームブロック中量        |
| 5 灰黄色    | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 11 褐色    | ロームブロック中量        |
| 6 暗褐色    | ロームブロック少量          |          |                  |

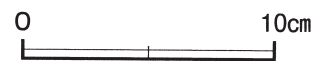
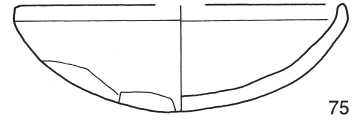
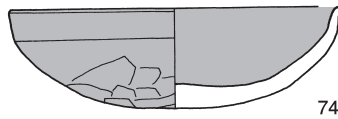
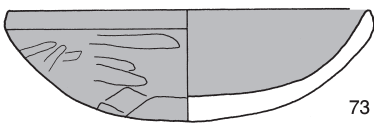
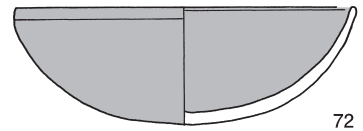
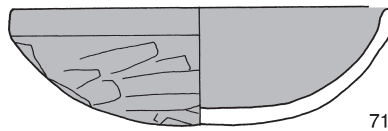
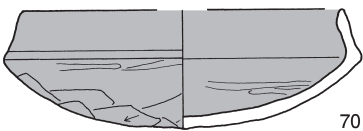
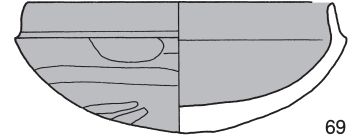
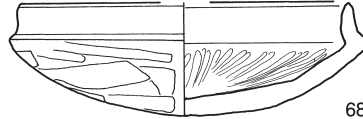
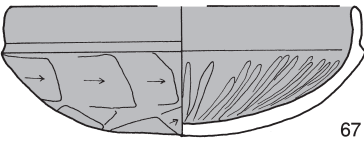
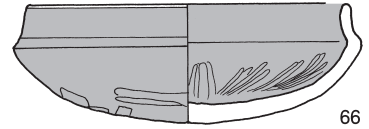
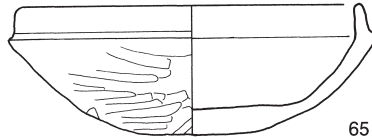
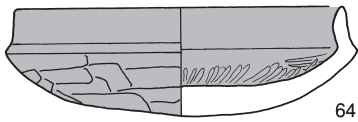
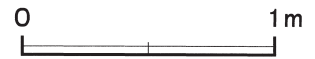
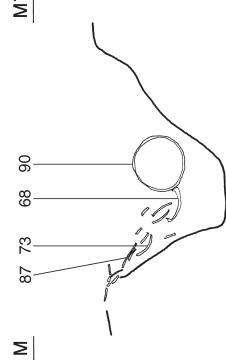
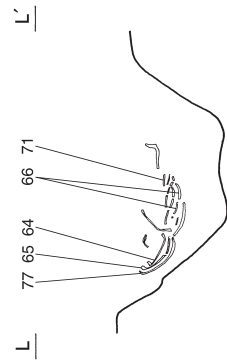
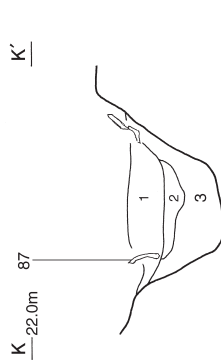
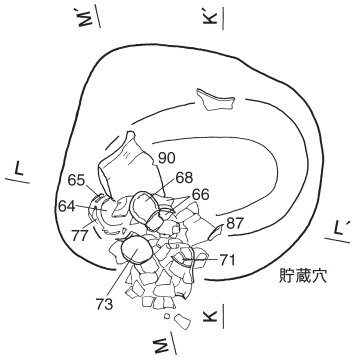
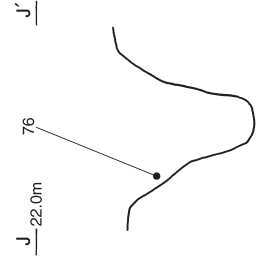
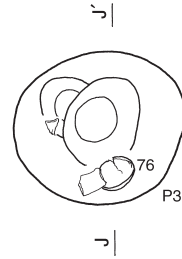
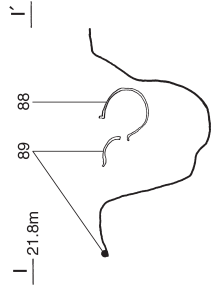
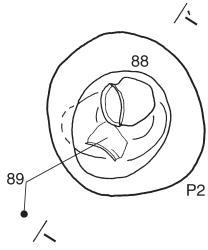
**遺物出土状況** 土師器片152点（坏43、椀1、高坏1、鉢2、壺1、小形壺1、甕類98、小形甕3、甑2）のほか、須恵器片1点（甕）が、覆土中層から床面にかけて全体に出土している。76・83・86・88・89は、残存状況が良好で、柱穴内の覆土中層から上層にかけて流れ込むようにして出土していることから、柱穴周辺に遺棄されたものが埋め戻しの過程で内部に転落したものとみられる。67・74・78・79は、残存状況が良好で、覆土下層から出土していることから、埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。69・70は、床面から分散して出土した破片が接合していることから、埋め戻される前に投棄されたものとみられる。72・75・80は、逆位で床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。81は、覆土下層から出土していることから、埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

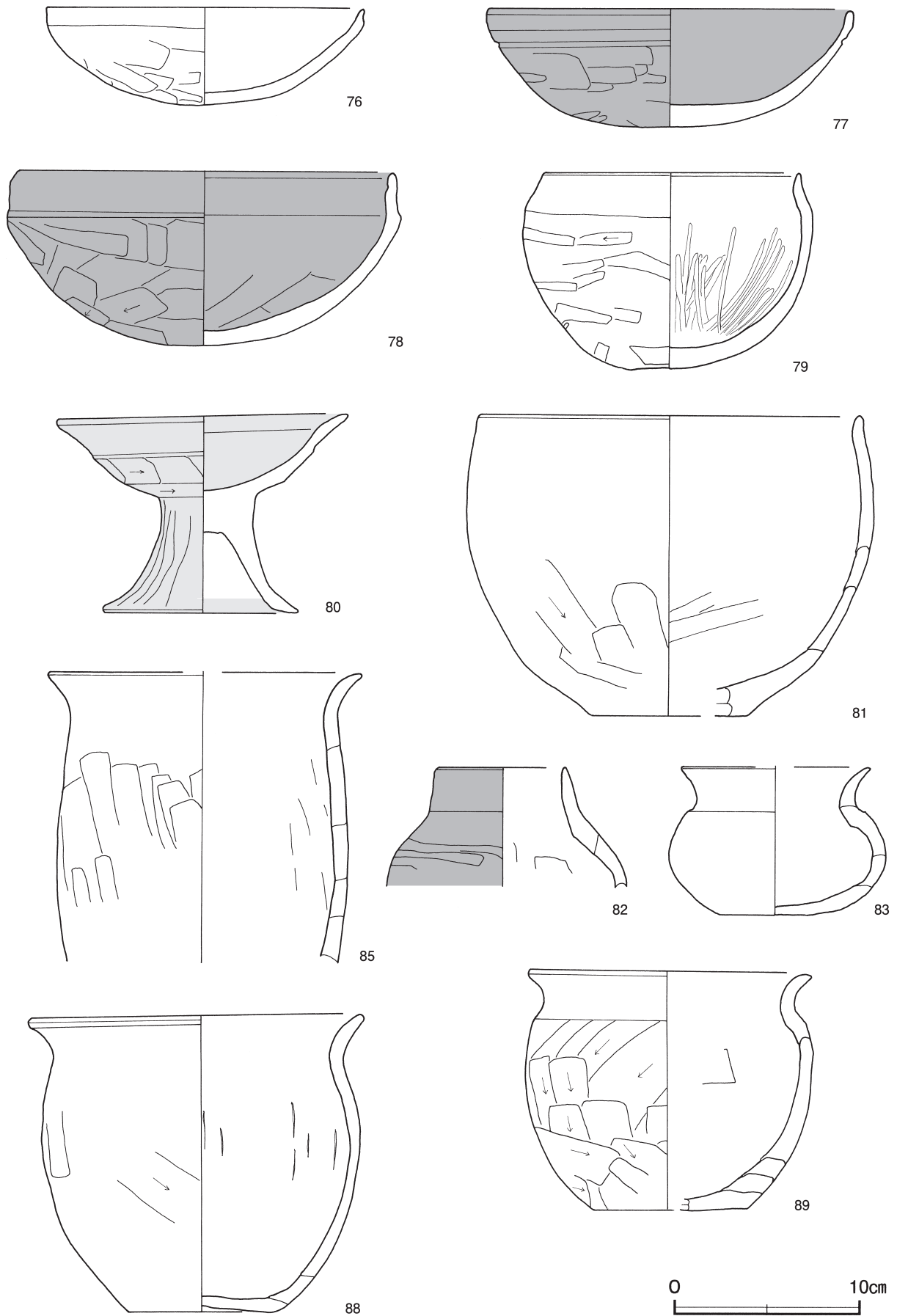


第 35 图 第 3122 号竖穴建物迹实测图

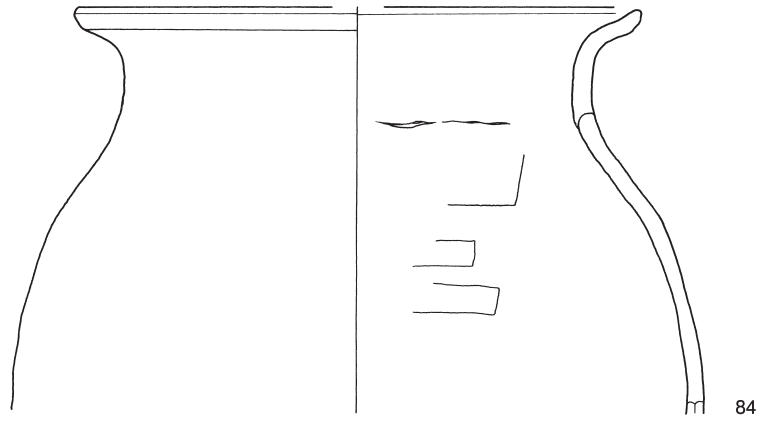




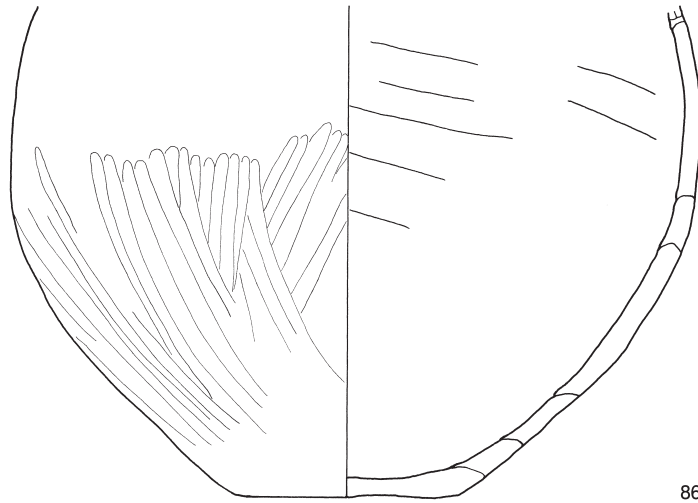
第 36 図 第 3122 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図



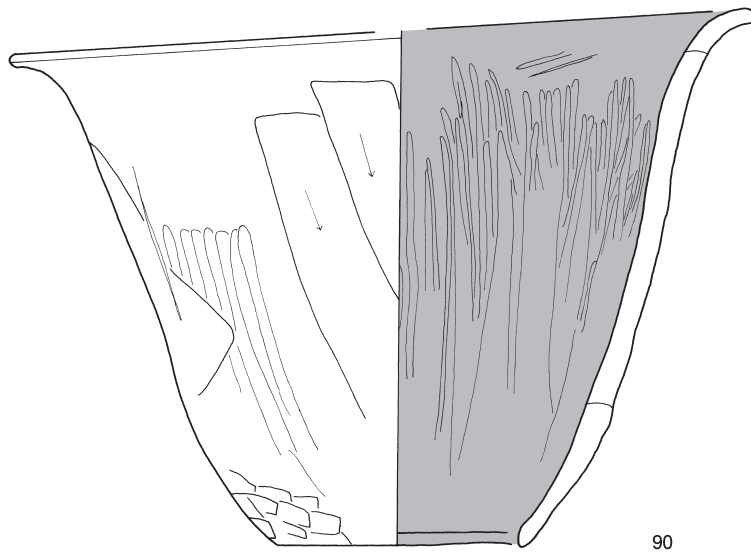
第 37 图 第 3122 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



84



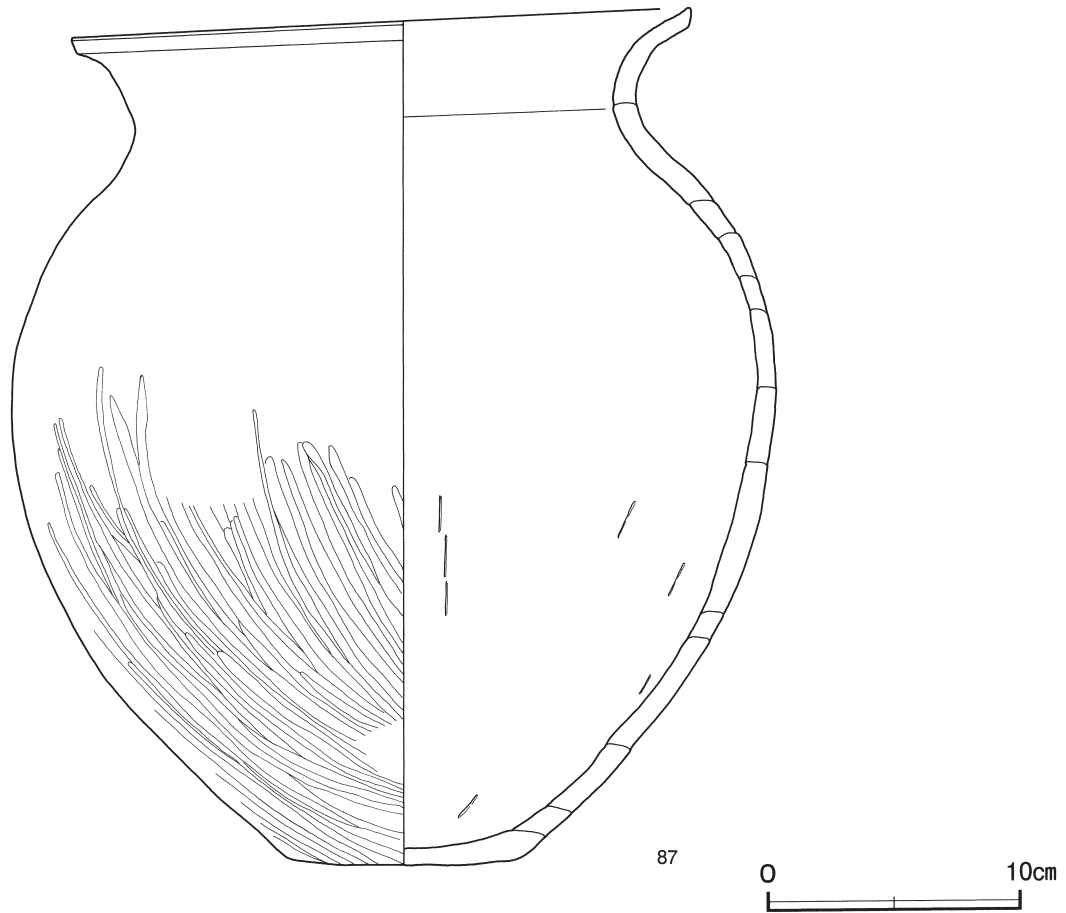
86



90



第 38 図 第 3122 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 39 図 第 3122 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 3122 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 36 ~ 39 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
64	土師器	坏	12.9	4.3	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き後放射状のヘラ磨き	貯蔵穴 覆土上層	95% PL 9
65	土師器	坏	13.5	5.1	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	90% PL 9
66	土師器	坏	12.7	4.7	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘ ラ磨き 内面放射状のヘラ磨き	貯蔵穴 覆土中層	90% PL 9
67	土師器	坏	[13.8]	5.1	-	長石・石英・ 細礫	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	90% PL 9
68	土師器	坏	[13.0]	4.4	-	長石・石英	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	貯蔵穴 覆土中層	80% PL 9
69	土師器	坏	12.2	5.2	-	長石・石英・ 赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	80% PL 9
70	土師器	坏	[12.6]	4.7	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り及び ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	床面	60%
71	土師器	坏	14.9	4.7	-	長石・石英	暗褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	貯蔵穴 覆土中層	70% PL 9
72	土師器	坏	13.4	4.7	-	長石・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	床面	95% PL 9
73	土師器	坏	14.2	4.4	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り及び ヘラ磨き 内面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	95%
74	土師器	坏	13.1	4.0	-	長石・石英・ 白色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	60%
75	土師器	坏	[13.0]	4.2	-	長石・石英・ 赤色粒子・白色粒子	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	60%
76	土師器	坏	17.2	5.3	-	長石・石英・ 赤色粒子・角閃石	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	P 3 覆土中層	95%
77	土師器	坏	19.4	6.4	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り及び ヘラ磨き 内面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	80%
78	土師器	鉢	20.3	9.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	80%
79	土師器	椀	13.7	10.6	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ後放射状のヘラ磨き	覆土下層	95%
80	土師器	高坏	15.6	10.8	10.4	長石・石英・ 黒色粒子	赤褐	普通	坏口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 脚部外面ヘラ削り 内面横ナデ	床面	80% PL10
81	土師器	鉢	20.5	16.2	[8.4]	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘ ラナデ	覆土下層	40%
82	土師器	壺	6.8	(6.5)	-	長石・石英・ 白色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	土師器	小形壺	[10.8]	8.0	6.0	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい赤褐	普通	被熱による剥離が顕著	P 2 覆土中層～床面	80%
84	土師器	甕	[22.0]	(16.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	20%
85	土師器	甕	[16.9]	(15.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ	床面	30%
86	土師器	甕	-	(19.5)	8.2	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	P 3 覆土上層	40%
87	土師器	甕	24.7	34.0	9.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土上層	80% PL10
88	土師器	小形甕	17.7	16.1	8.1	長石・石英・細礫	暗褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ	P 2 覆土上層	100% PL10
89	土師器	小形甕	15.0	13.0	8.2	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ	P 2 覆土上層～床面	60%
90	土師器	甗	[29.2]	21.4	9.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面放射状のヘラ磨き	貯蔵穴 覆土中層	90% PL10

### 第 3123 号竪穴建物跡(第 40 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 9 g2 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3124 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 3122 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第 3122 号竪穴建物に掘り込まれ, 南西部が調査区域外に延びているため, 東西軸は 2.29 m, 南北軸は 2.11 m しか確認できなかった。竈の位置から, 主軸方向は N - 36° - W と推定できる。

床 平坦である。竈の西側の北壁下には, 壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 72cm で, 燃焼部幅は 39cm である。火床部は, 床面を 18cm ほど掘りくぼめた部分に焼土ブロックやロームブロックを含んだ第 2・3 層を埋土して構築され, 火床面は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

#### 竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック多量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

覆土 3 層に分層できる。第 1～3 層は, ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 1 点(坏)が出土している。

所見 時期は, 特定できる土器が出土していないため詳細は不明であるが, 第 3122 号竪穴建物に掘り込まれていることや主軸方向から, 6 世紀後葉以前の古墳時代と考えられる。

### 第 3124 号竪穴建物跡(第 40 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 9 g1 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3123 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第 3123 号竪穴建物に掘り込まれ, 南部が調査区域外に延びているため, 東西軸は 1.68 m, 南北軸は 0.49 m しか確認できなかった。竈の位置から, 主軸方向は N - 6° - W と推定できる。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 90cm で, 燃焼部幅は 47cm である。火床部は, 床面を 14cm ほど掘りくぼめた部分に粘土ブロックやローム粒子を含んだ第 4～6 層を埋土して構築されている。

火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、壁外に55cm掘り込まれている。火床部手前には、土製の支脚が据えられている。

**竈土層解説**

- |                           |                                    |
|---------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量      | 5 におい褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量             | 6 におい赤褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック微量         |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量 |                                    |
| 4 におい赤褐色 焼土ブロック中量         |                                    |

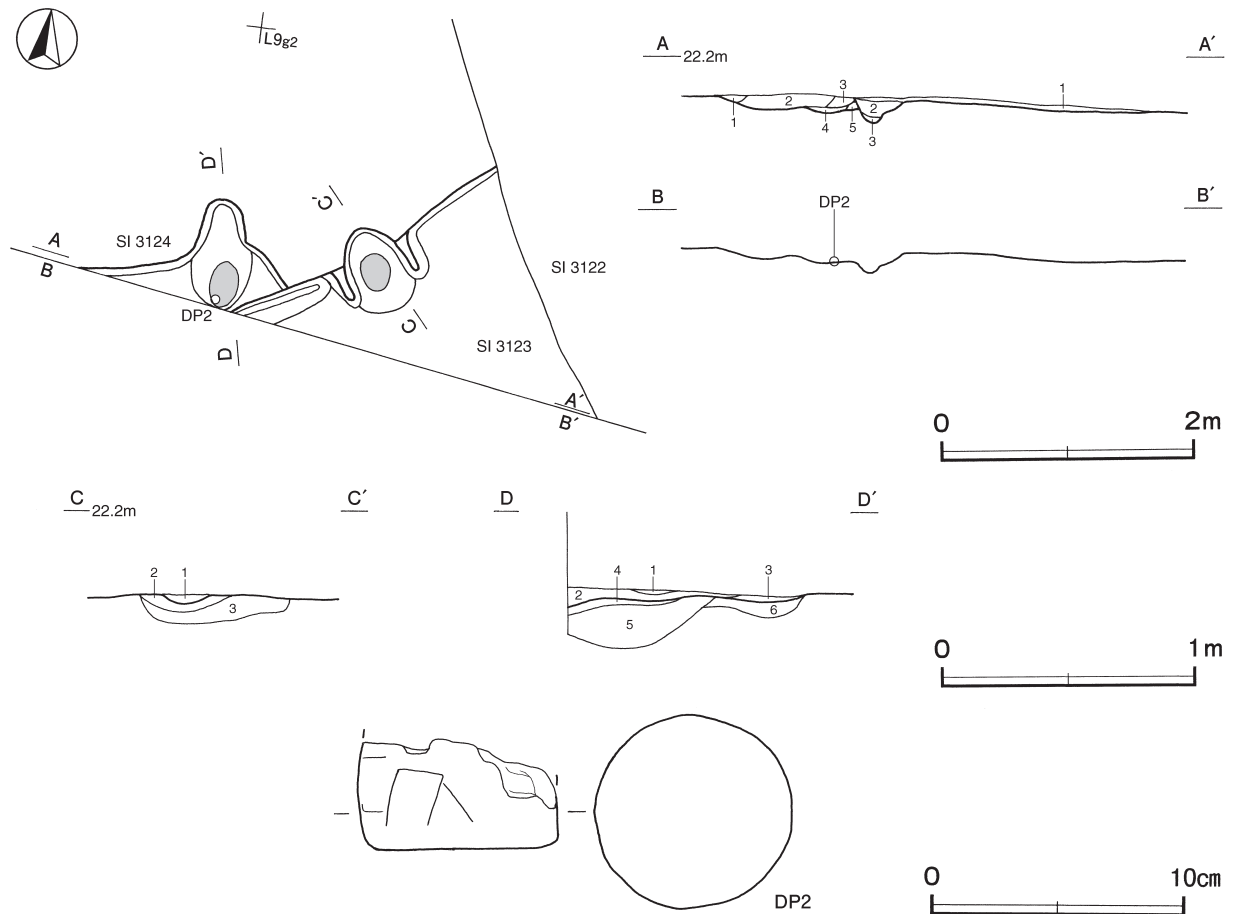
**覆土** 5層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |                                 |                                  |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量                   | 4 におい赤褐色 焼土ブロック中量                |
| 2 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量             | 5 におい褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 におい黄褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |                                  |

**遺物出土状況** 土製品1点(支脚)が出土している。

**所見** 時期を特定できる土器が出土していないため詳細は不明であるが、第3123号竈穴建物に掘り込まれていることや、主軸方向から6世紀後葉以前の古墳時代と考えられる。



第40図 第3123・3124号竈穴建物跡, 第3124号竈穴建物跡出土遺物実測図

第3124号竈穴建物跡出土遺物観察表(第40図)

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	支脚	-	8.0	(4.4)	(231.6)	長石・石英	橙	上半部欠損 ヘラ削り	竈覆土下層	

**第 3125 号 竪穴建物跡 (第 41・42 図)**

**調査年度** 平成 23 年度

**位置** 8 区北西部の L 8 f0 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3119 号 竪穴建物・第 7137・7138 号 土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延び, 南東部が第 3119 号 竪穴建物に掘り込まれているため, 南北軸は 2.73 m, 東西軸は 5.67 m しか確認できなかった。隅丸方形または隅丸長方形で, 主軸方向は N - 30° - W と推定できる。壁は高さ 9 cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦である。

**竈** 北壁中央部に付設されている。南部は第 3119 号 竪穴建物に掘り込まれているため, 両袖部の一部と煙道部しか遺存していない。規模は残存している煙道部で 58 cm, 燃焼部幅は 53 cm である。煙道部は壁外に 39 cm 掘り込まれ, 煙道部から外傾している。第 1 層は天井部の崩落土である。

**竈土層解説**

- 1 にぶい橙色 粘土粒子多量, 焼土粒子中量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

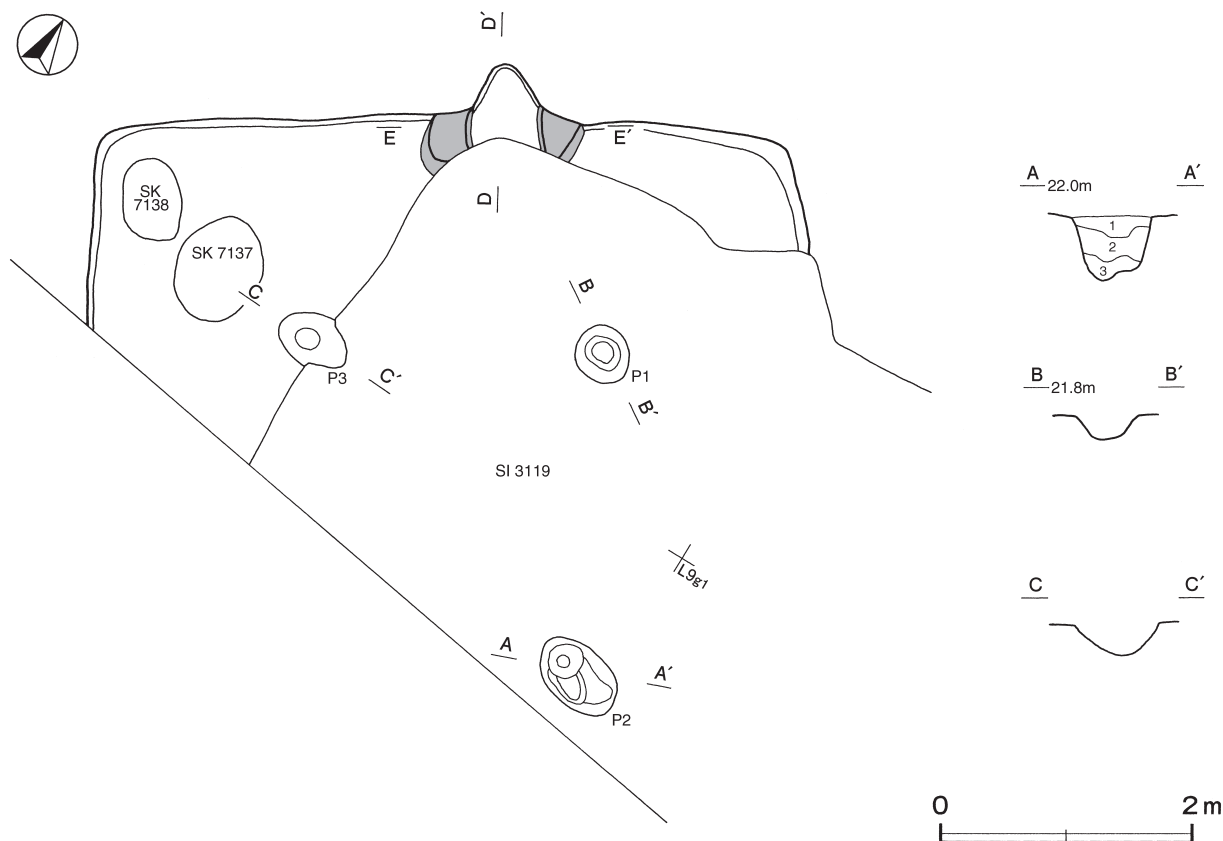
**ピット** 3 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 19 ~ 51 cm で, 規模と配置から支柱穴である。P 2 の第 1 ~ 3 層は柱抜き取り後の堆積層である。

**ピット土層解説**

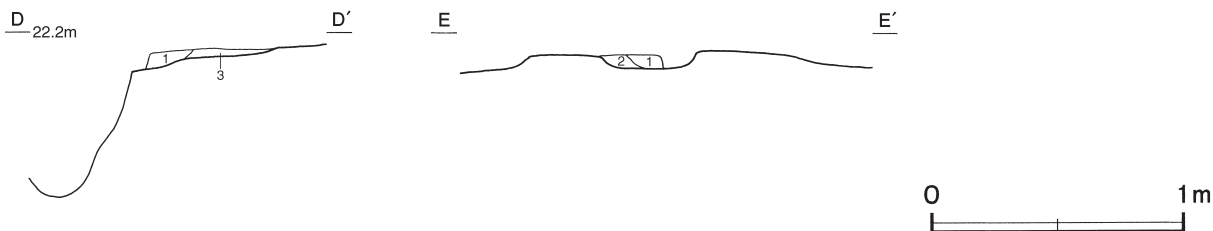
- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 22 点 (坏 4, 甕類 18) が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 出土土器や主軸方向から 6 世紀後半と考えられる。



**第 41 図** 第 3125 号 竪穴建物跡実測図 (1)



第 42 図 第 3125 号竪穴建物跡実測図 (2)

表 6 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴					
3118	L 9 d1	N - 27° - W	方形	8.02 × 7.84	7 ~ 25	貼床 平坦	西半部 のみ	4	1	4	北壁	1	人為	土師器, 土製品, 須恵器,	6 世紀中葉~ 7 世紀前葉	本跡→SI3117・SI3126・ SB599・SD569 SK7122・SK7134・PG88 との新旧不明	
3121	L 8 f8	[N - 28° - W]	-	(2.78) × (2.50)	-	平坦	-	2	-	-	[北壁]	-	-	土師器	古墳時代後期	本跡→SI3120	
3122	L 9 f3	[N - 26° - W]	方形	5.53 × (5.20)	23 ~ 29	貼床 凹凸	西半部 のみ	3	1	-	北壁	1	人為	土師器	6 世紀後葉	SI3123 → 本跡	
3123	L 9 g2	[N - 36° - W]	-	(2.29) × (2.11)	-	平坦	北壁西部 のみ	-	-	-	北壁	-	人為	土師器	古墳時代後期	SI3124 → 本跡→ SI3122	
3124	L 9 g1	[N - 6° - W]	-	(1.68) × (0.49)	-	-	-	-	-	-	北壁	-	自然	土製品	古墳時代後期	本跡→SI3123	
3125	L 8 f0	[N - 30° - W]	隅丸方形または 隅丸長方形	(5.67) × (2.73)	9	平坦	-	3	-	-	北壁	-	-	土師器	6 世紀後半	本跡→SI3119・ SK7137・SK7138	

(2) 掘立柱建物跡

第 599 号掘立柱建物跡 (第 43 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 9 b1 ~ L 9 f2 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3118 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 3117・3126 号竪穴建物, 第 569 号溝に掘り込まれている。第 3127 号竪穴建物跡, 第 7112・7117・7133・7139 号土坑, 第 88 号ピット群との新旧関係は不明である。

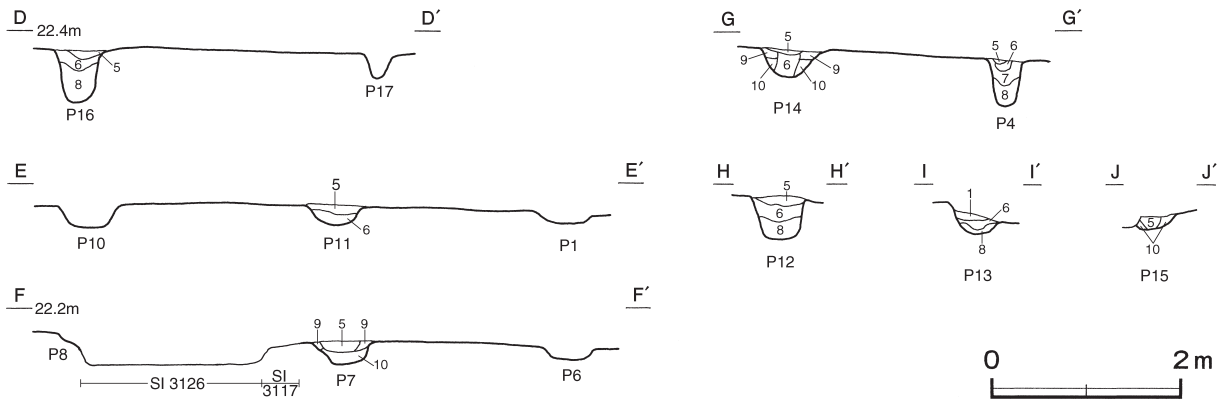
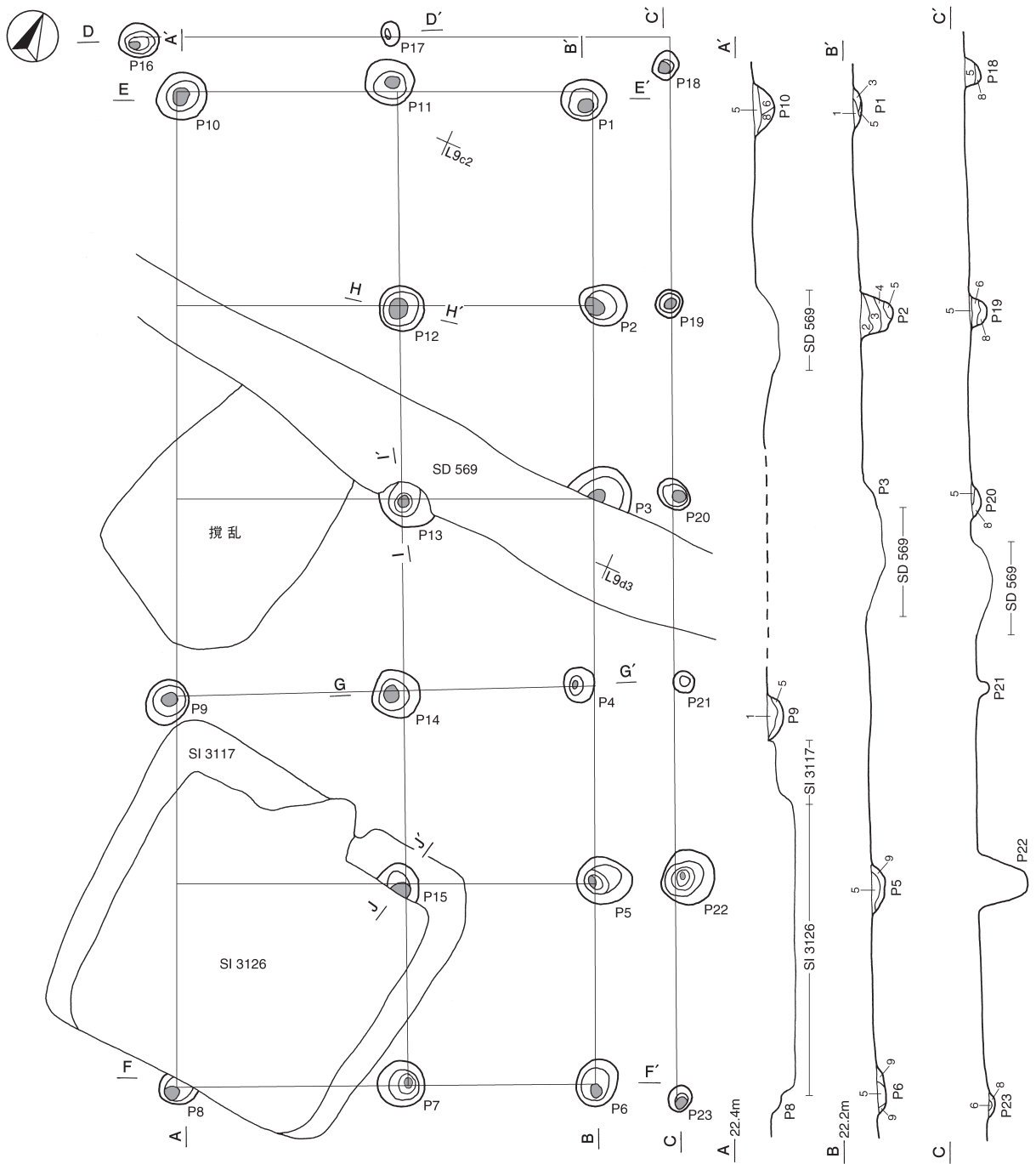
規模と構造 桁行 5 間, 梁行 2 間の総柱建物跡で, 桁行方向は N - 25° - W の南北棟である。規模は, 桁行 12.4 m, 梁行 5.4 m で, 面積は 66.96㎡ である。柱間寸法は, 桁行が北妻から 2.6 m (8.7 尺), 2.4 m (8 尺), 2.4 m (8 尺), 2.4 m (8 尺), 2.6 m (8.7 尺) で, 梁行が西平から 2.8 m (9.3 尺), 2.4 m (8 尺) で均等に配置され, 柱筋は P 4 を除いてほぼ揃っている。P 8 ~ P 9 の 1 か所, P 9 ~ P 10 の 2 か所の柱穴は, 第 3177・3126 号竪穴建物跡, 第 569 号溝跡, 攪乱に掘り込まれ, 確認できない。北妻から北に 0.5 m, 東平から東に 0.7 m 離れて, 柱穴列を確認した。柱穴列の柱間寸法は, 西から東に 2.6 m (8.7 尺), 3.4 m (11.3 尺), 北から南に 3.4 m (11.3 尺), 2.4 m (8 尺), 2.4 m (8 尺), 2.4 m (8 尺) で配置されている。

柱穴 23 か所。身舎柱穴の平面形は円形または楕円形で, 長径 33 ~ 52cm, 短径 29 ~ 48cm である。深さは 9 ~ 53cm である。柱穴列の柱穴の平面形は円形または楕円形で, 長径 21 ~ 55cm, 短径 19 ~ 51cm である。深さは 10 ~ 49cm である。第 1 ~ 8 層が柱抜き取り後の堆積層, 第 9・10 層が掘方への埋土である。P 21 を除いた柱穴の底面に, 柱の当たりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量
3 灰黄褐色	ロームブロック少量	8 にぶい黄褐色	ロームブロック多量
4 褐色	ロームブロック多量	9 褐色	ロームブロック中量
5 黒褐色	ロームブロック中量	10 にぶい黄褐色	ロームブロック中量





第 43 图 第 599 号掘立柱建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 28 点（坏 3，甕類 25）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

**所見** 本跡の北東方向に 80 m ほど離れて存在する、『当財団調査報告』第 174 集で報告されている第 55 号掘立柱建物跡と同規模の桁行 5 間以上の大型建物跡であることから、同様の機能を有していたと考えられる。時期は、第 3117・3118・3126 号竪穴建物跡との新旧関係や桁行方向から、7 世紀前葉以降に建てられ、8 世紀前葉には廃絶されていたものと考えられる。

## 2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 3 棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

### 第 3117 号竪穴建物跡（第 44・45 図）

**調査年度** 平成 23 年度

**位置** 8 区北西部の L 9e2 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3126 号竪穴建物跡の上面に構築され、第 3118 号竪穴建物跡、第 599 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第 7133・7139 号土坑、第 88 号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸 4.33 m、短軸 4.05 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 5° - E である。壁は高さ 5 ~ 7 cm で、直立している。

**床** 平坦で、中央部から竈の焚口部にかけて踏み固められている。東壁下を除いて、壁下には壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 107cm で、燃焼部幅は 47cm である。袖部は、床面を 12cm 掘りくぼめた部分に、焼土ブロックや粘土ブロックを含んだ第 7・8 層を積み上げて構築されている。火床面は、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に 13cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

#### 竈土層解説

- |          |                         |          |                       |
|----------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 灰黄褐色   | ローム粒子少量，粘土粒子微量          | 5 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量        |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量        | 6 褐色     | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 灰褐色    | ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土粒子少量 | 7 赤褐色    | 焼土ブロック・粘土ブロック中量       |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック少量 | 8 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，焼土粒子少量       |

**ピット** 2 か所。P 1 は深さ 26cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 2 は深さ 13cm で、竈脇での配置から、竈に伴うピットの可能性がある。P 1・P 2 の第 1 ~ 4 層は柱抜き取り後の堆積層である。

#### ピット土層解説

- |        |                    |          |           |
|--------|--------------------|----------|-----------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 3 黒褐色    | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック中量          | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |

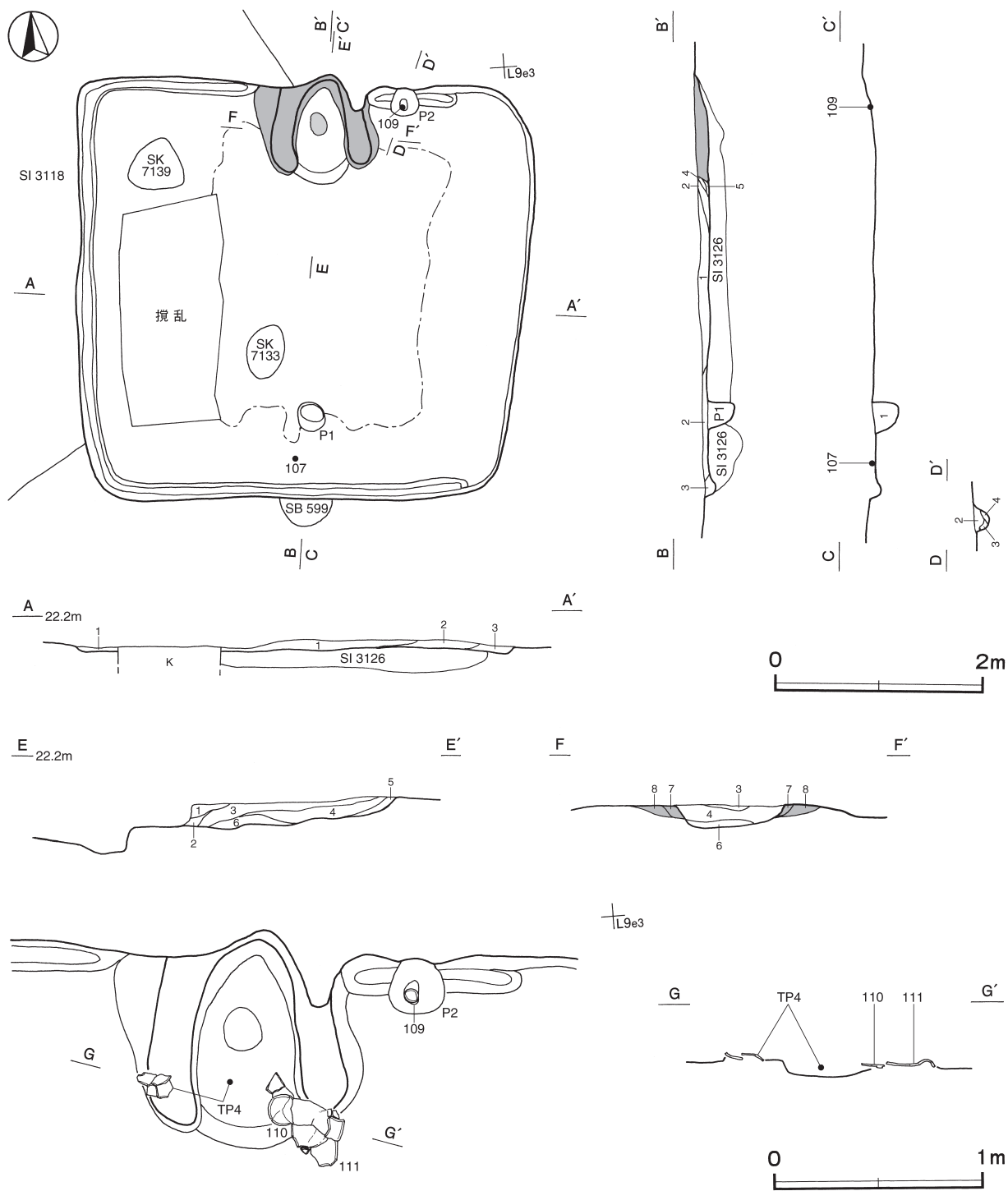
**覆土** 5 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック，粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 3 層はロームブロックが多く含まれ、壁際に三角堆積していることから、壁の崩落土と考えられる。

#### 土層解説

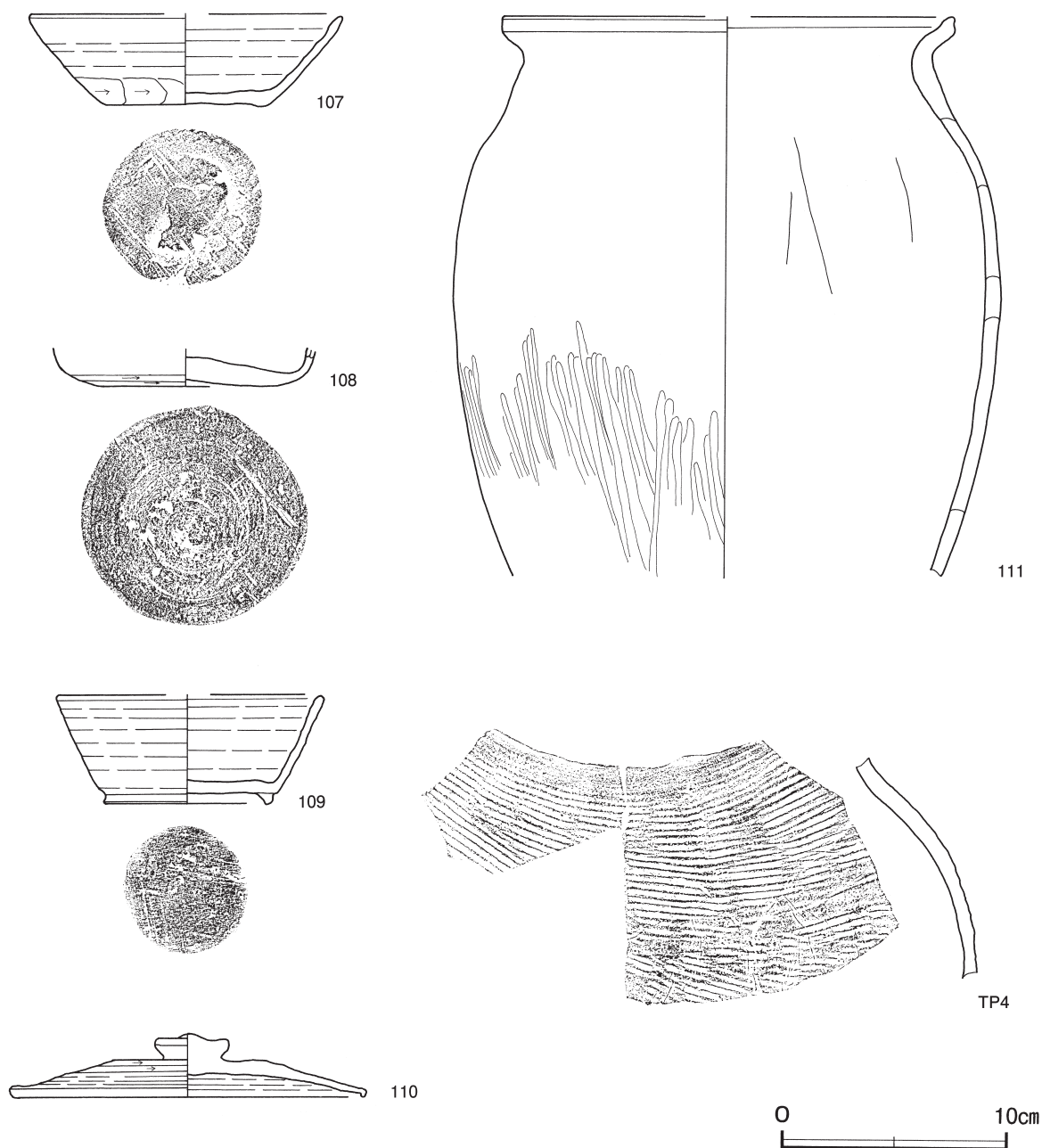
- |        |                    |        |                   |
|--------|--------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック中量，焼土ブロック微量 | 4 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子少量     | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック中量          |        |                   |

**遺物出土状況** 土師器片 97 点（坏 14，甕類 83），須恵器片 15 点（坏 4，高台付坏 2，蓋 3，甕類 6）が出土している。107・109・110・111 は，覆土下層から出土していることから，埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

**所見** 本跡の床は第 3126 号竪穴建物跡の覆土上に構築し，拡張されている。時期は，出土土器や第 3126 号竪穴建物跡の新旧関係から，8 世紀後葉と考えられる。



第 44 図 第 3117 号竪穴建物跡実測図



第 45 図 第 3117 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3117 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 45 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	須恵器	坏	[13.8]	4.0	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	60% 新治窯産
108	須恵器	坏	-	(18)	9.0	長石・石英・細礫	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中	30%
109	須恵器	高台付坏	[11.6]	4.8	7.4	長石・石英・細礫	褐灰	普通	底部多方向のヘラ削り 高台貼付	覆土下層	70% 新治窯産
110	須恵器	蓋	15.4	2.8	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	不良	天井部回転ヘラ削り	竈覆土下層	90% PL 9 新治窯産
111	土師器	甕	[20.0]	(25.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 4	須恵器	甕	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	体部外面横位の平行叩き	竈覆土下層 ~覆土下層	

## 第 3119 号竪穴建物跡（第 46～48 図）

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 8 f0 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3125 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は 5.30 m で、南北軸は 4.03 m しか確認できなかった。確認した柱穴の位置から、ほぼ方形で、主軸方向は N - 1° - W と推定できる。壁は高さ 18～31cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、各コーナー部や壁際を掘り下げ、ロームブロックを含む第 5～7 層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 135cm で、燃焼部幅は 67cm である。全体を楕円形に床面から 26cm 掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含んだ第 12～14 層を埋土して構築されている。袖部はその上に焼土ブロックや粘土粒子を含んだ第 9・10 層を積み上げて構築されている。火床部は第 12～14 層を 7cm ほど掘りくぼめた部分に、焼土ブロックを含んだ第 11 層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 52cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。火床部の奥には、被熱した小形甕が逆位で据えられており、支脚として使用されていたと考えられる。

### 竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 におい赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子少量
2 灰褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック中量	10 におい黄褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	11 赤褐色	焼土ブロック多量
4 におい黄褐色	ロームブロック中量	12 におい赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量	13 灰褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
6 黒褐色	炭化粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子少量	14 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量		
8 におい褐色	灰多量、焼土ブロック中量、ロームブロック少量		

ピット 5 か所。P 1～P 3 は深さ 45～67cm で、規模と配置から主柱穴である。P 4・P 5 は深さ 47cm・45cm で、竈の両脇で対となる配置から、竈に伴うピットと考えられる。P 1～P 3 の第 1～6 層は柱抜き取り後の堆積層である。P 1・P 3 の底面からは、柱の当たりを確認した。

### ピット土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3 灰黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6 におい黄褐色	ロームブロック多量

覆土 4 層に分層できる。第 1～3 層は、ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 4 層は、ロームブロックが多く含まれ、壁溝内に三角堆積していることから、壁の崩落土と考えられる。

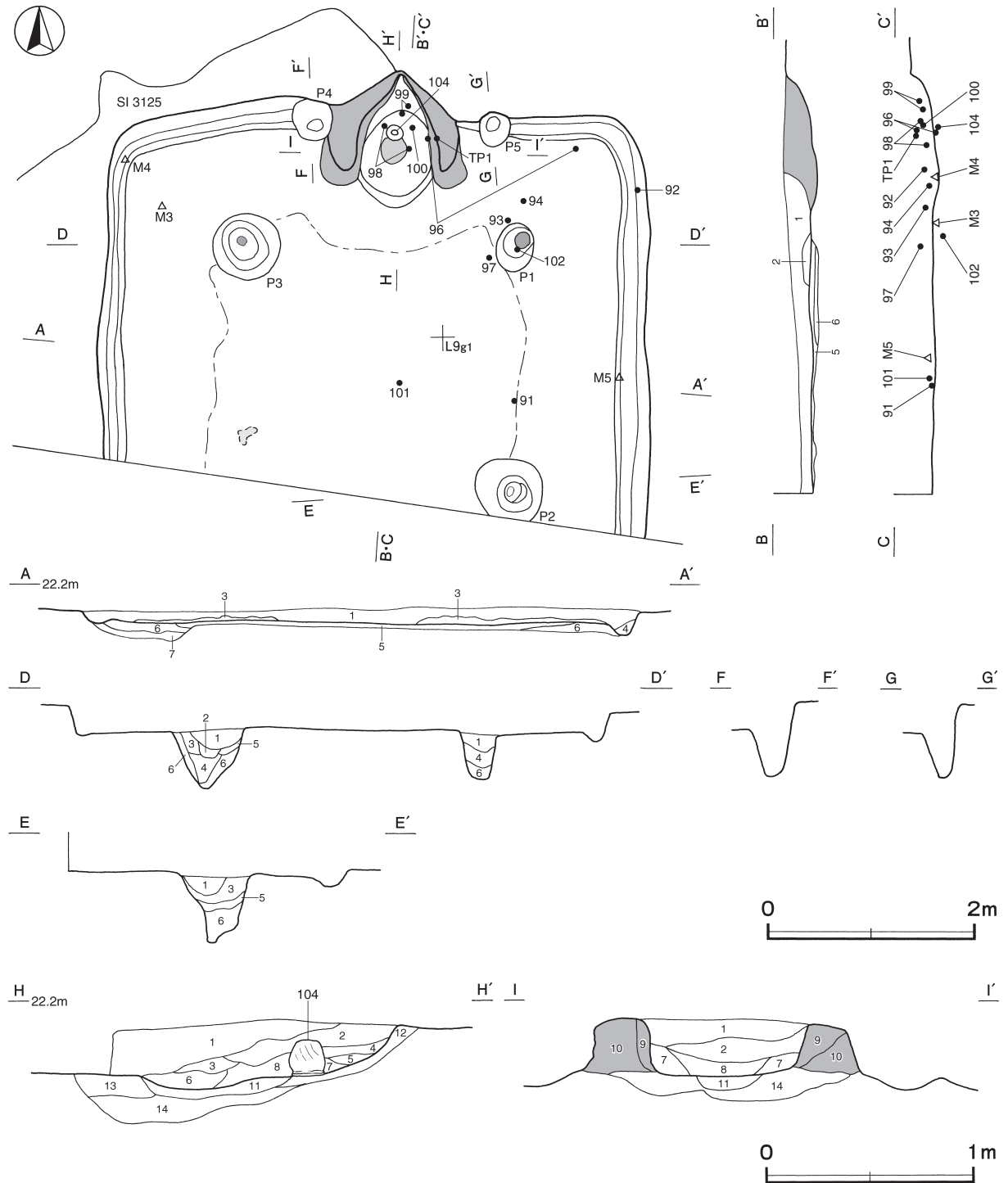
### 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック中量
3 におい黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	7 褐色	ローム粒子多量
4 褐色	ロームブロック中量		

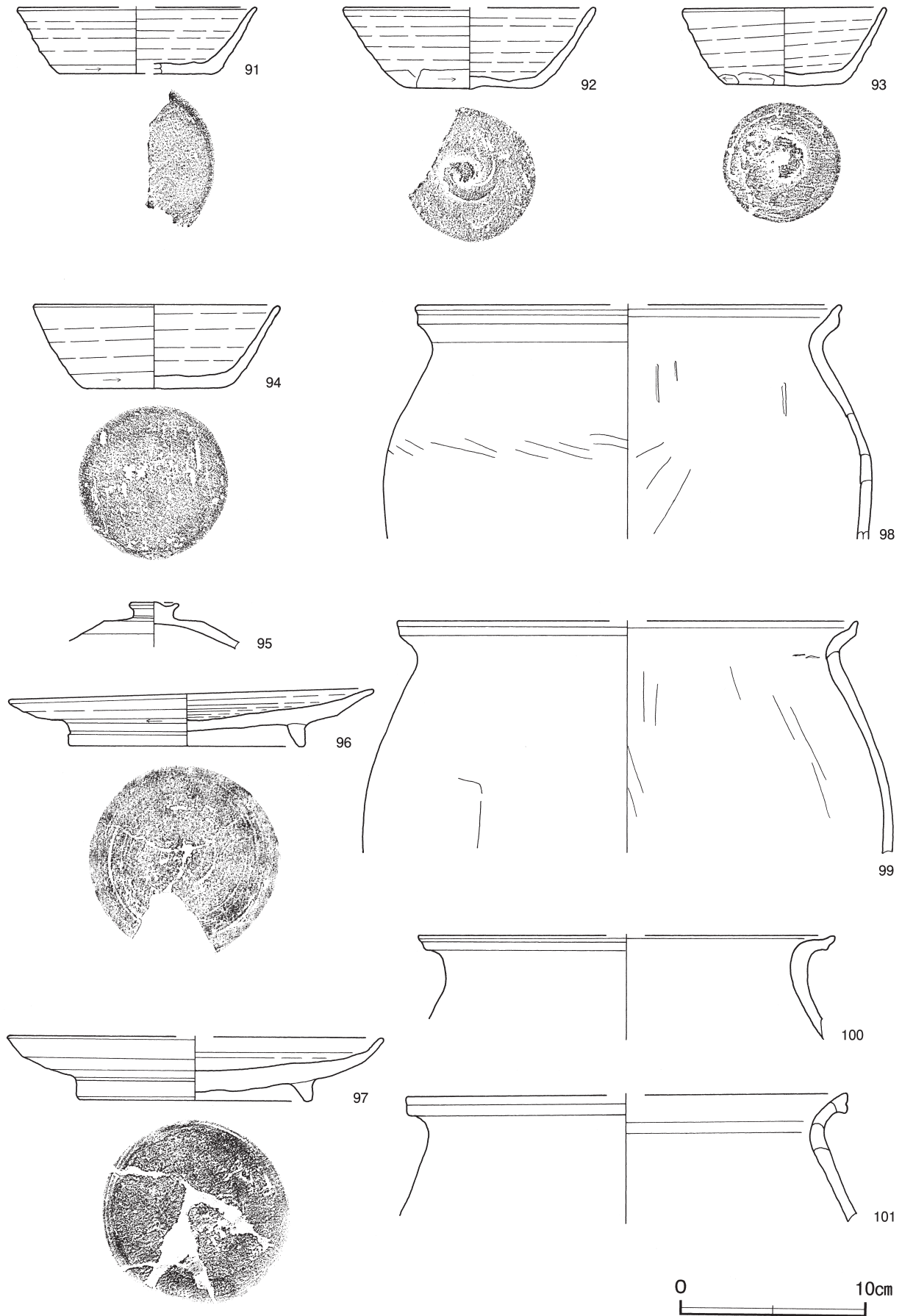
遺物出土状況 土師器片 438 点（坏 42, 甕類 396）、須恵器片 120 点（坏 59, 高台付坏 1, 蓋 14, 盤 3, 甕類 43）、鉄製品 3 点（鏃）が、全体の覆土中層から下層にかけて出土している。91・94・M 3 は覆土下層から、92・93 は覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋め戻しの過程で投棄されたものとみられる。96 は、竈覆土上層と北東コーナー部の覆土下層から分散して出土した破片が接合していることから、埋め戻しの過

程で竈の北西方向から投棄されたものとみられる。97は、覆土上層から出土していることから、埋戻しの過程で廃棄または混入したものと考えられる。M 4・M 5は、壁際の壁の崩落土中から出土していることから、埋め戻しの過程で建物外に廃棄されていたものが混入したか、壁上の空間を利用した棚などに置かれていたものが転落したものとみられる。

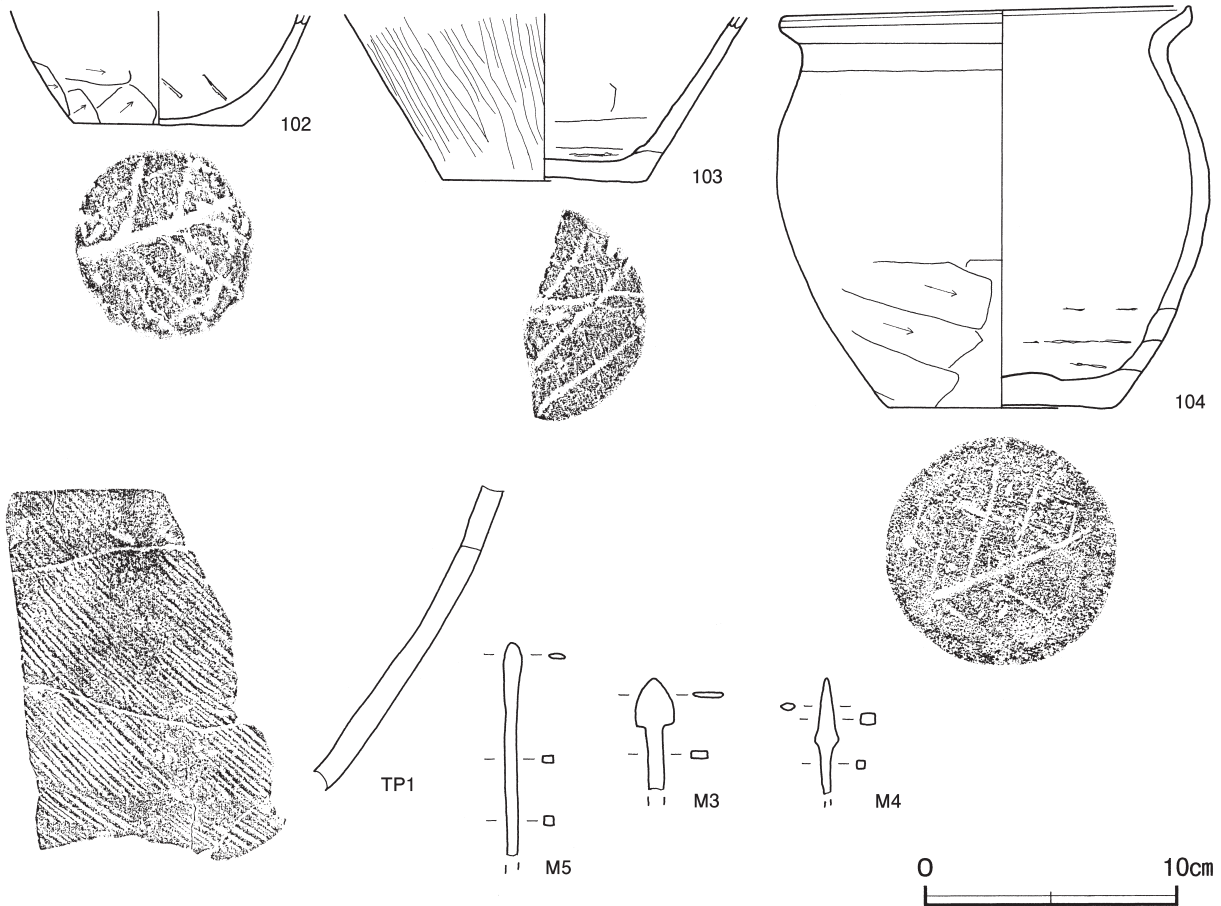
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 46 図 第 3119 号 竪穴建物跡実測図



第 47 図 第 3119 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 48 図 第 3119 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 3119 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 47・48 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
91	須恵器	坏	[12.8]	3.6	[8.2]	長石・石英・雲母・黒色粒子	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	40% 新治窯産
92	須恵器	坏	[13.4]	4.3	7.0	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	50% 新治窯産
93	須恵器	坏	11.0	4.2	6.3	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	95% 新治窯産
94	須恵器	坏	13.2	4.7	7.8	長石・石英・細礫	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	90% PL 9 新治窯産
95	須恵器	蓋	-	(2.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	30% 新治窯産
96	須恵器	盤	19.6	3.1	12.8	長石・石英・細礫	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り 高台貼付	覆土下層～ 竈覆土上層	60% 新治窯産
97	須恵器	盤	[20.3]	3.4	12.6	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ削り 高台貼付	覆土上層	60% 新治窯産
98	土師器	甕	[22.8]	(12.6)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	竈覆土中層～ 上層	20%
99	土師器	甕	[24.8]	(12.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラナデ	竈覆土上層	10%
100	土師器	甕	[22.4]	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	竈覆土上層	10%
101	土師器	甕	[23.8]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ナデ	覆土下層	5%
102	土師器	甕	-	(4.4)	6.8	長石・石英	灰褐	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	P 1 覆土上層	10%
103	土師器	甕	-	(6.5)	[8.0]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部下端ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中	20%
104	土師器	小形甕	16.1	16.0	9.0	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部下端ヘラ削り	竈火床部	95%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	須恵器	甕	長石・石英・雲母・白色粒子	灰	体部外面斜位の平行叩き 内面ナデ	竈覆土上層	新治窯産



番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	鎌	(4.4)	1.5	0.3	(3.5)	鉄	三角形鎌 茎部断面長方形	覆土下層	
M 4	鎌	(4.5)	1.0	0.4	(4.0)	鉄	茎部断面方形	壁溝覆土上層	
M 5	鎌	(8.4)	0.8	0.4	(8.0)	鉄	長頸鎌 茎部断面方形	覆土下層	

### 第 3126 号竪穴建物跡 (第 49・50 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8区北西部のL9e2区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3118号竪穴建物跡, 第599号掘立柱建物跡を掘り込み, 上部に第3117号竪穴建物が構築されている。第88号ピット群との新旧関係は不明である。

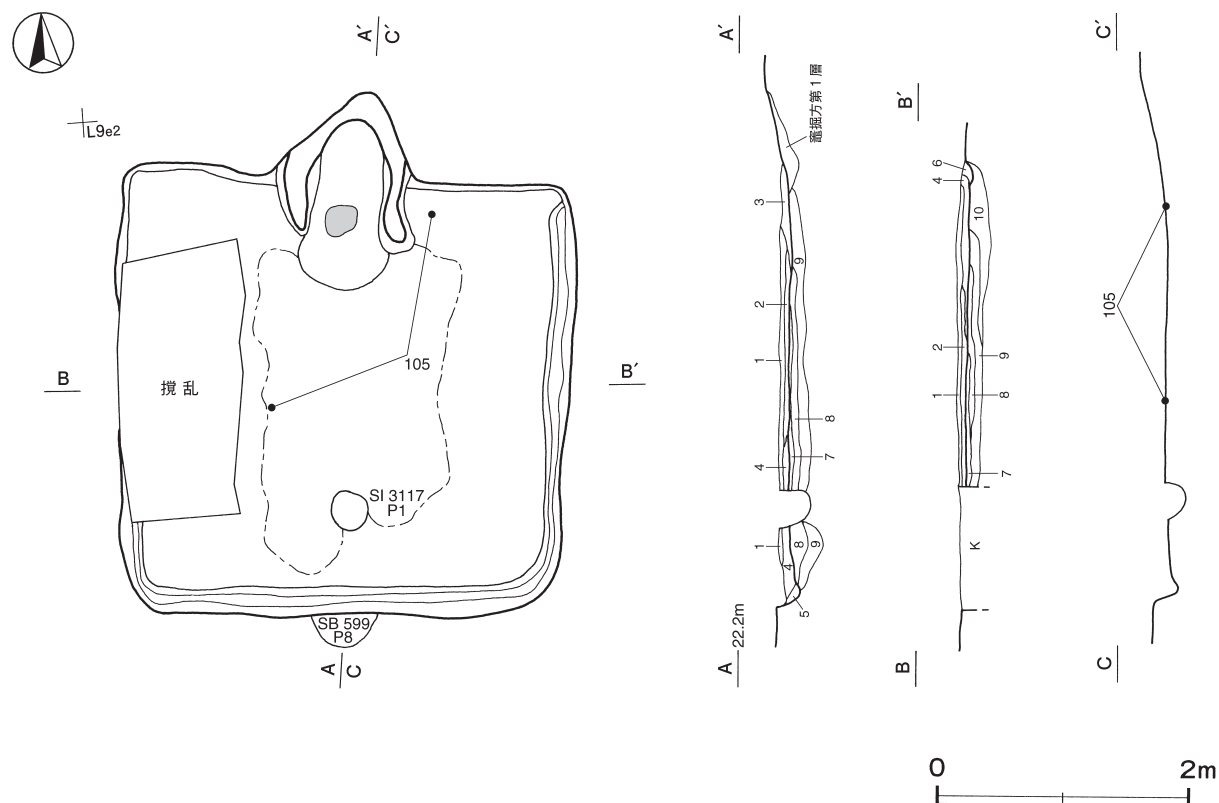
規模と形状 長軸3.61m, 短軸3.58mの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ13~15cmで, 直立している。

床 平坦な貼床で, 竈焚口部から中央部にかけて踏み固められている。北壁及び北西コーナー壁を除いて, 壁下には壁溝が巡っている。貼床は, 全体を平坦に掘り下げ, ロームブロックを含む第7~10層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。第3117号竪穴建物に掘り込まれているため, 火床面と袖部の基部しか遺存していない。規模は焚口部から煙道部まで120cmで, 燃焼部幅は41cmである。火床面の赤変硬化は, ほとんど確認できなかった。煙道部は壁外に74cm掘り込まれている。

#### 竈掘方土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量



第 49 図 第 3126 号竪穴建物跡実測図

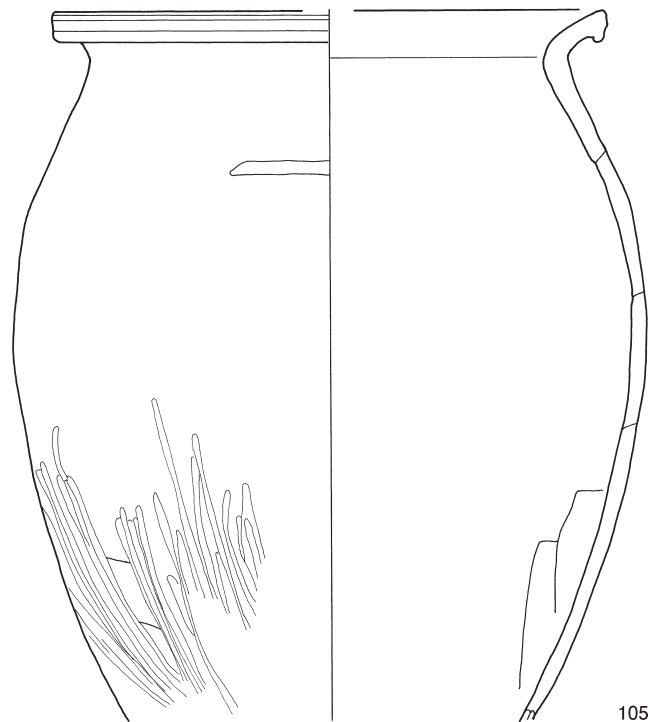
覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |          |                     |          |                     |
|----------|---------------------|----------|---------------------|
| 1 におい黄褐色 | ロームブロック多量           | 6 黒褐色    | ローム粒子微量             |
| 2 暗褐色    | ロームブロック・粘土ブロック中量    | 7 灰黄褐色   | ロームブロック中量           |
| 3 黒褐色    | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量      | 8 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 灰黄褐色   | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 9 におい黄褐色 | ロームブロック中量           |
| 5 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子微量      | 10 黒褐色   | ロームブロック少量, 炭化物微量    |

遺物出土状況 土師器片 70 点 (坏 10, 甕類 60), 須恵器片 3 点 (甕) が床面や掘方の構築土から出土している。

所見 本跡の上部に貼床して拡張した, 第 3117 号竪穴建物が構築されている。時期は, 出土土器や主軸方向, 及び第 3117 号竪穴建物跡との新旧関係から, 8 世紀中葉と考えられる。



第 50 図 第 3126 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3126 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 50 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	土師器	甕	[21.8]	(28.3)	-	長石・石英・細礫	におい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	30%

表 7 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炬・竈	貯蔵穴				
3117	L 9 e2	N - 5° - E	隅丸方形	4.33 × 4.05	5 ~ 7	平坦	半周	-	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	8 世紀中葉 - 後葉	SI3126・SI3118・SB599 → 本跡 SK7133・SK7139・PG88 との新旧不明
3119	L 8 f0	[N - 1° - W]	[方形]	(5.30) × (4.03)	18 ~ 31	平坦貼床	ほぼ全周	3		2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 鉄製品	8 世紀後葉	SI3125 → 本跡
3126	L 9 e2	N - 4° - E	方形	3.61 × 3.58	13 ~ 15	平坦貼床	半周	-	-	-	北壁	-	人為	土師器	8 世紀中葉	SI3118・SB599 → 本跡 → SI3117 PG88 との新旧不明

### 3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

#### 第3116号竪穴建物跡（第51・52図）

調査年度 平成23年度

位置 8区北西部のL8e9区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7135・7136号土坑に掘り込まれている。

確認状況 床面及び竈の火床部を確認しただけで、上部は削平されている。

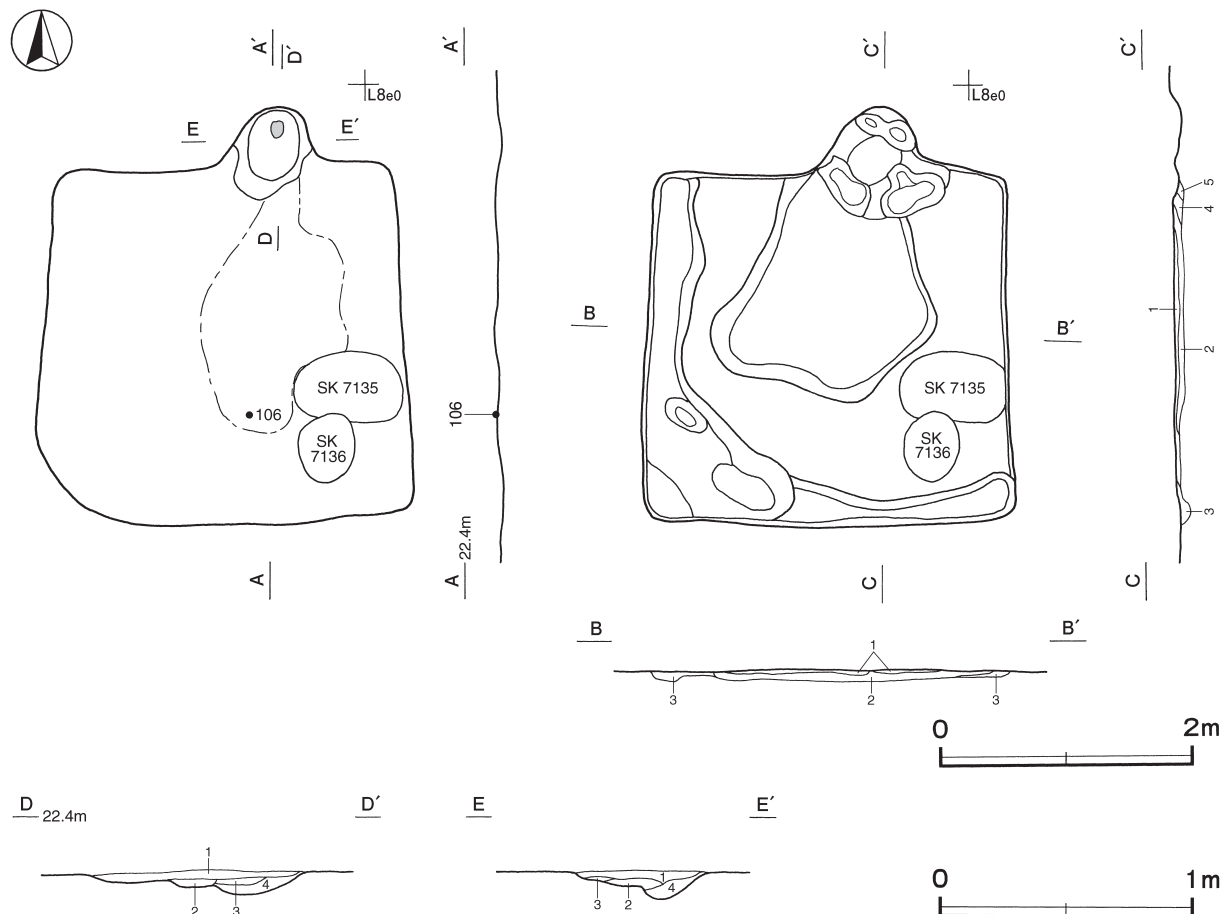
規模と形状 長軸2.97m、短軸2.84mの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。

床 平坦な貼床で、竈焚口部から中央部にかけて踏み固められている。竈の焚口部から中央部と西壁際、及び南壁際を掘り下げ、ロームブロックやローム粒子を含む第1～5層を埋土して貼床が構築されている。

#### 貼床構築土解説

- |          |                  |       |           |
|----------|------------------|-------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量        | 4 褐色  | ロームブロック多量 |
| 2 褐色     | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色     | ローム粒子多量          |       |           |

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cmで、燃焼部幅は41cmである。確認面まで削平されているため、袖部は確認できなかった。火床部は、床面を12cmほど掘りくぼめた部分に焼土ブロックやロームブロックを含んだ第1～4層を埋土して構築されている。火床面は、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に43cm掘り込まれている。



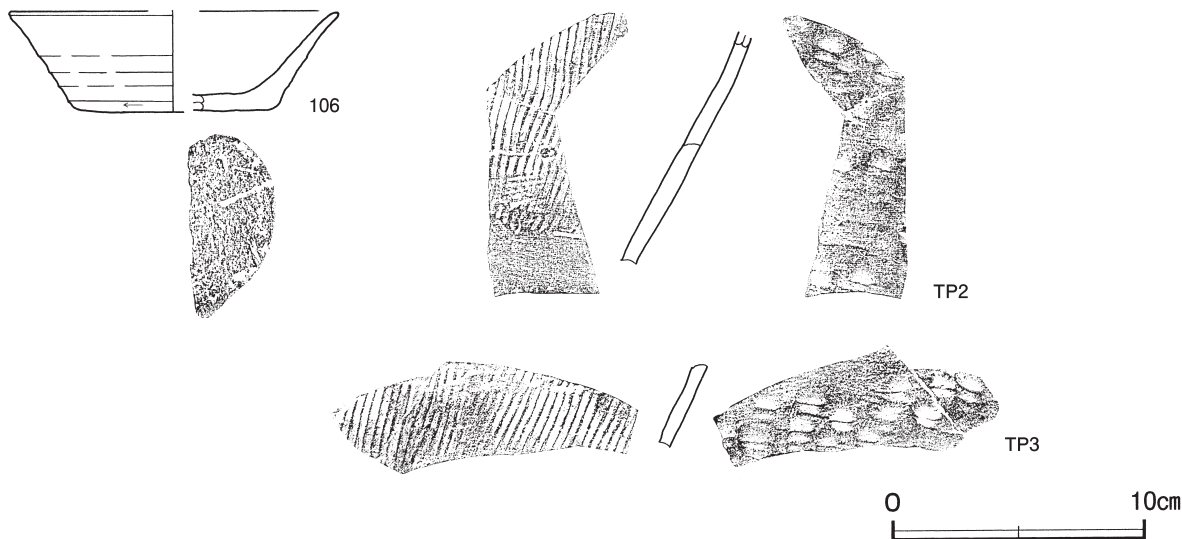
第51図 第3116号竪穴建物跡実測図

**竈土層解説**

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 18 点 (坏 5, 甕類 13), 須恵器片 9 点 (坏 4, 甕 5) が, 床面や掘方の構築土から出土している。106 は, 床面から出土しているが残存状況が悪いことから, 埋没の早い段階で廃棄されたか流れ込んだものとみられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 52 図 第 3116 号竈穴建物跡出土遺物実測図

第 3116 号竈穴建物跡出土遺物観察表 (第 52 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
106	須恵器	坏	[13.0]	4.0	[7.8]	長石・石英・黒色粒子・細礫	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	床面	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	須恵器	甕	長石・石英・雲母	黒	体部外面縦位の平行叩き 内面無文当て具痕	竈構築土中	TP 3との同一個体の可能性あり
TP 3	須恵器	甕	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	体部外面縦位の平行叩き 内面無文当て具痕	竈構築土中	TP 2との同一個体の可能性あり

**第 3120 号竈穴建物跡 (第 53 図)**

**調査年度** 平成 23 年度

**位置** 8 区北西部の L 8 f9 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 3121 号竈穴建物跡を掘り込んでいる。

**確認状況** 床面及び竈火床部を確認しただけで, 上面は削平されている。

**規模と形状** 削平されているが, 硬化面や竈の位置から, およそ南北軸は 2.70 m, 東西軸は 2.60 m で, 主軸方向は N - 1° - W と推定できる。

**床** 平坦で, 中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁に付設されている。床面まで削平されているため, 焚口部と火床部, 及び煙道部しか遺存していない。規模は焚口部から煙道部まで 90cm で, 燃焼部幅は 37cm である。火床面は, 火熱を受けて赤変硬化している。

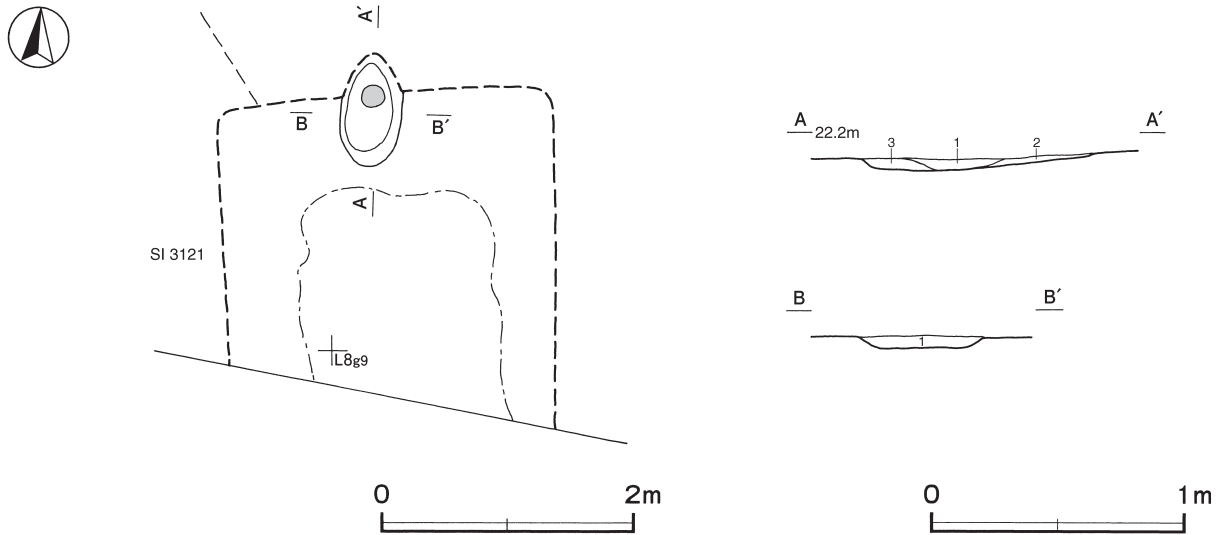
煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

**竈土層解説**

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物微量

**遺物出土状況** 土師器片4点(甕類), 須恵器片1点(坏)が, 竈覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 出土土器や主軸方向から, 9世紀代と考えられる。



第53図 第3120号竪穴建物跡実測図

表9 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
3116	L 8e9	N-1°-E	方形	2.97 × 2.84	-	平坦 貼床	-	-	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→SK7135・SK7136
3120	L 8f9	N-1°-W	-	[2.70] × [2.60]	-	平坦	-	-	-	-	[北壁]	-	-	土師器, 須恵器	9世紀代	SI3121 → 本跡

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で, 伴う遺物が出土していないことから, 時期が明らかでない竪穴建物跡1棟, 土坑11基, 溝跡5条, ピット群1か所を確認した。以下, 遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

**第3127号竪穴建物跡(第54図)**

**調査年度** 平成23年度

**位置** 8区北西部のL9d3区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第599号掘立柱建物跡, 第88号ピット群との新旧関係は不明である。

**確認状況** 西壁下と考えられる壁溝及びピットを確認した。壁溝の深さは4~5cmほどである。

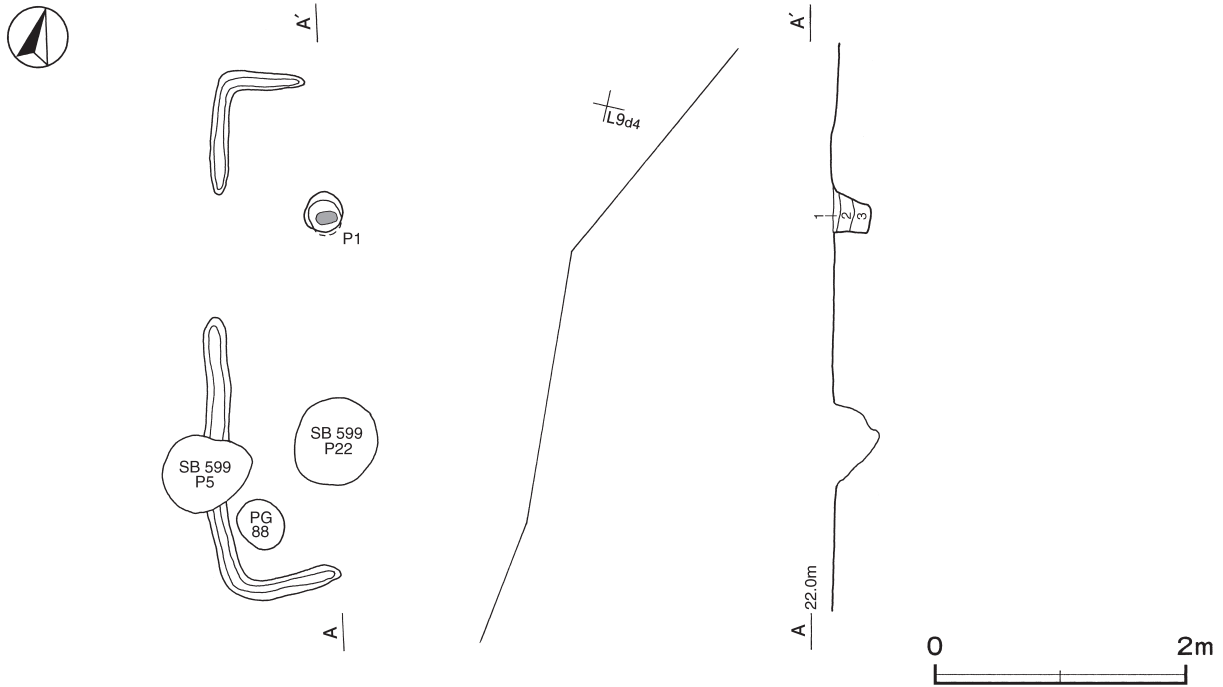
**ピット** 深さ29cmで, 規模と配置から主柱穴である。第1~3層は柱抜き取り後の堆積層である。底面に柱のあたりを確認した。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 暗褐色 ロームブロック中量

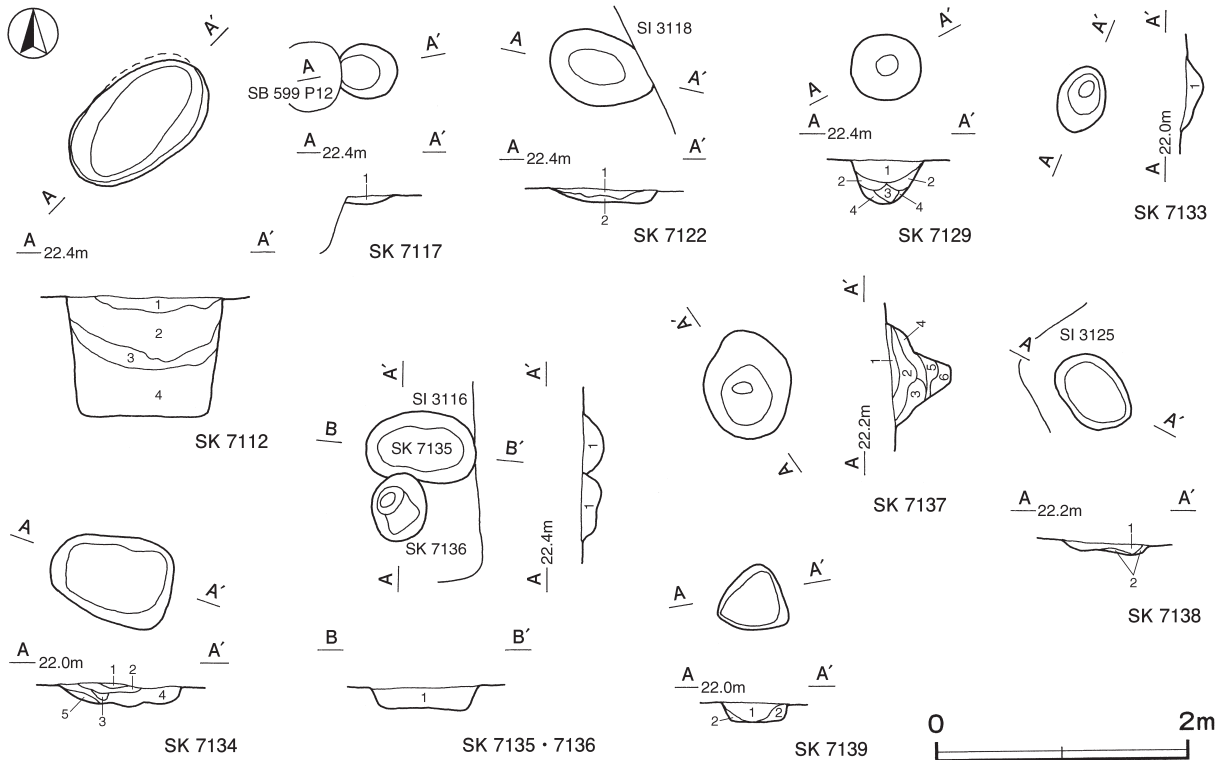
所見 時期は、出土遺物がないため不明である。



第 54 図 第 3127 号 縦穴建物跡実測図

(2) 土坑

時期や性格が不明な土坑について、以下、実測図、土層解説及び一覧表にて掲載する。



第 55 図 その他の土坑実測図

調査年度 平成 23 年度

第 7112 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 3 褐灰色 ロームブロック中量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

第 7117 号土坑土層解説

- 1 褐灰色 ローム粒子中量

第 7122 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

第 7129 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック微量

第 7133 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第 7134 号土坑土層解説

- 1 明赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量
- 2 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第 7135 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

第 7136 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量

第 7137 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 7138 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第 7139 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

表 9 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ (cm)					
7112	L 9 b2	N - 46° - E	楕円形	1.27 × 0.76	95	平坦	ほぼ直立	人為		SB599 との新旧不明
7117	L 9 c2	N - 89° - W	[円形]	0.44 × (0.40)	7	皿状	外傾	不明		SB599・PG88 との新旧不明
7122	L 8 e0	N - 70° - W	[楕円形]	(0.85) × 0.59	10	皿状	外傾	人為		SI3118 との新旧不明
7129	L 8 c0	N - 89° - W	円形	0.55 × 0.53	36	皿状	ほぼ直立	人為		
7133	L 9 e2	N - 18° - E	楕円形	0.54 × 0.39	23	皿状	外傾	人為		SI3117・SB599 との新旧不明
7134	L 8 e0	N - 76° - W	隅丸長方形	0.97 × 0.71	17	凸凹	外傾	人為	土師器	SI3118 との新旧不明
7135	L 8 e9	N - 74° - W	楕円形	0.85 × 0.55	15	皿状	外傾	人為	土師器	SI3116 →本跡
7136	L 8 e9	N - 14° - E	楕円形	0.55 × 0.44	15	皿状	外傾	人為		SI3116 →本跡
7137	L 8 f9	N - 4° - W	楕円形	0.85 × 0.69	47	皿状	外傾	人為	土師器	SI3125 →本跡
7138	L 8 f9	N - 55° - W	楕円形	0.70 × 0.52	8	皿状	ほぼ直立	人為		SI3125 →本跡
7139	L 9 e2	N - 67° - W	不整楕円形	0.53 × 0.47	15	皿状	直立	人為		SI3117・SB599 との新旧不明

(3) 溝跡

第 569 号溝跡(第 56 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 8 e7 ~ L 9 b4 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3118 号竪穴建物跡, 第 599 号掘立柱建物跡, 第 570 号溝跡を掘り込んでいる。第 88 号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と形状 南西部が削平されているため, 長さは 34.0 m しか確認できなかった。L 8 e7 区から北東方向 (N - 53° - E) へ直線的に延び, L 8 d9 区で東方向 (N - 86° - W) へ緩やかに屈曲し, L 9 c3 区で北方向 (N - 3° - E) に直角に屈曲し, L 9 b4 区で立ち上がっている。規模は上幅 0.20 ~ 1.26 m, 下幅 0.08 ~ 0.60 m, 深さ 12 ~ 33cm である。溝底は南西部から北東部へ向かって緩やかに下がっている。断面は U 字状や逆台形で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- |       |               |       |           |
|-------|---------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量     | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック少量     |       |           |

遺物出土状況 土師器片 69 点 (坏 5, 甕類 63, 甑 1), 須恵器片 15 点 (坏 2, 鉢 3, 瓶類 1, 甕類 9), 陶器片 5 点 (甕類), 土師質土器片 1 点 (小皿), 石器 1 点 (石臼) が出土している。いずれも細片のため, 図示できない。

所見 地境の溝と考えられる。時期は, 特定できる土器が出土していないことから不明である。

第 570 号溝跡(第 56 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 8 e7 ~ L 8 c0 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 569 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が削平されているため, 長さは 15.0 m しか確認できなかった。L 8 e7 区から北東方向 (N - 50° - E) へ直線的に延び, L 8 c9 区から東方向 (N - 89° - E) に彎曲しながら延び, L 8 c0 区で第 569 号溝に掘り込まれている。規模は上幅 0.50 ~ 0.65 m, 下幅 0.15 ~ 0.35 m, 深さ 15 ~ 18cm である。断面は U 字状や逆台形で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

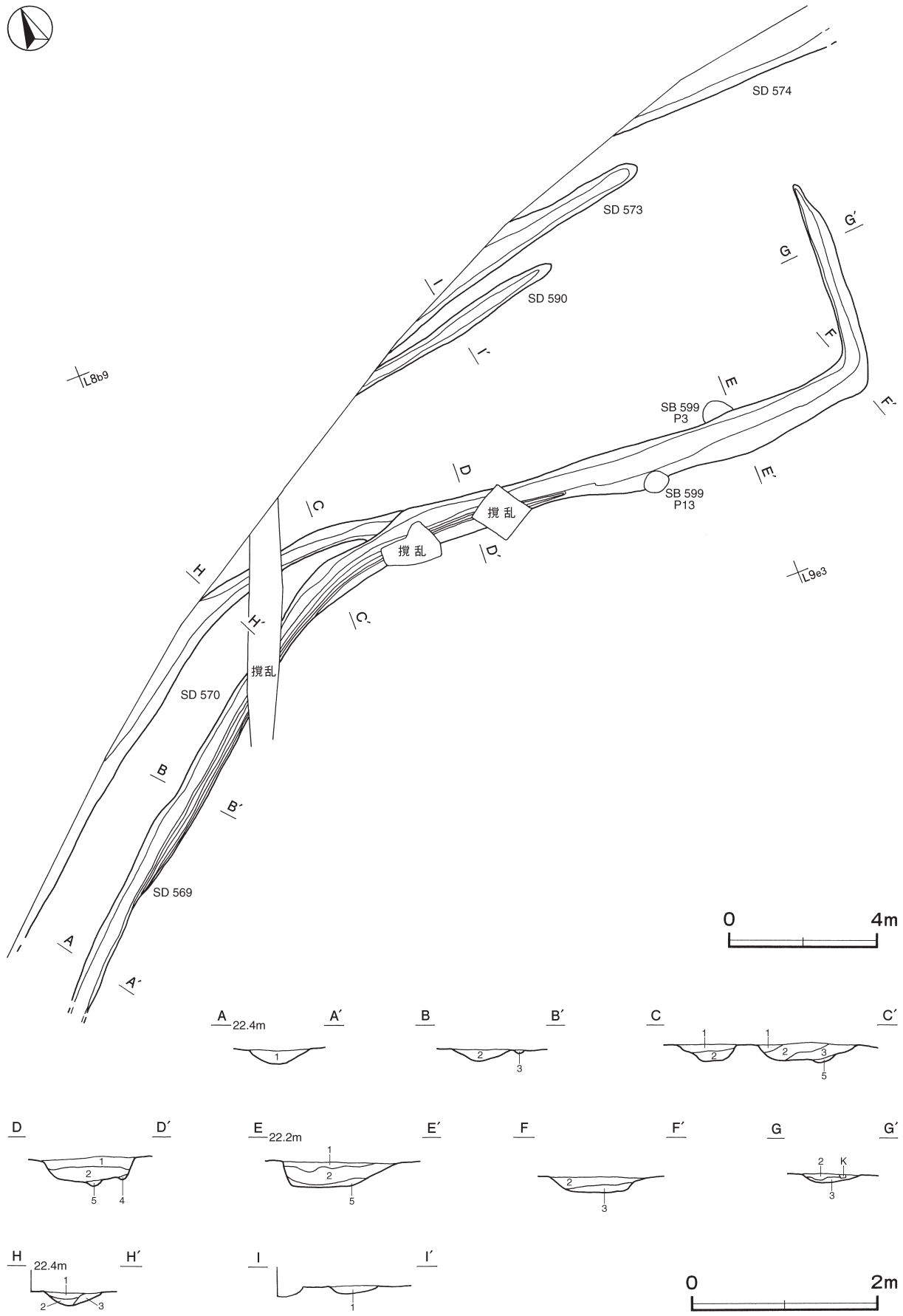
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- |       |                         |      |           |
|-------|-------------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量     |      |           |

所見 第 569 号溝跡と並行に延びていることから, 第 569 号溝跡と同じく地境の溝と考えられる。時期は, 出土遺物がないため不明である。





第 56 図 第 569・570・573・574・590 号溝跡実測図

### 第 573 号溝跡(第 56 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 9 b1 ~ L 9 b2 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため, 長さは 8.4 m しか確認できなかった。L 9 b1 区から北東方向 (N - 79° - E) へ直線的に延びている。規模は上幅 0.50 ~ 0.80 m, 下幅 0.25 ~ 0.50 m, 深さ 6 cm である。壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片 2 点 (甕類) が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 地境の溝と考えられるが, 詳細は不明である。時期は, 特定できる土器が出土していないことから不明である。

### 第 574 号溝跡(第 56 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 9 a3 ~ L 9 a4 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部と東部が調査区域外へ延びているため, 長さは 6.0 m しか確認できなかった。L 9 a3 区から東方向 (N - 87° - E) へ直線的に延びている。北半部が調査区域外へ延びているため, 規模は上幅 1.25 m, 下幅 0.85 m しか確認できなかった。深さ 7 cm である。壁は緩やかに立ち上がっている。

所見 第 569 号溝跡と並行して延びているため, 地境の溝と考えられる。時期は, 出土遺物がないため不明である。

### 第 590 号溝跡(第 56 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 8 区北西部の L 8 b0 ~ L 9 b2 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びているため, 長さは 6.0 m しか確認できなかった。L 8 b0 区から北東方向 (N - 79° - E) へ直線的に延びている。規模は上幅 0.35 ~ 0.55 m, 下幅 0.15 ~ 0.30 m, 深さ 8 cm である。断面は U 字状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。層厚が薄いため, 堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

所見 地境の溝と考えられるが, 詳細は不明である。時期は, 特定できる土器が出土していないことから不明である。

表 10 その他の溝跡一覧表

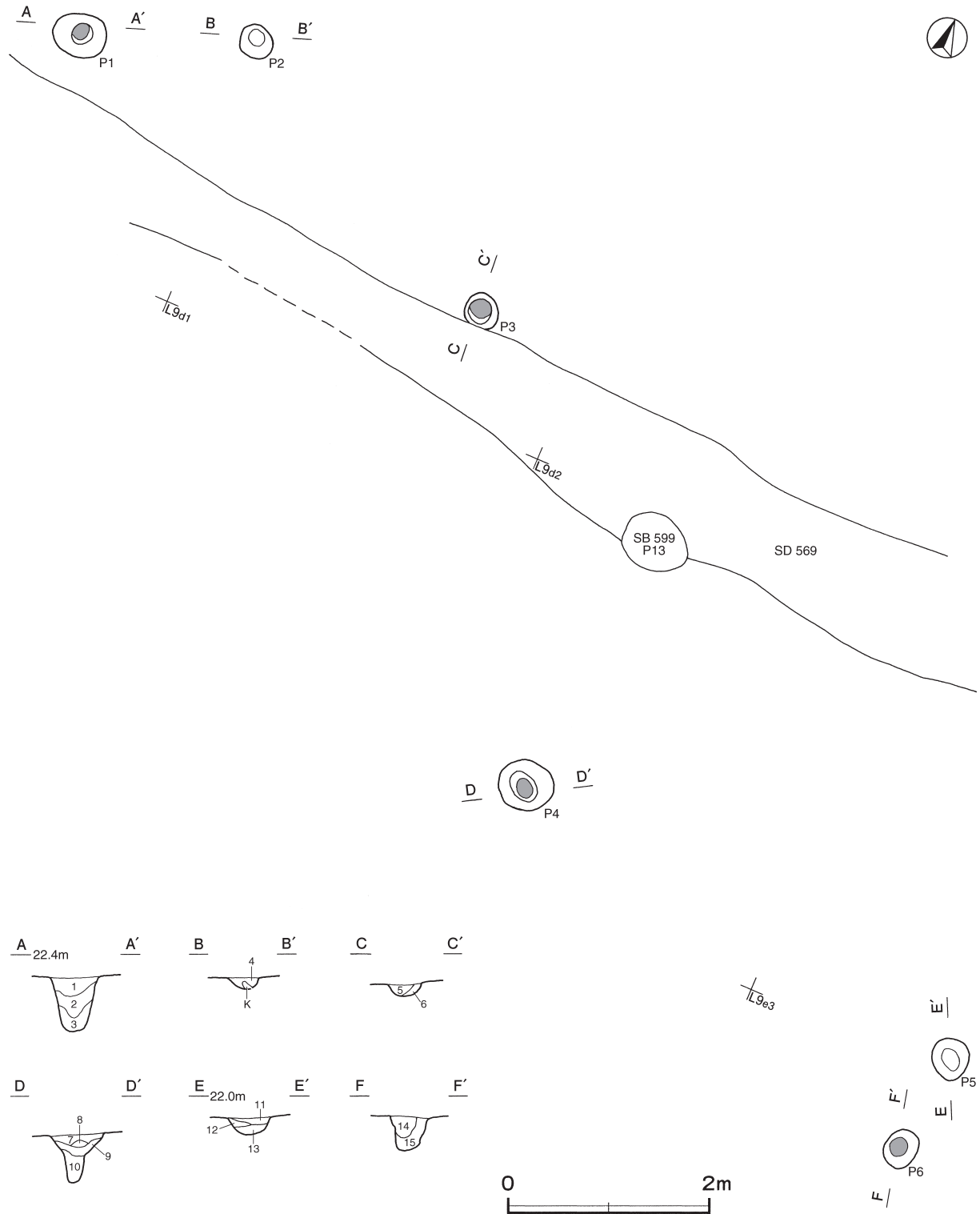
番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
569	L 8 e7 ~ L 9 b4	N - 53° - E N - 86° - W N - 3° - E	直線 屈曲	(34.0)	0.20 ~ 1.26	0.08 ~ 0.60	12 ~ 33	U 字状 逆台形	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 土師質土器, 石器	SI3118・SB599・ SD570 → 本跡 PG88 との新旧不明
570	L 8 e7 ~ L 8 c0	N - 50° - E N - 89° - E	直線 彎曲	(15.0)	0.50 ~ 0.65	0.15 ~ 0.35	15 ~ 18	U 字状 逆台形	緩斜	人為		本跡 → SD569
573	L 9 b1 ~ L 9 b2	N - 79° - E	直線	(8.4)	0.50 ~ 0.80	0.25 ~ 0.50	6	-	緩斜	-	土師器	
574	L 9 a3 ~ L 9 a4	N - 87° - E	直線	(6.0)	(1.25)	(0.85)	7	-	緩斜	-		
590	L 8 b0 ~ L 9 b2	N - 79° - E	直線	(6.0)	0.35 ~ 0.55	0.15 ~ 0.30	8	U 字状	緩斜	不明		

(4) ピット群

第88号ピット群(第57図)

調査年度 平成23年度

位置 8区北西部のL8c0～L9e3区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。



第57図 第88号ピット群実測図

**重複関係** 第 3117・3118・3126・3127 号竪穴建物跡，第 599 号掘立柱建物跡，第 7117 号土坑，第 569 号溝跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東西 12 m，南北 8 m ほどの範囲にピット 6 か所を確認した。形状は長径 35～53cm，短径 31～50cm の円形または楕円形で，深さは 11～54cm である。P 1・P 3・P 4・P 6 の底面からは，柱のあたりを確認した。

**土層解説（各柱穴共通）**

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9 におい黄褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量	10 灰黄褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック少量	11 におい黄褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子多量
6 褐色	ローム粒子少量	14 黒褐色	ロームブロック微量
7 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子中量
8 灰黄褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片 11 点（坏 2，甕類 9）が P 4～P 6 の覆土中からそれぞれ出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

**所見** ピットの分布状況から建物跡は想定できないが，柱のあたりを確認していることから，構造物に伴う柱を立てたものと考えられる。時期は，特定できる土器が出土していないことから不明である。

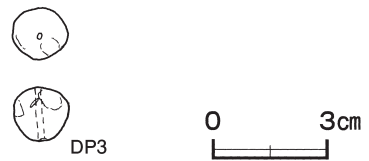
**第 88 号ピット群ピット計測表**

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			
			長径	×	短径	深さ
1	L 8 c0	楕円形	52	×	44	54
2	L 8 c0	楕円形	35	×	31	11
3	L 9 c1	円形	35	×	33	12

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			
			長径	×	短径	深さ
4	L 9 d2	円形	53	×	50	48
5	L 9 d3	楕円形	43	×	38	18
6	L 9 e3	楕円形	39	×	32	35

(5) 遺構外出土遺物 (第 58 図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。



第 58 図 遺構外出土遺物実測図

**遺構外出土遺物観察表 (第 58 図)**

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	土玉	1.5	1.4	0.1	2.80	長石・石英	におい褐	指頭圧痕	表土	

## 第5節 ま と め

### 1 はじめに

島名熊の山遺跡は、平成7年度から調査が実施され、これまでに報告がなされた遺構数は膨大な数で、竪穴建物跡 2499 棟、掘立柱建物跡 414 棟、古墳 2 基、方形竪穴遺構 108 基、地下式坑 81 基、堀跡・溝跡 384 条、道路跡 32 条、井戸跡 229 基、大型竪穴遺構 8 基、火葬施設 36 基、墓坑 77 基などにのぼっている。今回の報告分までの総調査面積は 255,734m<sup>2</sup>で、県内における最大規模の調査事例となっている。

当遺跡は、4世紀から11世紀にかけての集落と15世紀から17世紀にかけての集落が中心であり、6世紀から11世紀に至るまで連続と断絶することなく集落が営まれていることは、特筆すべき事項である。当遺跡周辺の集落は、7世紀以降にそれまで継続していた集落が終焉を迎える例が多いが、当遺跡は古墳時代から平安時代末期まで集落が存続していくことが明らかとなっている。この存続した理由として、律令体制に組み込まれつつも独自の経営基盤に立っていたこと<sup>1)</sup>によるものとされている。

今回の調査区域は遺跡の中央部で、標高 22～23 m の台地上に位置している。その集落の様相については、これまでに『茨城県教育財団文化財調査報告』第 120・133・149・166・174・280・389 集において報告されている。本節では、古墳時代後期の掘立柱建物跡について若干の考察を加えてまとめとしたい。なお、時期区分については、これまでの成果との整合性を保つために、『当財団調査報告』第 190 集で示されている土器の変遷に基づくものとする。

### 2 古墳時代における大型の掘立柱建物跡について

今回調査した第 599 号掘立柱建物跡と、『当財団調査報告』第 174 集で報告されている第 55・57 号掘立柱建物跡は、ともに遺跡中央部の北寄り確認されている。それぞれの掘立柱建物跡については遺構の新旧関係や出土遺物などから、第 55・57 号掘立柱建物跡は 7 世紀後半、第 599 号掘立柱建物跡は 7 世紀代の年代としている。それぞれの掘立柱建物跡の規模については、表 11 のとおりである。

大型の掘立柱建物跡 3 棟のうち、最大規模は第 57 号掘立柱建物跡で、居宅と考えられている。東西面のそれぞれ南半部、及び南面の 3 面に庇を有しており、栃木県上神主・茂原遺跡の第 48 号掘立柱建物跡などに類例を見ることができる<sup>2)</sup>。山中敏史氏は、これを広島県大宮遺跡の類例も含めて、古墳時代からの建築技法が受け継がれたものと捉えており<sup>3)</sup>、7 世紀後半に位置付けられる本跡はそれを裏付けするものと思われる。第 55・599 号掘立柱建物跡は、総柱の建物であるため倉庫と考えられる。第 599 号掘立柱建物跡は、北妻と東平の外側に柵などの遮蔽施設や足場柱穴の可能性のある柱穴列が確認できているが、それらを裏付ける情報が遺構から得られないため、本報告での明言は避けておきたい。

表 11 古墳時代における大型の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規 模 桁×梁(m)	面 積 (m <sup>2</sup> )	柱間寸法		柱 穴				付属施設	時 期	備 考
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
55	J 9 a6	N - 15° - W	5 × 2	12.2 × 6.2	75.64	2.3 ~ 2.8	2.3 · 3.7	総柱	18	楕円形	53 ~ 90	SB56 との関連性あり	7 世紀後半	倉庫か
57	I 10i5	N - 14° - W	6 × 3	13.2 × 6.2	81.84	2.1 ~ 2.3	1.4 ~ 2.4	側柱	18	円形または楕円形	43 ~ 93	三面に庇 南妻側に柱穴2か所	7 世紀後半	居宅か
599	L 9 b1	N - 25° - W	5 × 2	12.4 × 5.4	66.96	1.8 ~ 2.0	1.8 · 2.1	総柱	15	円形または楕円形	10 ~ 49	北妻と東平側に 柱穴列	7 世紀代	倉庫か

### 3 6世紀後葉～8世紀中葉における大型の掘立柱建物跡周辺の集落の様相について（第59・60図）

集落の変遷については既刊の『当財団調査報告』にてまとめられているため、本稿については遺跡中央部に位置する第55～57・599号掘立柱建物跡周辺の遺構の様相について、若干の考察を行う。なお、第55～57号掘立柱建物跡については7世紀中葉、第599号掘立柱建物跡については周辺の竪穴建物跡の配置と主軸方向の検討から7世紀前葉として、それぞれ図化した。

#### 6世紀後葉

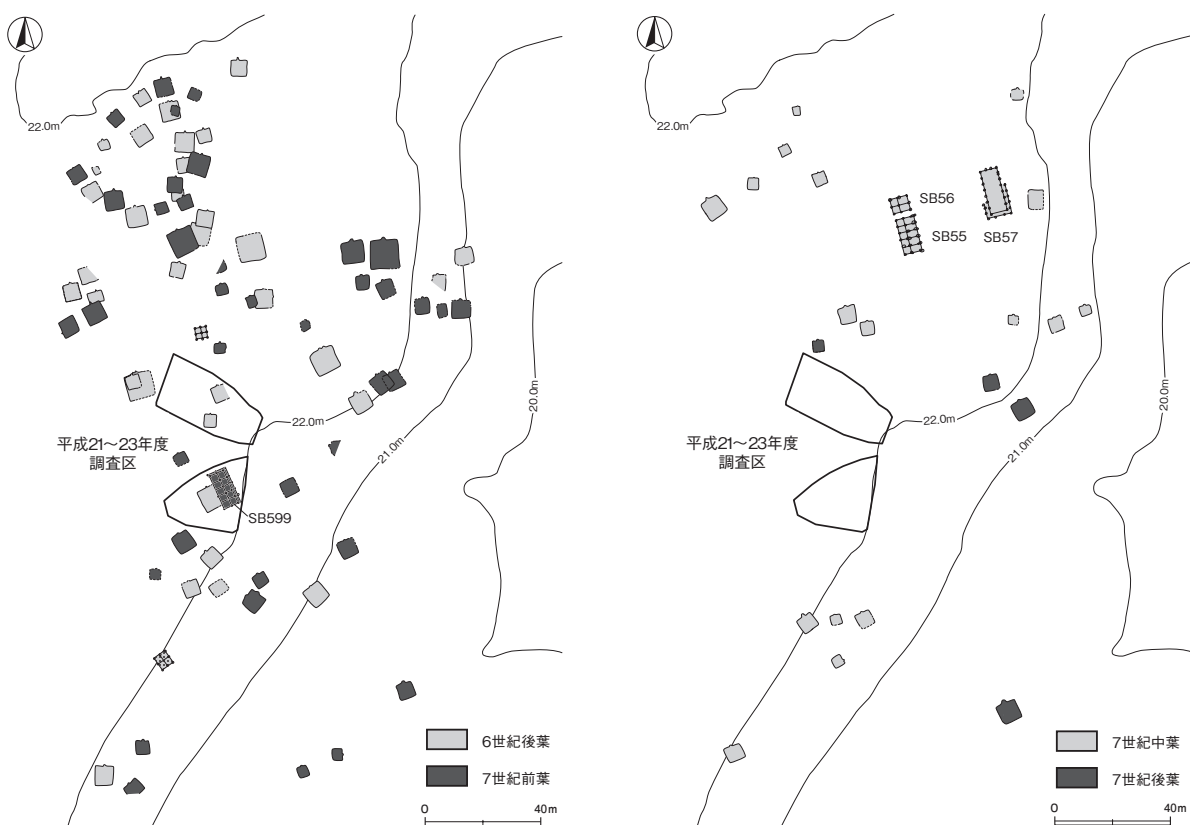
中央部全体に竪穴建物が建てられる時期で、大型建物1棟に対して小型建物数棟がその周辺に建てられる様子がみられる。中央部北西寄りの竪穴建物群は、『当財団調査報告』第389集で報告された、希少な須恵器を持つ古墳時代の集団にあたる<sup>4)</sup>。

#### 7世紀前葉

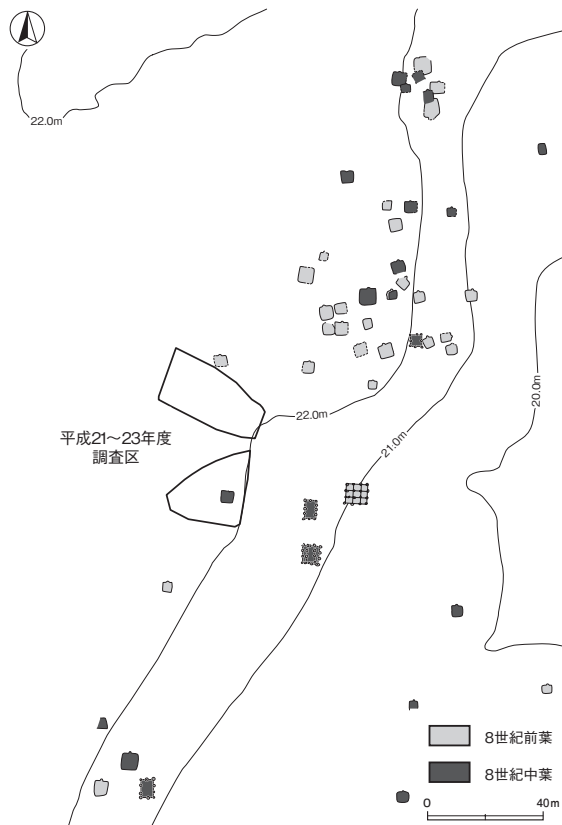
前代と同じく中央部全体に竪穴建物が建てられる時期で、大型の掘立柱建物1棟が建てられる。北西寄りにおける竪穴建物数は減少するが、反対に東寄りでの竪穴建物数は増加している。第599号掘立柱建物を囲むようにして、周辺には中小の竪穴建物が建てられる様子を見ることができる。

#### 7世紀中葉

中央部全体での竪穴建物数が減少する時期である。中央部北東寄りに2棟の大型の掘立柱建物が建てられ、前代の第599号掘立柱建物跡と同じようにして、周囲には中小の竪穴建物が建てられている。当遺跡全体での建物数が減少していく中で、新たに大型の掘立柱建物を建てていることから、『当財団調査報告』第190集で述べられているように<sup>5)</sup>、中央部には当遺跡における主要な集団が存在していたことが想定できる。また、前代に比べ、中央部全体における竪穴建物の規模が中型や小型のものとなる。



第59図 6世紀後葉～7世紀後葉における第55～57・599号掘立柱建物跡周辺の集落変遷図



第60図 8世紀前葉・中葉における第55～57・599号掘立柱建物跡周辺の集落変遷図

### 7世紀後葉

前代よりも建物数が激減する時期で、新たな大型の掘立柱建物が建てられない。時期の明らかな竪穴建物跡は4棟のみである。

### 8世紀前葉

再び建物数が増加し始める時期で、北東寄りにおける竪穴建物数の増加は著しい。6世紀後葉で見られた大型建物と小型建物のセット関係は見られず、中型及び小型の建物がまとまって建てられる。また、8世紀前葉以降、今回の調査区の南東方面で、律令体制に組み込まれたことによる方形区画の溝跡と付随する掘立柱建物群がL字状に配備されることとなり<sup>6)</sup>、中央部においてもその掘立柱建物群の北端を確認できる。

### 8世紀中葉

中央部全体での竪穴建物数の増加が停滞する時期で、北東寄りにおける竪穴建物数は前代より減少している様子が見られる。

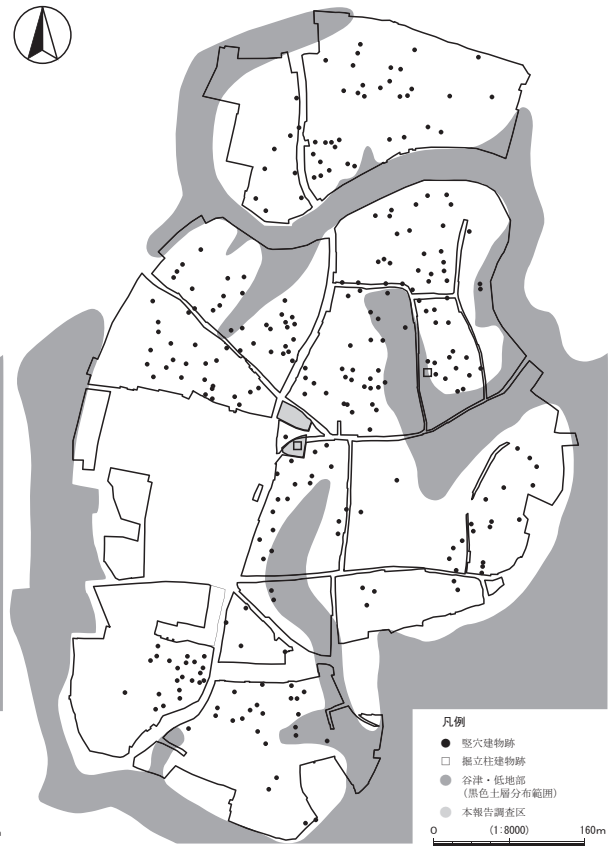
以上が6世紀後葉から8世紀中葉までの遺跡中央部における集落の変遷であるが、中央部北西寄り及び北東寄りを合わせた中央部北寄りにおいて、6世紀後葉から8世紀前葉まで断絶することなく建物が建てられる様子が伺えた。これは、遺跡中央部での集団の維持が顕著であると言い換えられ、ここに地縁的及び血縁的な有力者層の存在を読み取ることが可能である。また、8世紀前葉以降は小規模な集団を築くようになることから、『当財団調査報告』第190集で触れられているように、8世紀前葉における方形区画の造営に主導的な立場であったと考えられる当遺跡南東部の集団の台頭とともに<sup>7)</sup>、中央部の有力者層における勢力が衰退した結果という見方を持つことができる。これらのことから、第599号掘立柱建物跡及び第55～57号掘立柱建物跡は、中央部の有力者層の集団によって建てられたものと考えることができる。

#### 4 当遺跡における古墳時代の掘立柱建物跡の分布及び変遷について (第61図)

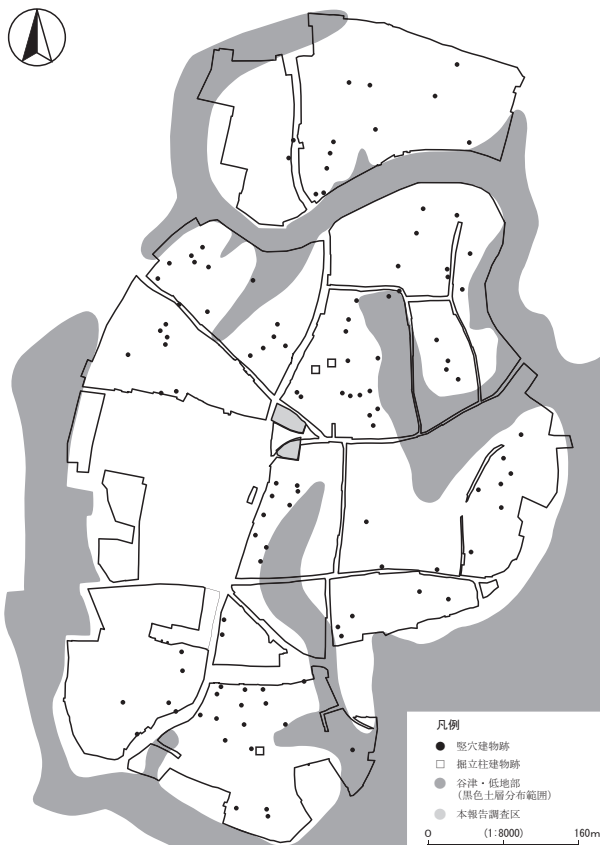
当遺跡全体における古墳時代の掘立柱建物跡について概観すると、6世紀後葉では北部と中央部に、7世紀前葉では北東部と中央部に、7世紀中葉では中央部と南部に、7世紀後葉では南部と南東部にそれぞれ掘立柱建物が建てられ、掘立柱建物を保持できる有力者層の台頭が北部から南部へと漸次的に動いており<sup>8)</sup>、8世紀前葉以降の方形区画の溝を造営した南東部の集団への再編につながっていったものとみることができる。また、規模や構造から倉庫と考えられる掘立柱建物跡は、6世紀後葉までは2間×2間<sup>9)</sup>、7世紀前葉以降は2間×5間及び2間×4間<sup>10)</sup>と規模が拡大しており、収納物の変化等によるものと考えられる。



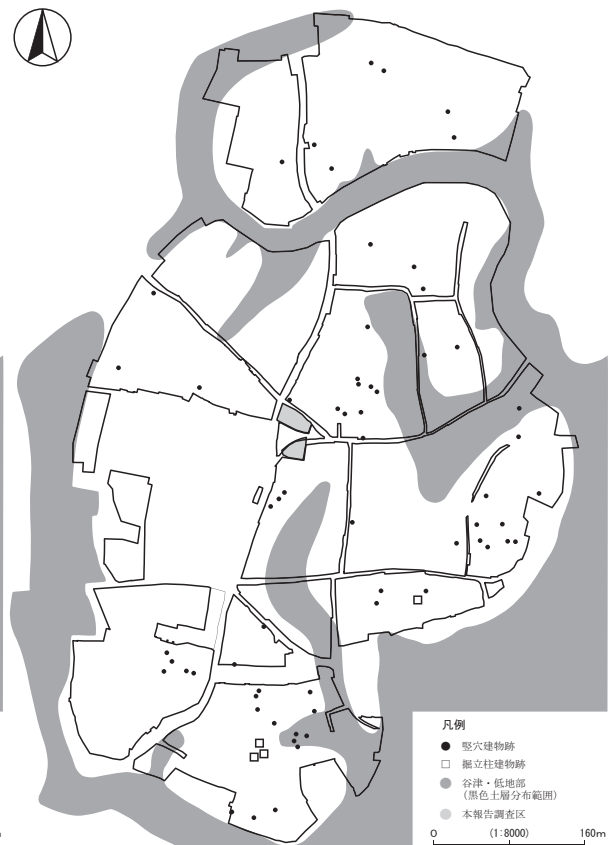
6世紀後葉



7世紀前葉



7世紀中葉



7世紀後葉

第 61 図 高名熊の山遺跡時期別遺構分布図 6世紀後葉～7世紀後葉 (『財団報告』第 389 集第 140 図に加筆)



## 5 おわりに

今回、古墳時代の大型の掘立柱建物跡について周辺の遺構とともに概観することにより、大型の掘立柱建物跡は当遺跡中央部の地縁的な有力者層によって建てられた可能性を示唆することができた。また、古墳時代の掘立柱建物とそれを保持できる有力な集団の台頭が、時代が下るにつれ、北部から南東部へと漸次的に動いていく様子を捉えることができた。今後は、その掘立柱建物跡の機能と役割についてさらなる検討が必要であり、今後の調査事例の増加とともに新たな情報の蓄積を期待しておわりとしたい。

## 註

- 1) 稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 2) 安永真一「上神主・茂原 茂原向原 北原東 北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅴ」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第256集 2001年3月
- 3) 山中敏史「Ⅵ-2 廂・縁・軒支柱」『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編 奈良文化財研究所』2003年3月
- 4) 『茨城県教育財団文化財調査報告』第389集によると、6世紀後葉から7世紀前葉までは竪穴建物数が前代よりも飛躍的に増加するが、7世紀中葉以降はほとんど竪穴建物が建てられないことがまとめられている。
- 5) 『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集によると、中央部の集団内の竪穴建物跡から鉄鎌や須恵器提瓶などが出土していることから、「単位集団としての優位性を窺うことができる」としている。
- 6) 既刊の『茨城県教育財団文化財調査報告』によると、8世紀前葉に1辺70mの方形区画溝が本調査区域より南東方面で巡り、溝の周辺には「官衙風の配置を持った規格性の高い掘立柱建物群」が建てられることが明らかにされている。
- 7) 『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集によると、8世紀前葉での当遺跡南東部の集団の竪穴建物跡からは、銅製鉸具や鍔鉾などの鉄製品が多量に出土していることなどから、「他の集団を優越していることは明らか」と述べられている。
- 8) 清水哲「鳥名熊の山遺跡の集落研究のための前提作業」『埋蔵文化財部 年報26』によると、当遺跡を『住居跡群A～F』に大別しており、今回のまとめで述べた「北部」は「住居跡群A」に、「北東部」は「住居跡群B」に、「中央部」は「住居跡群C」に、「南部」は「住居跡群E」に、「南東部」は「住居群D」に、それぞれ該当する。
- 9) 註1に同じ
- 10) 稲田義弘 飯泉達司「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集 2004年3月

## 参考文献

- ・ 檜村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 1992年7月
- ・ 新井聡・川村満博「(仮称)鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集 1997年3月
- ・ 小島敏・眞崎紀雄・白田正子「(仮称)鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集 1998年3月
- ・ 吉原作平・原信田正夫「(仮称)鳥名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集 1999年3月
- ・ 矢ノ倉正男・小林孝・川上直登「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集 2000年3月

- ・独立行政法人 奈良文化財研究所 『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編』 2003年3月
- ・茨城県考古学協会 『古代地方官衙周辺における集落の様相 -常陸国河内郡を中心として-』 2005年2月
- ・帝京大学山梨文化財研究所 『古代考古学フォーラム 掘立柱・礎石建物建築の考古学 -都城・官衙・集落・寺院における分析と研究法- 資料集』 2006年3月
- ・赤井博之・佐々木義則 「茨城県における須恵器の流通 -供膳器を中心とした須恵器の肉眼観察による産地同定と今後の課題-」 『婆良岐考古』 第28号 2006年5月
- ・桐生直彦 『考古学の原点 -遺物出土状態の分析集-』 2006年7月
- ・酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水哲 「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」 『茨城県教育財団文化財調査報告』 第280集 2007年3月
- ・小林和彦・近江屋成陽 「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩ」 『茨城県教育財団文化財調査報告』 第389集 2014年3月



第 62 図 島名熊の山遺跡平成 21 ~ 23 年度調査遺構全体図

写 真 图 版



第3122号豎穴建物跡出土土器



第3052号竖穴建物跡  
遺物出土状況



第3053号竖穴建物跡  
完掘状況



第3054号竖穴建物跡  
完掘状況

PL2



第3106号竖穴建物跡  
遺物出土状況



第3106号竖穴建物跡  
完掘状況



第3107号竖穴建物跡  
遺物出土状況

第3107号竖穴建物跡  
完掘状況



第565号掘立柱建物跡  
完掘状況



第43号溝跡  
土層断面



PL4



第3053・3106・3107号竖穴建物跡出土土器



第3118号竖穴建物跡  
遺物出土状況



第3118号竖穴建物跡  
竈完掘状況



第3118号竖穴建物跡  
完掘状況



PL6



第3122号竪穴建物跡  
ピット 2  
遺物出土状況



第3122号竪穴建物跡  
貯蔵穴  
遺物出土状況



第3122号竪穴建物跡  
完掘状況



第3117号竖穴建物跡  
竈遺物出土状況



第3117号竖穴建物跡  
完掘状況



第3119号竖穴建物跡  
遺物出土状況

PL8



第3119号竖穴建物跡  
竈遺物出土状況



第3119号竖穴建物跡  
完掘状況

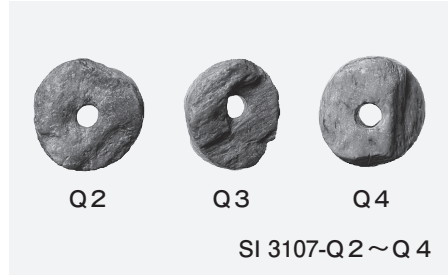


第3126号竖穴建物跡  
完掘状況



第3117・3118・3119・3122号竖穴建物跡出土土器

PL10



第3052・3106・3107・3118・3122号豎穴建物跡出土遺物

# 抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	島名熊の山遺跡							
副書名	島名・福田坪一体型特定土地画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第403集							
著者名	佐藤一也							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2015(平成27)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名熊の山遺跡 (平成21・22年度4区)	茨城県つくば市 島名字熊ノ山 1637番地ほか	08220	36度	140度	22	20090401	218㎡	島名・福田坪 一体型特定土 地区画整理事 業に伴う事前 調査
		-	6分	6分	~	~		
214	21秒	17秒	23m	20090930	343㎡			
	(36度 6分 53秒)	(140度 5分 84秒)		20100401 ~ 20100630				
島名熊の山遺跡 (平成23年度8区)	茨城県つくば市 島名字道前 1640番地ほか	08220	36度	140度	22	20110401	264㎡	
		-	6分	5分	~	~		
		214	14秒	90秒	23m	20111031		
			(36度 6分 46秒)	(140度 5分 57秒)				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
島名熊の山遺跡 (4区)	集落跡	古墳	竪穴建物跡	6棟	土師器, 土製品, 石製品,			
			掘立柱建物跡	2棟	鉄製品, 銅製品, 鉄滓			
		時期不明	竪穴建物跡	1棟	土師器, 須恵器, 陶器			
			土坑	7基				
			道路跡	1条				
			溝跡	2条				
			ピット群	1か所				
島名熊の山遺跡 (8区)	集落跡	古墳	竪穴建物跡	6棟	土師器, 須恵器, 土製品			
			掘立柱建物跡	1棟				
		奈良	竪穴建物跡	3棟	土師器, 須恵器, 鉄製品			
		平安	竪穴建物跡	2棟	土師器, 須恵器			
		時期不明	竪穴建物跡	1棟	土師器, 須恵器, 陶器,			
			土坑	11基	土師質土器, 石器			
			溝跡	5条				
			ピット群	1か所				
要約	これまで、竪穴建物跡2499棟、掘立柱建物跡414棟が確認されている県内最大級の集落跡である。今回報告の調査区は、遺跡中央部の台地上で、古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡のほか、古墳時代後期における5間×2間の総柱の掘立柱建物跡を確認した。							

## 印刷仕様

編集 OS Microsoft Windows 7  
Home Premium ServicePack1  
編集 Adobe InDesign CS5.5  
図版作成 Adobe Illustrator CS4  
写真調整 Adobe Photoshop CS4  
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000  
図面類 EPSON ES-10000G  
使用Font OpenType リュウミンPro・L  
写真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上  
印刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第403集

### 島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業  
地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

平成27（2015）年 3月13日 印刷

平成27（2015）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 (有)川田プリント

〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53

TEL 029-253-5551